

科目名	宗教学の人間学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	福島 寅太郎		
開講期	後期		
授業概要	宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報をも取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀礼、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義では宗教学のそうした諸課題を紹介し、とくに人間学としての宗教学の流れに注目したい。今年はさしあたり「宗教から見た人間」について考えてみることになる。人間とは何か。宗教学の観点からの諸々の思索を紹介してみたい。		
達成目標	「到達目標」 ・宗教学的”ものの見方”を理解する。 ・宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ・紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解すること。		
受講資格	家政学部人間生活学科 1年	成績評価 方法	試験成績（60点）出席状況（60%以上）・授業への理解度8割、合とする。
教科書	特に指定しないが、必要に応じて、プリントを配布する予定。		
参考書	岸本英夫『宗教学』、大明堂出版。『生活禅のすすめ』、山喜房佛書林出版。いずれも本学付属図書館に所蔵がある。		
学生への要望	・授業に積極的に参加すること。 ・ノートをこまめにとること。		
オフィスタイム	火曜日以外、毎日の昼休みが対応可能。		
自学自習	・事前学習：当日の内容についての予習を忘れずにしてください(1時間)。 ・事後学習：与えられた課題を期間内に完成すること(1時間)。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	宗教の分類	宗教にはいろいろなタイプのものがある。宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。
2	神中心の宗教	神に視点をおいてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神論的宗教と無神論的宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。
3	人間主義的宗教	人間に視点をおいてみると、宗教の中には、人間中心のものがああり、いわゆる権威主義的宗教と人間主義的宗教がそれである。
4	神秘主義的宗教と預言者の宗教	東洋の禅仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の預言者の宗教を取り上げて分析する。
5	汎神論的宗教	神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。アニミズムの理論に着目し、自然観をも考えてみたい。
6	民族宗教と世界宗教	それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教のとの関わり方を明らかにしたい。
7	人間観と救済観	民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。
8	信仰の担い手	個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。
9	幸福観	幸せとは何か。幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。
10	世界中心の思想	ミルチャ・エリアーデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。
11	救済の原理と価値観の転倒	民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。
12	死生観	民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。
13	宗教的人間（1）	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。
14	宗教的人間（2）	前回に続き、「宗教的人間」の問題を考え、全体的な総括を行う。
15	まとめ	全体のまとめ。試験については、前の週の授業において指示する。

科目名	哲学的人間学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	関川 悦雄		
開講期	後期		
授業概要	本授業のねらいは、前期で哲学的人間論を講義したので それを基礎にしてにさらに思想的思索をを深めて行くことにあります。前期では、歴史上の哲学者が人間をどうとらえたか、たとえば「人間は考える葦」(パスカル)とか、人間は知性的に行動するとか、人間は自由意志をもつ等などを取り上げました。本講義は、哲学的人間学に関する著書を著したボルノーを中心に進めて行きます。		
達成目標	1 受講者はボルノーの考え・思想をまとめ、発表することができたか。 2 受講者はボルノーにあつては「人間をどうとらえたか」という人間像を把握できたか。 3 受講者はボルノー思想に関する講義を聴いて、最終的にご自身の「人間としての生き方やあり方」を述べることであったか。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	毎回、ワーク・シートの活用か、ゼミ形式で発表スタイルをとるか、いずれかの方法で評価する。評価内容は、事前調べ・レジュメ作成・発表・討議など、とする。
教科書	ボルノウ・ブレスナー著/藤田健治他訳『現代の哲学的人間学』（白水叢書4、白水社、1976年、2002・2005年復刻版もあり）。ボルノー著/峰島旭雄訳『実存哲学と教育学』（理想社、1966年、再版もあり）。いずれの著書も学内の図書館にある。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要望する。専用のノートを準備すること。		
オフィスタイム	随時、時間のあるときに相談に応じるので、右記のメール・アドレスで事前のアポをとること。ugg28553@m4.dion.ne.jp		
自学自習	シラバス各回の項目に沿って、テキスト各章の各小見出しごとに、その内容を熟読すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義ガイダンス	授業の進め方やワークシートの活用、成績評価の付け方、班別討議の仕方などを説明する。少人数の受講者数の場合は、ゼミ形式（事前調べ・発表・質疑応答の一連の流れ）をとります。いずれにするかは、受講者の皆さんと相談の上、決定する。
2	哲学的人間学（1）	序—哲学的人間学に関する見方・定義（1）。
3	哲学的人間学（2）	序—哲学的人間学に関する見方・定義（2）。
4	ボルノウの思想（1）	ボルノウの哲学的人間学のモデル。
5	ボルノウの思想（2）	ボルノウの哲学的人間学の方法的原理。
6	ボルノーの実存哲学と教育学（1）	序論—出発点としての実存哲学、二つの根本的な教育観、教育における非連続的形式の可能性。
7	ボルノーの実存哲学と教育学（2）	危機（1）—身体的・精神的発達における非連続的事象、危機の本質はなにか、病気における危機。
8	ボルノーの実存哲学と教育学（3）	危機（2）—道徳的危機、生における危機の位置、危機にたいする教育学態度。
9	ボルノーの実存哲学と教育学（4）	覚醒—教育学的概念としての覚醒、肉体的・感覚的事象、覚醒の教育学側面。
10	ボルノーの実存哲学と教育学（5）	訓戒—問題提起、訓戒と想起、命令・訓戒・呼びかけ。
11	ボルノーの実存哲学と教育学（6）	助言—生活における助言の役割、助言と決断、教育としての助言。
12	ボルノーの実存哲学と教育学（7）	出会い（1）—出会いの概念（出会い、あたらしい出会い概念の二つの段階、二つの出会い概念の相違、出会いの実存的概念）。
13	ボルノーの実存哲学と教育学（8）	出会い（2）—教育学上の問題としての出会い（出会いと陶冶との対立、出会いと陶冶との補助関係、教師との出会い）。
14	ボルノーの実存哲学と教育学（9）	教育における冒険と挫折—教育の本質的契機としての冒険、試行・賭け・冒険、教育への転用、挫折。
15	授業のまとめ	ボルノー思想の学習を通して何を学んだかをまとめる。

科目名	人間発達学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修	
担当教員	堀 琴美			
開講期	前期			
授業概要	人は生涯にわたって発達を続けます。成人後も老年期も、人間として成長し、円熟し、次の世代を育てて、いのちのバトンをつないでいきます。また、子どもの成長と発達は、様々な発見と驚きに満ちた、奥深い世界です。この授業では、発達心理学の基本的な知識を学ぶと同時に、最新の話題と情報を取り入れながら、人間の発達と成長について考えていきます。			
達成目標	【達成目標】 ①エリクソン、ハヴィガースト、ピアジェなど、主要な発達理論を理解する。 ②子どもの成長の過程（身体、運動機能、認知、感情、知能、精神）を理解する。 ③愛着理論や母子関係の理論、子ども虐待、愛着障害など、重要な概念を理解する。			
受講資格	人間生活学科 2年生 (生活総合コースは必修)	成績評価 方法	期末試験または期末レポート (80%) 発言内容・受講態度、普段のレポート (20%)	
教科書	授業でレジュメや資料を配布する。			
参考書	テーマ別に授業で紹介する。			
学生への要望	授業では、理解を深め、身近なものとして感じることできるよう、できるだけグループ討論や・ワークやディスカッションを多く取り入れたいと思います。積極的に参加して、おおいに意見を交わしてください。			
オフィスタイム	水曜IV限、木曜I限、臨床心理学研究室。			
自学自習	事前学習：キーワードを調べてノートにメモをする。あるいは、参考文献の関連箇所を読んで理解しておく。 事後学習：授業の中で出てきた重要な概念や用語については、ノートを確認して、必ず覚えておくこと。また、不明な用語は調べてノートに記録しておくこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法などについて。 発達心理学とは何か。
2	発達理論	代表的な理論家たち（フロイト、ハヴィガースト、エリクソン等）の発達理論を紹介します。
3	子どもの発達 I	発達心理学のはじまり、昔の「子ども観」、発達の評価、遺伝か環境か。 赤ちゃんの力。生理的早産、視覚・聴覚・嗅覚、原始反射、新生児模倣、言葉の準備などについて。
4	子どもの発達 I 乳児期 (0～1歳)	はいはいから歩行へ。言葉の獲得。睡眠の変化。噛む力と離乳食など。
5	子どもの発達 II 幼児期 (2～3歳)の発達	自我のめざめと反抗期。言葉の発達。認識の広がり「ごっこ」遊びなど。
6	子どもの発達 III 幼児期 (4～5歳)の発達	子どもの思考能力（ピアジェ）、自己中心性、子どもの描く絵、言葉と文法、ルールの学習など。
7	子どもの発達 IV 児童期の 発達	ギャングエイジ、兄弟の影響、知能検査、やる気を育てる、同調圧力、いじめなどについて
8	子どもの発達 IV 子どもの 道徳性の発達	コールバーグ、ギリガン、バンデューラの理論、反抗期「恐怖の2歳児」、こころの理論などについて。
9	青年期・成人期・高齢期の 発達	アイデンティティの獲得、モラトリアム、青年期の心理的危機と精神疾患。 人生のパートナーを探す、次世代を育成する、人生を振り返る、などについて。
10	愛着理論 I 愛着と基本的 信頼	ボウルビイの愛着理論、エインスワースの安全基地、神経ネットワークの発達からみる愛着の形成など。
11	愛着理論 II 愛着と共感す る力	愛情ホルモンの機能と役割、物マネ神経細胞の発見、共感する力や想像力はどのように育まれるのか、など。
12	愛着障害と虐待	反応性愛着障害、虐待された子ども、親の養育を支援する、などについて。
13	ネグレクトの影響	ネグレクトの種類、感受期、言葉の獲得、「犬に育てられた少年」を取り上げます。
14	発達のつまづき	発達障害とは、アスペルガー障害（事例）、支援の方法、サヴァン症候群などについて
15	まとめと補足	まとめ、補足説明、掘り下げ討論など。

平成30年度

科目名	生理学的人間学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
担当教員	西山 慶治		
開講期	後期		
授業概要	人体を構成する基本的構造と機能を学ぶため、細胞、組織、器官並びに系統別レベルで学習する。それによりヒトが進化して現在の構造と機能を獲得する過程で、人体に具現された自然の法則を学ぶ。		
達成目標	人体について構造と機能を理解し、さらに人類の進化を学習することによりヒトを客観的に概説できる。		
受講資格	本学に在籍して、高等教育を積極的に学修する意欲があること。	成績評価 方法	理解度確認小テスト40%、期末試験60% 合計100%(100点)
教科書	講義プリントを配布して使用		
参考書	シンプル解剖生理学(河田光博、樋口隆:南江堂)、入門人体解剖学(藤田恒夫:南江堂)		
学生への要望	人体の構造と働きを学び、ヒトの存在について考える。		
オフィスタイム	水曜日と木曜日の放課後(5校時以降)に家政学館3階解剖学研究室において。 不在の時にはメモを残すこと。		
自学自習	学習の要点集を配布する。各回の実習の要点を予習するのに1時間、さらに実習後の復習に1時間、合計2時間を予習・復習にあてる。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	人体の構造と機能、総論	人体とは、自然の法則が人体を借りて具現化されたものである。その法則を人体の基本構造と機能から学ぶ。
2	人類の進化と比較解剖・生理学	人類の進化と動物の比較から、機能の発達を学ぶ。
3	組織・細胞学総論	人体を構成する上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織並びに細胞について学ぶ。
4	運動器系	骨格と筋肉の形状と働きを学び、組織構造と機能、発生、経年変化からヒトの特徴を理解する。
5	消化器系	消化器の構造と働きを学び、栄養の摂取と代謝について理解する。
6	呼吸器系	呼吸器の構造と働きを学び、酸素の吸収と代謝について理解する。
7	循環器系	循環器の構造並びに働きを学び、体液の循環とその意義を理解する。
8	泌尿・生殖器系	泌尿器と生殖器の構造、働き並びに性差について学ぶ。
9	内分泌系と自律神経系	自律機能の調節にあずかる内分泌と自律神経の2つの系統の構造と機能、並びにそれらの協働機構を学ぶ。
10	神経系	人体の機能を統括して調節を図る神経系の概略を理解して、ヒトの高次機能を学ぶ。
11	感覚器系	人体の内外の情報を収集する器官を学び、その特徴を理解する。
12	ヒトの発生	ヒト発生の過程を概説し、「個体発生は系統発生を繰り返す」(E. Haeckel)はどこまで正しいかを確認しよう。
13	生と死、老化と寿命	発生の瞬間から死に向けての過程が始まる。老化と寿命、細胞死、再生、修復、尊厳死について学ぶ。
14	大脳生理学、概日リズム	脳を中心とした日内リズム(概日リズム)を学び、人間生活のリズムを見つめてみよう。
15	授業の質疑応答、まとめ	進化の頂点にいと考えられるヒトの特長、ヒトが未だ進化過程と考えられる点、それらの複合体としての人体を客観的にみる。その中に自然の法則を見出す。

科目名	家政学原論Ⅰ	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員	安田 純子		
開講期	前期		
授業概要	<p>家政学原論 (Principles Home Economics) は、家政学の領域において根本・基礎を学び、家政学関連科目における専門の各論の土台となる科目です。</p> <p>家政学原論Ⅰでは、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。家政学の歴史や発展、家政学の研究の目的・対象、研究の原理を学び、次いで家政学の理論を学びます。</p>		
達成目標	<p>家政学原論Ⅰでは、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。</p> <p>本授業では、人間を大切に考え、健全な(家庭)生活を求め、人間生活を総合的に捉え、生活上の課題に対する解決策をも考える家政学への誘いをし、専門的研究への道づけも目指します。</p> <p>履修カルテの評価項目：評価項目は、以下の3点です。</p> <p>①家政学の発祥と展開について、女性の生きる姿勢や勇気を学び、女性の教養観の葛藤や、その苦労や活躍を理解し、家政学の下地の理解につなげることができたか。</p> <p>②家政学の構造について問題を整理し理解できたか。</p> <p>③今日の(家庭)生活について見つけ直し、人間生活の真の豊かさとは何か、人間の成長にとって家庭の意義とは何かについて問題意識を深めることができたか。</p>		
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修 家政学部人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修 家政学部人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修 家政学部 食物栄養学科2年 2単位 必修	成績評価 方法	15回の授業に加え、小レポートと筆記試験を課す。100点満点で、筆記試験は60%、レポートは20%の配点、さらに、授業態度が真摯で熱心で積極的である方には合計点に加算し、満点は100点となる。
教科書	教科書は定めない。 尚、必要な文献は、毎回の授業中に教示する。		
参考書	関口富左編著「家政哲学」家政教育社 他授業中に参考書や資料名を挙げる。図書館にて参照。		
学生への要望	<p>学問的要望 授業は暗記ではない。考察できる力を養う。したがって、課題などに対して、図書館やインターネット等で調べ、常に今日的な社会的課題についての問題意識をもって自主的に考察を深めて欲しい。</p> <p>日常的要望(守るべきこと) 授業態度については、学生としての本分を貫き、飲食等の行為、スマホを離さない態度、隣人とのおしゃべりなどは厳禁であり、授業に集中すること。レポートは指定された日程を守り提出すること。</p>		
オフィスタイム	月曜日と木曜日の午後 場所は、創学館N0. 1研究室		
自学自習	新聞に目を通すなど常に今日的な社会的課題についての問題意識をもって自主的に考察を深める。 授業後、復習としてノート整理などをしてまとめておく。(合わせて2時間程度)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス 家政学への接近	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の構成と進め方 ・その他の説明、受講生の確認 ・授業への導入 家政学とはどういう学問か
2	家政学原論とは何か	1 家政学を知ること 家政学とは何か 家政+学 原論とは何か 2 家政学における原論の意味と必要性
3	家政学入門1 家政学の目的・対象・方法、定義	1 家政学の目的・対象・方法 2 家政学の定義
4	家政学入門2 家政学の領域と独自性	1 家政学の領域 2 家政学の独自性
5	家政学入門3 家政学発祥の経緯と変遷	1 家政学発祥の経緯 2 家政学の変遷

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
6	学問研究と研究者たちの姿勢（1）	1 学問研究と研究者たちの姿勢 先達から何を学ぶか （1）松島千代野先生 （2）亀高京子先生
7	学問研究と研究者たちの姿勢（2）	1 学問研究と研究者たちの姿勢 先達から何を学ぶか （3）関口富左先生
8	人間・福祉・自然を護る家政学	1 人間・福祉・自然を護る家政学 （1）人間を護る家政学 （2）福祉を護る家政学 （3）自然を護る家政学
9	生活の学としての家政学	1 生活とは一生活のとらえ方 （1）人はなぜ着るのかー衣服がもつ意味 （2）なぜ食べるのかー食物がもつ意味 （3）なぜ住むのかー住まいがもつ意味（住むということ）
10	家族と生活（1）	1 家族とは何か （1）家政学がみる家族 2 家族の起源 （1）家族の基本的概念
11	家族と生活（2）	1 日本社会における家族の変遷と諸問題 （1）核家族の進行と少子化 （2）家族構成の変化と高齢者世帯の増加
12	家庭生活と社会生活（1）	1 生活のバランス （1）ライフコースの多様化 （2）働くということ （3）家庭内の仕事（家事）と社会的労働
13	家庭生活と社会生活（2）	1 ワーク・ライフ・バランス （1）「仕事と生活の調和憲章」2007年 2 仕事と家庭経営 （1）時間と空間 （2）経済的自立 （3）健康で豊かな生活（豊かさとは） （4）多様な生き方・働き方
14	家政学のこれから（1）	1 諸問題 （1）家事の外部化の問題 ・家庭における既製品利用の拡大と危険性について （2）利便性と効率性に振り回される生活スタイル 2 社会貢献・復興と家政学
15	家政学のこれから（2）	1 ホスピタリティと家政学 2 人間守護 人間が生きるということ 家政哲学へ 3 全体のまとめ

科目名	家政学原論Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員	影山 彌		
開講期	後期		
授業概要	本講義は家政学の学問的基礎を確立するために、家政学を哲学的に究明し、家政哲学を樹立した。このことは、家族生活並びに個人の生活、即ち家政学の拠り所となる家政学原論を成立させる。従ってその重要性を捉え、家政学の本質を敷衍する。よって、この本質的視点より人々の生活の安定性へ寄与することを意図し且つ生活への還元を図る。		
達成目標	【履修カルテの評価項目】 ①家政学の定義が理解できたか。 ②家政学における空間性・時間性についてどのくらい理解できたか。 ③「住むとはどんなことか」について理解できたか。		
受講資格	人間生活学科2年生 食物栄養学科2年生	成績評価 方法	受講態度（10%）、レポートあるいはテスト（90%）
教科書	関口富左編『家政哲学』家政教育社		
参考書	関口富左編『人間守護の家政学』家政教育社 この参考書は 図書館にありますので、読んでください。		
学生への要望	予習、復習更に疑義等の解明について討議できるように種々の疑問点をす提起すること。		
オフィスタイム	(影山) 金曜日を除く昼休み (12:00~12:50) 創学館4階No.2研究室 (深谷) 火曜日(12:00~12:40)教務部		
自学自習	予習：当日の内容を配付資料で確認しておくこと（1時間） 復習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめをする（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	家政から家政学へ	家政学原論とは何か、家政学概論とは何か、原論と概論の違いについて意味内容の違いについて学びます。家政から家政学への歴史について学び、また、日本の大学で家政学部から名称変更になった大学とその理由について話します。 本学の家政哲学研究の歩みと東北北海道地区の家政学原論開講状況について話します。
2	家政学の定義	先学者の定義の比較と意味内容の検討をします。 日本家政学会の定義、黒川喜太郎氏、松平友子氏、小池行松氏、中原賢次氏、林太郎氏、山本キク氏、林太郎氏、野口サキ氏、原田一氏の家政学の定義と関口富左氏の定義を比較します。そこから関口富左氏の定義は、個人や家族に視点があてられていること、また家政学は人間守護の学、という家政学の中心概念について理解します。
3	家庭生活と人間	文学作品、森鷗外『半日』における家庭を読み、主人公は家庭に何を望んでいるか、また家庭を存続させるには家庭には何が必要か、家族の役割を学びます。また夏目漱石『道草』における家庭を読み、その文学作品から、主人公は家庭に何を望んでいるか、また子どもは家庭に何をのぞみ、子どもが育つためには何が必要かを学びます。
4	ボルノーの被護性と本家政学における「人間守護」	本学家政学が、ボルノー哲学を拠り所として捉えた理由と、家政行為・技術の実態の内容の本質的意味について学びます。人間の生活の基本である住むことの哲学から、人間のよりどころとなる家庭や家族の本質を学び私たちの生活から人間を守護する方法を理解します。
5	ボルノーの住むことの意味について	ボルノーの住むことの意味について、「住むとは、世界のすべての道がそこから出。またそこに帰ってくるような一定の場所に属しており、そこから自分の世界を作り上げるということ、簡単に言えば居住地と呼ぶ。この居住地は秩序ある世界の中心であり、人間が住むことのできる限りにおいてのみ、人間の世界は一つを中心とともに整理され多秩序をもつものである」という言葉から住むこととは何かを具体的に学びます。
6	家政学と人間所在—居住空間の分析—	人間の体験的生活空間を「内部空間」と「外部空間」との二層に区切っている。内部空間は人間がそこへ帰り、その中で自分が安全だと観ずることができる休息と平和の空間であること、すなわち守護空間です。外部空間は労働と仕事の空間で敵意に満ちた緊張の中の空間であることを理解します。また、人間生活の健全さはこの、2つの領域の均衡が正しく保たれていることにかかっているというボルノーの言の意味について、事例をもって理解します。
7	家政学と人間所在—時間的分析と日常—	生活とは一つの空間を所有することであるが、それと同時に、時間の経過の中に身を置くことでもあります。人間存在における時間性の問題。主観・客観による時間の変化と日常生活の在り方を学びます。くつろいでいる時の時間は、可逆可能な時間、例えば回想・追憶・反省等々と時間をもどしたり、また静止させたりするなど自由な広がりを持つことができます。また、喜びに満たされている時の短いと感じる時間、苦痛を強いられている時の長いと感じる時間があり、これらの時間は主観的時間と言われます。他方、時計で計られる物理的な時間は客観的時間で言い表すことについて理解します。
8	家政学の独自性—二相性の解明—、家政学の研究方法論について	個人と家族、合理と非合理、内部空間と外部空間空間、主観的時間と客観的時間等々観点より捉え、これを実生活上より分析し、さらにその解明による実態確認をします。
9	現代の科学の動向	19世紀後半、イギリスで誕生した新しい科学の特色、概要について講じます。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	現代の科学に対する警告	個別化、高度化を進めてきた、科学に対する科学者自身による反省と警告について解説をします。
11	本学家政学のパラダイム (1)	本学家政学のパラダイムの概要を説明し、特に本学家政学の理念である「人間守護」について解説をします。
12	本学家政学のパラダイム (2)	本学家政学の対象及び対象空間について説明をします。
13	本学家政学のパラダイム (3)	本学家政学の方法論について説明をします。
14	本学家政学の政策論 (1)	本学家政学における政策論として、シビル・ミニマムの思想について解説をします。
15	本学家政学の政策論 (2)	シビル・ミニマムの内容が生活の充実を実現する条件であることを解説をします。

平成30年度

科目名	生活学原論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択	
担当教員	影山 彌			
開講期	後期			
授業概要	政治、経済、社会のそれぞれにおける活動は、本来の目的である、豊かな生活を必ずしも達成してきたとはいいがたい。こうした中で、ようやく昨今、生活や生活者の優先ということが言われるようになった。そこで、本講義では、生活に対する多面的な検討をとおして、真に豊かな生活の実現に向けて探究することにする。			
達成目標	個人生活、家庭生活、地域生活、国民生活、国際生活など、多様な生活場面を理解するとともに、家庭および地域の生活がより重要であることを認識できること。			
受講資格	人間生活学科（生活総合コース・建築デザインコース）	成績評価 方法	受講態度（20%）、レポートあるいはテスト（80%）	
教科書	特になし。 授業内容に関する資料を配布する。			
参考書	川添登『生活学の誕生』ドメス出版			
学生への要望	授業目標を毎回確認すること。			
オフィスタイム	金曜日を除く昼休み（12:00～12:50） 創学館4階No. 2研究室			
自学自習	予習：当日の内容を配付資料で確認しておくこと（1時間） 復習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめをする（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	生活学における原論の意味	原論が、その学問の学問としての要件を明らかにするものであること、そしてその点から、生活学の学問としての要件、すなわち、生活学の目的、対象、方法、意義、などについて講義する。
2	生活という概念	生活学の対象である生活について、その概念を、様々な見解から考えるとともに、（住むこと）、（生きること）、（くらすこと）という、3つのポイントからとらえる。
3	生活の範囲	生活が、個人、家庭、地域、国、世界とかかわりながら展開されることを捉える。
4	個人生活	個人生活が優勢になりつつある現状を捉え、その長所と短所について考える。
5	生活の外部化(1)	工業化の進展とともに、家庭生活が外部化されている現状を、子どもの育児、老親の介護その他を通して捉えるとともに、その功罪について考える。
6	生活の外部化(2)	男女平等をめざすスウェーデンにおける生活の外部化の現状とその問題点について考える。
7	生活の内部化	オランダにおける家庭の生活機能を護る取り組み、特に「ワッセナーの合意」のもつ意義について理解する。
8	生活概念における（住むこと）の意味①	生活の概念における（住むこと）の重要性について、G. バシュラールの考えを理解する。
9	生活概念における（住むこと）の意味②	生活の概念における（住むこと）の重要性について、O.F. ボルノーの考えを理解する。
10	生活の自立(1)	政治及び企業による生活保障機能が弱体化してきた今日、行政サービスや商品に過度に依存できないという現状の中で、生活の自立・自存が国民的課題になってきたことを考える。
11	生活の自立(2)	これまでのように、行政サービスや商品に過度に依存した生活が、逆生産性、シャドウワーク、行政管理、公害といった諸問題につながることを考える。
12	生活の自立(3)	生活の自立・自存を象徴するI. イリイチのいう「ヴァナキュラーな生活様式」について理解する。
13	生活とコミュニティ	地域におけるヒューマンな人間関係を形成し、豊かな関わりをもつ地域生活を意味するコミュニティについて理解する。
14	生活とシビル・ミニマム	豊かな地域生活を支える経済的、物理的条件であるシビル・ミニマム—社会保障、社会資本、社会保健—について理解する。
15	全体のまとめ	全体の総まとめを行う。

科目名	家族関係学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/短期大学部 専攻科化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	知野 愛		
開講期	前期		
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。教職(家庭科)の必修科目であるため、家庭科の「家族関係学」の学習領域を意識し、家族と福祉に重点を置いた内容とする。		
達成目標	①少子社会の定義や現状を理解している。②高齢社会の定義や現状を理解している。③5回の課題レポートを提出し、最終課題レポートをまとめて提出する。		
受講資格	人間生活学科4年生、食物栄養学科4年生、専攻科1年生	成績評価 方法	①課題レポート50点 ②授業中のリアクションペーパー10点 ③最終レポート40点
教科書	なし。プリントを配布します。		
参考書	その都度紹介します。		
学生への要望	課題レポート(宿題)の提出は5回ありますが、授業内容をこのシラパスで確認し、事前学習として主体的に学ぶことを求めます。		
オフィスタイム	火曜V限または木曜IV限、家政学館4階福祉情報専攻研究室		
自学自習	事前学習: 課題レポートの作成、課題レポートがない回には読んでくるべき資料を事前配布する(1時間) 事後学習: 次回の課題レポートの作成、課題レポートがない回には授業で学んだ資料からポイントをノートに箇条書きし要点を復習する(1時間) 最終課題レポートは、図書館へ行き関連図書を探し、独自性のあるレポートを作成すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の進め方と概要	シラパスに基づき、授業の内容と進め方、授業のねらい及び評価の方法について説明する。資料を配布し、家庭や世帯の定義、社会を構成する小集団としての家庭の意義について考える。
2	家族と法律	結婚・婚約、婚姻の要件、結婚の効果、親子関係の成立等に関する法律的側面について理解する。民法と比較して考える。課題レポート①「婚姻届の提出について」を調べて次回提出。
3	戸籍と家族	戸籍という面から家族を考える。課題レポート①「婚姻届の提出について」レポート課題提出を確認し代表者が発表する。戸籍に見る人の一生、戸籍の様式や記載内容、様々な事例について学ぶ。
4	戦後日本の人口変動	戦後日本の合計特殊出生率の変化、生産年齢人口や高齢者人口割合の変化等に注目し、家族の変化について考える。戦後のベビーブーム、高度経済成長期の家電製品の普及と家族の変化について考える。課題レポート②「少子社会とは何か」、各自で調べて次回提出する。
5	少子社会の現状	課題レポート②「少子社会とは何か」を提出確認し代表者が発表する。日本の少子化に関する統計資料を基に、少子化の定義、問題点等について焦点をあて、現代の家族の置かれている状況を考える。
6	中間振り返り・ポイント確認	家族の機能とは何かを考え、ここまで学んだ内容を振り返り、ポイントを確認する。課題レポート③「郡山市の子育て支援」について、各自で調べて次回提出する。
7	少子化と子育て支援	課題レポート③「郡山市の子育て支援」の提出確認をし代表者が発表する。少子社会における子育て支援の具体的事例を知り、子育て家庭の現状や家族の置かれている状況を考える。
8	地域における子育て	少子社会の背景の一つに母親の孤立ということが挙げられ、子育ての地域ネットワークづくりが重要である。子育て支援策を欧米諸国の事例から学ぶ。
9	家族が抱える諸問題(1)	経済的な問題、家族の不和、育児不安や虐待の問題等に焦点をあて現代の家族の置かれている状況を考える。課題レポート④「現代の家族が抱える諸問題」(1つのキーワードを選ぶ)ということ次回提出する。
10	家族が抱える諸問題(2)	各自が作成した課題レポート④「現代の家族が抱える諸問題」のレポートについて、全員が発表し全体で質疑応答する。
11	中間振り返り・ポイント確認	前回の討議の結果生じた疑問点などを話し合う。後半では、家族の形成と法律的側面、少子化の進展と子育て支援、現代家族が抱える諸問題という、ここまでの授業内容の確認と補足を行い、ポイントを確認する。
12	高齢化と世帯の変化	国勢調査の結果から、人口減少と世帯数の増加、世帯構造の変化に注目する。様々な事例を読み、高齢者とそれを取り巻く家族の様子を知る。その一方で、諸外国では高齢者の生活はどうなのかに目を向け、次回までに課題レポート⑤「諸外国での高齢者の暮らしと家族について」を作成する。
13	諸外国の高齢者について(発表)	課題レポート⑤「諸外国での高齢者の暮らしと家族について」のレポートについて各自が発表し全体で討議する。後半では諸外国の高齢者の生活を概観した資料を読みまとめる。
14	戦後日本の家族の変化と高齢者の生活の変化	戦後日本における家族の変化と高齢者の生活の変化に注目する。また、現在の要介護高齢者と家族を取り巻く社会状況の変化に着目する。最終レポートのテーマは「現代家族が抱える諸問題」(副題は各自が決めて焦点を絞ること)。
15	まとめ・振り返り	この授業を通して学んだ事項を振り返りまとめとする。家族の形成と法律的側面、少子化の進展と子育て支援、現代家族が抱える諸問題、高齢社会の現状、高齢者の生活、高齢者介護と家族について、内容を確認・補足し、授業のポイントを確認する。最終レポートを指定日時までに提出する。

科目名	生活経営学Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択	
担当教員	大泉 由美, 深谷 笑子			
開講期	前期			
授業概要	本授業では、人と物の関わりにおいて、人間を中心とし、人間の生活を護り、一層向上させるため様々な分野の学問研究をも駆使し、健全な生活を築くために多面的な考え方を学ぶ。 「人間守護」の理念に基づく家庭（内部空間）と社会（外部空間）の調和ある生活は、価値観の多様化傾向が時間の経過とともに広がる現代社会には不可欠な課題である。そこで、生活経営の基本的要因である「人・物・財貨（金）・時間」を中心に家庭・社会の両空間の調和ある望ましい生活経営の在り方を考える。			
達成目標	①内部空間と外部空間が密接不離であることが理解できる。 ②私たちは、組織の中にいることが理解できる。 ③家庭経済の仕組みが理解できる。			
受講資格	人間生活学科 2年生以上	成績評価 方法	テスト60%、授業中の課題20%、 受講態度（発表含む）20%	
教科書	必要に応じて資料を配付する。			
参考書	『新しい生活経営学』関口富左・関口修共著家政教育社出版 『家政哲学』関口富左編著 家政教育社 『組織の中の人間行動』三村敏子他著 有斐閣 『人間と空間』O.Fボルノー著 大塚恵一訳 せりか書房 その他適宜授業中に紹介する。			
学生への要望	・新聞や雑誌に目を通し、社会の状況に関心をくけてください。 ・多くの生活体験を通し、「よりよい生活」実現のために行動できるよう、積極的に授業に臨むんでください。			
オフィスタイム	深谷 月曜日12時30分～12時45分（教務部） 大泉 火曜日2限 木曜日1限 （創学館4階No.3研究室）			
自学自習	・予習：事前に出される課題について、書籍や新聞、インターネット等を利用して調べておく。（1時間） ・復習：授業内容をノートにまとめ、テスト等に備える。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・授業の概要と進め方の説明
2	人間の生活する空間	・本日のニュースの発表。 ・人間が生活するためには家庭(内部空間)と社会(外部空間)は密接不離な関係にあること、両者の関係が如何に重要な関係にあるかを基本テーマに理解する。
3	組織体①	・本日のニュースの発表。 ・組織体とは何かということを歴史的経過を踏まえ理解する。 ※組織とは何かについて予め調べておくこと。
4	組織体②	・本日のニュースの発表。 ・組織体の管理・運営方法、その基本的な要因を内部空間の健全なる発展に活用することを前提として、組織体の管理・運営を学び、併せて外部空間の組織的構成についてもその意義を考える。具体的に、企業の目標を達成するために組織各部署の役割を理解し、家庭の目的とどのように異なっているかを理解する。 ※学生は、一般企業、学校等の組織を調べ、組織図を書いてみる。
5	組織体③	・本日のニュースの発表。 ・前回に引き続き、組織体の管理・運営の方法を具体的に学習し、生活への活用について理解を深める。 ※ここ迄の学習の理解度を確認するためのレポートの提出を課す。
6	計画	・本日のニュースの発表。 ・計画とは何かを具体的に知ることは、家庭（内部空間）の安定確保と更なる発展を図るためにも不可欠な課題である。 ・計画の基本的な内容(意義)について学び、計画の中には長期計画と短期計画があることを解説する。 ・計画と予定の意味を理解する。
7	計画の限界	・本日のニュースの発表。 ・ここでは計画の限界を知り、如何にして計画を是正するかを考えると共に計画を内部空間の管理・運営に活用するかについて理解する。特に、今日の社会においては、自然災害等により、絶対がなくなり、何を信じてよいか分からない現状である。このような状況の中では、計画をしても限界があるので、そのような時に情報を多く持っていることが大切であることを理解する。
8	統制	・本日のニュースの発表。 ・人間は常に何らかの自己統制(管理)を行い周囲の人々との調和を図りつつ生活をしているが、組織体の健全な運営のためには意識的(規則・規程)に統制(管理)を行わなければならない。内部空間にあっても理性的な自己規制をはじめとして約束事(規則・規程)がある。人間が集団化し何らかの行為を行うには統制を図ることになる。統制について基礎的な知識を理解し活用できる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	経営の要因	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のニュースの発表。 ・これまで学習した基礎的な内容を更に深めるため、経営の要因である「人・物・財貨（金）・時間」について統制の在り方を項目別及び総合的に学ぶ。 ※ここ迄の学習の理解度を確認するためのレポートの提出を課す。
10	指導・リーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のニュースの発表。 ・人間が生まれ育つ過程では常に何らかの指導が行われている。家庭教育や学校教育・社会教育が例示されるが、外部空間の組織体にあっても組織体の目的を達成するため指導(教育)は重要な課題である。そこで私達の生活に必要な指導とは、どのような事なのかを基礎的に。リーダーシップは外部空間の組織体ばかりでなくあらゆる生活において大切な事柄である。ここでは、リーダーシップとは何かと云うことを学ぶ。もっとも身近な家庭のリーダーシップ、地域社会のリーダーシップについて考える。また、リーダーの成立、リーダーの資質、リーダーの影響力等多様な価値観が増幅される現代社会での指導的役割を果たすリーダーの重要性について考える。 ※内容について簡単な理解度テストをおこなう。
11	人間と時間、生活と時間	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のニュースの発表。 ・私たちにとって、時間は何物にもかえがたいほどの関わりがあるが、それにもかかわらず重要視されていないのは何故か。人間と時間 生活と時間について考える。
12	家庭経済	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のニュースの発表。 ・家庭経済の仕組みとして家計、家庭経済及び国民経済について学ぶ。家計を企業や政府とのかかわり度その重要性を理解する。
13	家計の構成・家計簿	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のニュースの発表。 ・総務省の『家計調査』のデータを利用し家計について考える。 ・家計簿のつけ方（PC使用）を実践しながら具体的なお金の管理ができる。 ・家族のライフステージに合わせて、家計の課題も変わっていくことを理解する。
14	消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のニュースの発表。 ・現代の消費生活や消費問題に理解を深める。 ・経済の高度成長と大量消費生活、「消費者」の登場と消費者保護、消費のサービス化と情報革命等について学び、生活者としてよりよい生活の在り方を考える。
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のニュースの発表。 ・講義内容の総括

科目名	消費生活論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘		
開講期	前期		
授業概要	大きく変化する社会情勢の中、消費者を取り巻く環境は変化し続けており、消費者問題の内容も時代とともに変貌している。現代における諸問題を把握し、日常生活の中の身近な問題として捉え、学生自らが安全・安心な生活を送ることができるようになることを目指す。 また、消費生活に関する法律、政策、行政や企業の取り組みを理解し消費者教育を実践できるようになることを目指す。		
達成目標	1. 消費者問題の実情を知り、課題を見出し、その解決策の方向性を見出すことができる。 2. 日常生活の中で実践することができる自立した消費者の育成のために学生自身の消費者力を高める。 3. 政策、法律、行政や企業の取り組み等を理解し、消費者力検定にチャレンジできるだけの能力を養う。		
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース、建築デザインコース 3年生	成績評価方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（消費者問題に関するレポート）70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	ハンドブック消費者2014（消費者庁企画課）他		
学生への要望	現代消費生活における課題を捉えるために、次のことを要望する。 ①新聞をよく読み、消費生活に関する記事を収集する。 ②消費者力検定に挑戦し、幅広い知識の習得を目指す。		
オフィスタイム	月曜日1コマ、2コマ、3コマ、金曜日4コマ、5コマ 経営管理工学研究室		
自学自習	事前学習：事前に渡したプリントを見て内容を理解する（1時間）。 事後学習：プリント・ノートを見直して内容の理解を深める（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的および授業計画について説明（内容、評価方法について等）し、消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識について学修する。
2	消費者問題の変遷	年代ごとにどのような消費者問題が発生したか概観し、様々な消費者問題の背景にある社会の情勢を読み取る。
3	消費者行政の変遷	消費者問題に対応してどのような政策が行われたか概観し、消費者問題に対処するための機関～消費者庁の誕生、国民生活センター、消費生活センターの役割～について学修する。
4	消費者の権利と責任	消費者基本法、消費者の権利と責任、消費者保護の概念について学修する。
5	自立した消費者を目指して ①契約とは	契約の意味、未成年者契約、契約に関するトラブルについて学修する。
6	自立した消費者を目指して ②経済	消費者契約法・特定商取引法について学修する。
7	自立した消費者を目指して ③食	食品の安全・安心、新しい食品表示制度について学修する。
8	自立した消費者を目指して ④生活用品	消費生活用製品安全法について学修する。 小テスト（1回目）
9	消費生活と環境～循環型社会のための法制度	持続可能な社会の構築と法律、グリーンコンシューマーの概念、持続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。
10	企業による消費者問題への対応	お客様相談室の役割について、いくつかの実例をもとに学修する。
11	行政による消費者問題への対応	消費生活センターと消費者トラブルの現状と課題について学修する。
12	消費者教育・啓発活動①	一般消費者に向けてどのような消費者教育が行われているか学修する。
13	消費者教育・啓発活動②	学校・地域においてどのような消費者教育が行われているか学修する。
14	公平かつ自由な競争の促進	独占禁止法、不正競争防止法、その他各種制度について学修する。
15	まとめ	消費者力検定とその内容について理解を深め、問題にチャレンジする。 小テスト（2回目）

平成30年度

科目名	社会調査法	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘		
開講期	後期		
授業概要	社会調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標とした。		
達成目標	社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。		
受講資格	家政学部 人間生活学科 3年生 短期大学部 専攻科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点 (15点×2回) ②課題 (レポート) 70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社		
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。		
オフィスタイム	月曜日1コマ、2コマ、火曜日1コマ、2コマ 経営管理学研究室		
自学自習	事前学習：次回の授業の内容をプリント等から確認すること (1時間)。 事後学習：ノート・プリントを見直して、授業の内容を復習すること (1時間)。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学修する。
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学修する。
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。 小テスト (1回目)
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。
13	データの集計方法	情報の集約、代表値 (平均) から相関係数について学修する。
14	調査報告とデータの管理	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。
15	まとめ	これまでの学修内容について確認と復習を行う。 小テスト (2回目)

科目名	保育学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択
担当教員	岡本 宏二		
開講期	前期		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>【到達目標】①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①子どもたちの発達や保育について、医学的・生物学的に理解することができたか。 ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。 ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>		
達成目標	<p>【授業の目的・ねらい】本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>【到達目標】①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①子どもたちの発達や保育について、医学的・生物学的に理解することができたか。 ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。 ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>		
受講資格	教職（中学・家庭科）履修者。	成績評価方法	①平常点（授業態度）30%、②途中課題（小レポート）30%、③試験40%、①～③の総合評価60点以上で合格とする。
教科書	指定なし。授業毎に資料配布。		
参考書	南山堂『新保育学(改訂5版)』著：岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子他2名		
学生への要望	遅刻・欠席をせず主体的に探究心をもって授業に取り組むこと。レポートや課題について分からないことは、積極的に質問をするように心がけること。		
オフィスタイム	家政学館4F被服学研究室 火（2）、水（1～3）、木（3）、金（1、2）以外は在室予定。不在の場合もありますので授業終了後確認してください。 藤田：月曜日 IV（14時30分～16時） 本館1階保健室		
自学自習			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法などについて説明する。
2	保育を学ぶ	1) 保育とは何か ※保育を学ぶ意義や必要性について理解し、自分の子ども時代を振り返りながら人間の発達について考えていく。
3	子どもの発達①	1) 母体の健康管理と子どもの誕生 2) 乳幼児の生理機能 ※子どもを産み育てる最も重要な内容を理解する。
4	子どもの発達②	1) 子どもの心身の発育・発達 ※近年の日本の状況や世界的な状況を比較して、考え方や取り組み方の違いなどを理解する。
5	子どもの発達③	1) 子どもの成長課程における愛着と自律について 2) 親（父親・母親）のかかわりと保育責任と役割 ※最新の情報を交えて親の保育責任として、子育て放棄が子どもの心身の成長にどのように関わっていくのか考えていく。
6	子どもの発達④	1) 子どもの言語・知能の発達 ※色彩から見られる症状や研究事例を取り上げて考えていく。
7	子どもの心とからだについて①	1) 子どもを取り巻く環境について ※生活様式の変化により、子どもの心とからだに起きている異変について研究事例から考えていく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	子どもの心とからだについて②	1) 子どもの睡眠と成長について ※子どもの心とからだの基本的健康づくりについて、休養面からアプローチして考えていく。とくに、近年の子どもの睡眠状況に着目し、その実態や問題点、また、対策などについて学習する。睡眠の必要性について、研究事例を取り上げて解説する。
9	子どもの心とからだについて③	1) 子どもの食事摂取について ※子どもの成長に合わせて必要とされる栄養について献立から考えていく。
10	子どもの心とからだについて④	1) 子どもの運動について ※子どもの成長には、運動も重要となる。原発事故により戸外で活動が制限されたことによって引き起こされた事例などを取り上げて、子どもの成長と運動について考えていく。
11	子どもとのふれあい	「保育体験学習」を通して、子どもについて理解を深める。
12	子どものあそび	1) 子どもの遊びについて ※子どもの遊びを通して、有効的な遊具の制作体験をする。
13	様々なタイプについて	1) 子どものタイプと対応方法について ※近年研究が進められている、子どものタイプについて理解を深め、対応方法などを検討する。
14	子育て支援	1) 児童福祉について 2) 子育て支援について ※近年の日本の実態や今後の課題について考えていく。
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学習する。

科目名	保育学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択
担当教員	岡本 宏二		
開講期	前期		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>【到達目標】①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解することができたか。 ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。 ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>		
達成目標	<p>【授業の目的・ねらい】本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>【到達目標】①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解することができたか。 ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。 ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>		
受講資格	教職（中学・家庭科）履修者及び上記対象学生。	成績評価方法	①平常点（授業態度）30%、②途中課題（小レポート）30%、③試験40%、①～③の総合評価60点以上で合格とする。
教科書	指定なし。授業毎に資料配布。		
参考書	南山堂『新保育学(改訂5版)』著：岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子他2名		
学生への要望	遅刻・欠席をせず主体的に探究心をもって授業に取り組むこと。レポートや課題について分からないことは、積極的に質問をするように心がけること。		
オフィスタイム	木曜日Ⅰ、Ⅱ（9:30～11:30）家政学館4F被服学研究室（難波）。不在の場合もありますので授業終了後確認してください。 火～金（12:00～12:50）833研究室（山上）		
自学自習			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(4/7・難波)	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法などについて説明する。
2	保育を考える(4/14・山上)	1) 未熟な状態で生まれるヒト ※保育の必要性を他の動物の生誕と比較して考える。
3	保育を考える(4/21・山上)	1) 文化の中の人間 ※ヒトは文化的環境の中で成長していくことを野生児の事例から学ぶ。
4	子どもの発達①(4/28・難波)	1) 母体の健康管理と子どもの誕生 2) 乳幼児の生理機能 ※子どもを産み育てる最も重要な内容を理解する。 3) 子どもの心身の発育・発達 ※近年の日本の状況や世界的な状況を比較して、考え方や取り組み方の違いなどを理解する。
5	子どもの発達②(5/12・難波)	1) 子どもの成長課程における愛着と自律について 2) 親（父親・母親）のかかわりと保育責任と役割 ※最新の情報を交えて親の保育責任として、子育て放棄が子どもの心身の成長にどのように関わっていくのか考えていく。 3) 子どもの言語・知能の発達 ※色彩から見られる症状や研究事例を取り上げて考えていく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
6	子どもの発達③(5/19・難波)	1) 子どもの運動について ※子どもの成長には、運動も重要となる。原発事故により戸外で活動が制限されたことによって引き起こされた事例などを取り上げて、子どもの成長と運動について考えていく。 2) 子どもの睡眠と成長について ※子どもの心とからだの基本的健康づくりについて、体養面からアプローチして考えていく。とくに、近年の子どもの睡眠状況に着目し、その実態や問題点、また、対策などについて学習する。睡眠の必要性について、研究事例を取り上げて解説する。
7	子どもの発達④(5/26・藤田)	1) 子どもの発達課題の理解 ※子どもの発達を理解し、同時に発達に伴う課題について学ぶ。
8	子どもの心とからだについて①(6/2・藤田)	1) 子どもの病気と対処法 ※子どもの主な病気と、家庭における子どもの症状に対する対処法を学ぶ。
9	子どもの心とからだについて②(6/9・難波)	1) 子どもを取り巻く環境について ※生活様式の変化により、子どもの心とからだに起きている異変について研究事例から考えていく。 2) 保育体験学習の事前指導。 ※子どもを観察して、子どもについて身近に考えてみましょう。
10	保育体験学習(6/11・難波)	1) 「保育体験学習」を通して、子どもについて理解を深める。 ※附属幼稚園 特別保育参観日を見学(学園第一体育館)
11	日本の幼稚園の始まり(6/19・山上)	東京女子師範学校附属幼稚園について知る。
12	日本の保育の始まり(6/23・山上)	倉橋惣三の保育論を学ぶ。
13	保育所の始まり(6/30・山上)	子守学校について知る。
14	子どもとのかかわり(7/14・難波)	1) 子どもの遊びについて ※子どもの遊びを通して、発達にあわせた遊びとはどのようなものか考えていく。1) 子どものタイプと対応方法について ※近年研究が進められている子どものタイプについて理解を深め、対応方法などを検討する。1) 保育実習 ※保育体験学習を通して、子どもについて理解を深める。
15	子育て支援と様々なタイプについて、保育学のまとめ(7/21・難波)	1) 児童福祉について 2) 子育て支援について ※近年の日本の実態や今後の課題について考えていく。 3) これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学修する。

平成30年度

科目名	海外生活実習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 1単位 選択
担当教員	阿部 恵利子		
開講期	通年		
授業概要	諸外国を訪問して様々な文化に触れるとともに、衣・食・住・福祉・経営・情報などの生活に関わる施設や研修先を訪れ、見聞		
達成目標	諸外国を訪問し、訪問国の文化の理解を深めることを目的とする。		
受講資格	人間生活学科 3年生	成績評価 方法	①訪問前調査20% ②訪問時の観察・交流・行動50% ③レポート30%
教科書	なし		
参考書	関係資料の配布		
学生への要望	訪問国や訪問先について調べ、疑問点を明らかにしておくこと。 また、訪問国の生活や文化について調べておくこと。		
オフィスタイトム	住居学研究室 月曜Ⅳ時限（14：30～16：00） 水曜Ⅳ時限（14：30～16：00）		
自学自習	諸外国の生活や文化について事前に調査し、理解を深める（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	海外生活実習の目的および訪問時期の説明を行う。 またこれまでの海外生活実習の訪問国を提示する。
2	オリエンテーション	海外生活実習の訪問国や訪問地域の候補を提示する。 また視察先の例を示し、これまでの実習先での様子を学ぶ。
3	手続き方法	旅行会社による積立や手続き方法の説明会を実施する。 また海外生活実習を行うための予備調査として参加希望調査・訪問希望地域調査を行う。
4	訪問国の選定	訪問希望調査結果を提示する。 初回の調査で訪問希望地域が多岐にわたっている場合には、 初回の希望調査結果の上位2か国ないしは3か国に限定した希望調査を行う。
5	事前学習	旅行会社による説明会を実施する。 訪問予定国の気候・文化・政治などを学び、訪問予定国に関する理解を深める。
6	渡航の意義	渡航に向けての手続きに関する説明会を行い、訪問日程などを確認する。 ビザやパスポートの役割などを理解し、その意味と重要性を認識することとする。 また電圧などが国ごとに違うことを理解し、国ごとに違いがあることを理解する。
7	訪問国の理解1	渡航直前の説明会を行う。 国際的にどのような問題が発生しているか国際状況を理解する。 また訪問地域と日本の文化・気候等の違いを再度確認する。 これらの確認により、日本が世界の中でどのように位置づけられているか理解を図る。
8	訪問国の理解2	渡航に際し、これまでの説明会や訪問国・訪問先について調べたことから生じ疑問をまとめる。 また出国時と入国時における手続きの違いや為替などについて学ぶ。
9	海外生活実習1	車窓から町並み等を観察することで、建築物や道路などの施設のの違いを確認する。 とくに日本の建造物と訪問国の建造物の差に注意を払い確認をする。
10	海外実習2	宿泊ホテル周辺を散策しスーパーマーケットなどで買い物をしてみることで、 販売されているもの、購入方法、通貨の違いを理解する。 訪問国の生活について実体験を通して学ぶこととする。
11	海外実習3	食文化の違いを理解するため、訪問国のマーケットを訪れ特産品や販売方法を確認する。 日本の食文化と比較することで、国ごとに特色があることを学ぶ。 また販売されている衣料品を観察し、日本との販売方法の違いや商品の違いが何か学ぶ。
12	海外実習4	福祉施設を訪問し、施設の状況や施設周囲の環境がどのようなものか学ぶ。 また施設の職員から制度や問題点について説明を受けて日本との制度の違いを学び、 日本での改善を行うための一助とする。
13	海外実習5	宗教と関わる施設（寺院など）を訪れ、建築物としての機能性を確認する。 またこれらの建造物を通して、宗教が文化や習慣及ぼす影響を確認する。
14	海外実習まとめ1	本訪問において学んだことを、衣・食・住・福祉・経営などの観点から整理する。 また訪問前に生じた問題について、どのような回答が得られたまとめる。
15	海外実習まとめ2	本訪問において学んだことを、衣・食・住・福祉・経営などの観点から整理する。 また訪問前に生じた問題について、どのような回答が得られたまとめる。

科目名	衣生活概論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	前期		
授業概要	人間が生活していく上で必要不可欠な衣生活に関して、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を総合科学的な視点で幅広く学ぶことにより、衣生活に関わる諸問題への対処が可能となる。		
達成目標	1. 被服の持つ機能・役割について理解できた。 2. 繊維の種類と特徴を理解できた。 3. 被服着用時における安全性上のリスクについて理解できた。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	配布資料		
参考書	「衣生活論」、小林茂雄他、(株)アイ・ケイ・コーポレーション(2008)他、(N02被服学研究室所蔵図書)		
学生への要望	自分および家族の衣生活実態と問題点を考えながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。		
オフィスタイム	火曜日(Ⅱ時限)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室		
自学自習	講義の最初に前回の講義内容や最近のトピックスについて関心を持った内容や項目について調査し、その結果と感想を発表し、討議する。 そのための事前学習、事後学習を各1時間実施すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	シラバスにそって授業の概要や達成目標、進め方や成績評価方法を説明する。授業を受けるにあたっては、身近な毎日の衣生活に関心を持つことが大切であること。そうすることで、講義内容の理解が深まること、などを解説する。
2	被服着用の目的と機能	主要な被服着用目的は、①生理的・物理的目的、②美的・心理的目的、③社会的目的、である。これらの被服着用目的と具体的な被服の着用事例とを結び付けて理解を深める。
3	衣生活実態調査の実施	各自の衣生活実態調査の課題を課すにあたり、調査目的と実施方法の説明を行う。 調査は、①所有被服枚数、②死蔵被服枚数(1年間着用しなかった被服)、③保管状況、④衣生活実態についての自己評価点とその理由、の各項目について実施する。実態調査をするにあたり、被服の保管の目的や方法を説明する。
4	実態調査結果の報告と問題点・課題の抽出	各自の衣生活実態調査結果を発表すると共に、他の学生の調査結果を聞き、各自の実態とを比較しながら、自分自身の問題点と課題を考える。
5	衣生活(被服)と環境(1)	死蔵被服を減少するという課題解決のために、被服と環境との関わりについて、ライフサイクルアセスメント(LCA)の考え方から考察する。 繊維、布や被服の製造と流通、生活者の被服購入、着用、手入れ・洗濯、保管、廃棄・リサイクルという被服のライフサイクル全体における環境との関わり(資源、エネルギーの消費と炭酸ガス他廃棄物排出)について学び、現在の自分の衣生活について考察し、環境負荷低減に向けた衣生活のあり方をまとめる。
6	衣生活(被服)と環境(2)	前回の授業内容を更に実生活に即して学ぶ。死蔵衣服や繊維原料の資源問題、廃棄とリサイクルなどの現状を考えながら、環境負荷低減を目指した衣生活行動を、5R(Reduce, Recycle, Reuse, Remake, Repair)の視点から考察し、具体的な実践行動を抽出する。
7	被服の生理的・物理的機能	人体生理、被服内気候、被服圧などから被服の快適性の意味を理解する。恒温動物の人間がどのような生理機能で恒温を保つか、そこにおける被服の役割を認識する。さらに、人体の形状と運動変形における動きやすい被服の条件、被服圧について理解する。また、高齢者や乳幼児、身障者の被服、スポーツ・労働用・農業・消防用、などの機能服の被服要件を学ぶ。
8	被服着用と安全性	被服は第二の皮膚といわれるように皮膚と直接接触するために、皮膚刺激やアレルギー等の皮膚障害上の安全性問題が存在する。さらに、被服の人体に対する安全性としては、静電気障害・燃焼障害やヒモ等の付属品による事故発生のリスクがあり、これらの発生原因とその対策を学ぶ。
9	被服の心理的・社会的機能	被服の心理的機能には、美しく装いたい、流行の服を着たいという装身の機能が考えられ、一方、社会的機能としては服装のシンボルとしての象徴性や風俗・習慣・道徳などの社会的規範による容儀の機能、が存在する。それぞれについて意味を知り、被服着用目的を再確認する。
10	被服の素材の種類と特徴	被服を構成する素材(繊維、糸、布)の種類と機能や特徴を学ぶ。実際に映像を見たり、布サンプルを手にとりながら理解を深める。
11	被服の製造・流通・購入(市場調査)	被服・繊維の製造・流通の歴史を学び、現状を把握し問題点を考察する。特に、現在の様々な流通経路を通じての被服購入のメリットやデメリットを明らかにする。 さらに、市場調査を実施し、被服に付けられている標示のわかりやすさや見やすさなどを生活者視点で評価
12	被服の着用による汚れ付着	被服着用による被服に付着する汚れの種類や付着状態、汚れの身体や被服への悪影響を学ぶ。また、汚れたままにしておいた場合のニオイ発生メカニズムについて学ぶ。
13	汚れ除去メカニズム	被服に付着した汚れの除去方法として、現在実施されている家庭洗濯とドライクリーニング洗濯の違いを学ぶ。より理解を深めるために実験、映像を用いる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	汚れ除去と被服の快適性を付与する剤の種類と特徴 (市場調査)	現在市販されている洗剤類、繊維・布・被服の機能を回復し快適性を付与する柔軟剤、糊剤、漂白剤などの種類と特徴、効果的な使い方を知る。 また、市場調査で店頭に並べられている洗剤類を見ながら、理解を深める。
15	総括	ヒト(生活者)とモノ(被服)、それを取り巻く環境との関係から健康・快適、安全・安心、環境負荷低減型衣生活をデザインするための要点をまとめ、将来の衣生活のあり方をまとめる。

科目名	被服管理学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉 コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	後期		
授業概要	被服の購入から廃棄までのライフサイクル全般において、安全・安心・快適、環境保全をめざした衣生活管理を自然・社会・人文科学の総合科学の視点から幅広く専門的に学び、家庭科教員としての指導力や個人の衣生活管理の向上をめざす。		
達成目標	①被服の生産段階における日本と世界の現状を理解する。 ②被服の購入及び手入れ時などの管理時において注意すべき取扱い絵表示、組成表示、その他の表示について理解している。 ③被服の保管時の問題点を理解している。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	配布プリント		
参考書	「被服整理学」(社)日本衣料管理協会(平成20年)、「衣服管理の科学」片山倫子編(建帛社、平成14年)、N02被服学研究室の所蔵図書		
学生への要望	日常の衣生活を問題意識をもってみつめること。		
オフィスタイム	火曜日(Ⅱ時限):N02被服学研究室 水曜日(全日):N02被服学研究室		
自学自習	毎講義開始後に前回の授業内容や最近のトピックスについて関心をもった内容や項目について調査し、その結果と感想を発表し、討議する。そのための準備をすること(事前学習と事後学習を合計して2時間)。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	シラバスにそって、授業の概要や到達目標、進め方や評価方法などを説明する。
2	繊維・被服の生産・流通	世界的にみた繊維の生産状況を知る。特に、ファストファッションの生産、流通の現状を把握し、考察する。ファストファッションの製造国での状況を映像で確認する。
3	被服の選択と購入	被服に関する法規制である「家庭用品品質表示法」、JISや自主規制などについて理解する。前回のファストファッション続き、ベトナムモン族の民族衣装や日本のゆかたの着装を映像で見ることにより、スローファッションのメリット・デメリットを考える。
4	購入方法に関する事例研究	各個人の被服購入経験の中で失敗事例を調査し、発表する。これらの失敗事例を問題点別にまとめ、購入時における課題をまとめる。衣料の計画的な購入、購入時のチェックポイント、消費者の義務と権利(消費者苦情)についても学ぶ。
5	着用と汚れ	着用による被服に付着する汚れの種類と成分、付着のしかたを繊維の性質との関係から学ぶ。また、汚れの人体と繊維に及ぼす影響を考える。
6	着用とニオイ	汚れがどのようにニオイに変化するのかその発生原因を学ぶ。ニオイと香りの科学を学び、最近の香りブームやスメルハラスメント等の問題点と課題に関して議論し理解する。
7	被服の色と変化、色の基本とカラーユニバーサルデザイン	染色の歴史と科学を学ぶ。被服の色は、着用や洗濯、保管時において色落ち、色移り、色泣きなどの変退色の変化が見られる。そのメカニズムを把握し、防止・予防方法を確認する。また、色の基本やカラーユニバーサルデザインについても理解を深める。
8	日本の染織文化(映像)	前回の講義内容をより理解し深めるために、日本の染織文化に関する映像を鑑賞し、感想を発表する。
9	被服の手入れ 家庭洗濯とドライクリーニング	家庭洗濯とドライクリーニングによる汚れ除去メカニズムの違いを知り、それぞれのメリット・デメリットを確認する。失敗事例から失敗しない洗濯手入れ方法を学ぶ。
10	洗剤の科学	洗剤の種類と成分、界面活性剤の種類と機能、汚れ除去のメカニズム、洗剤の歴史的変遷を学ぶ。
11	仕上げ剤の種類と特徴	洗濯後、繊維をおろし立ての状態に保つために様々な商品が市販されている。代表的なものは漂白剤、柔軟剤、糊剤等である。これらの製品の成分、種類、使用方法を実物を手にしながら学ぶ。 ①漂白剤:種類と特徴 漂白のメカニズム 使用方法 蛍光増白との違い しみぬきの原理と方法
12	被服の保管 (市場調査)	保管の目的、保管中の衣料の性能変化の原因、防虫・防かび、抗菌のための保管用具、防虫剤、乾燥剤などの種類と性能などを学び効果的な保管方法について理解する。さらに、市場調査により理解を深める。
13		日常使用しているタオルの望ましい管理について学ぶ。タオルの製造と種類、購入時の注意点、使用時の問題点、手入れと洗濯、保管の項目について各自が調査をして結果を発表する。タオルの望ましい管理についてまとめる。
14	被服管理の事例研究(2)	履物の望ましい管理について学ぶ。履物が足に合わないための外反母趾などの足の被害状況、履物の購入時の問題点や課題、着用時・手入れ・保管時の問題点を抽出し、望ましい履物管理についてまとめる。
15	総括・まとめ	本講義のまとめを行う。

科目名	衣造形学演習		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	難波 めぐみ			
開講期	前期			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 快適な衣生活を創造し実践できるよう生活空間の中での衣生活を見つめていく。また、実習制作を通しより良い衣生活の創成をするために必要なものとは何か考えていく。特に、本時では平面構成（和裁）とは何かという基本理念にふれながら、実習を通してその衣服の機能や形態を考察し、現在ほとんど着用されなくなった和服の存在について理解を深める。更に、これからの衣生活を構築する人材の育成を計るため、確実な技術の修得を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 和服の基本理念にふれながら、和裁技法を取り入れた基礎縫い制作及び大裁物単衣長着（浴衣）の制作を行う。実習を通して和服について理解を深め、確実な技術の修得を目指す。</p>			
達成目標	<p>①生活の中の衣生活が果たす大きな役割を理解することができたか。 ②平面構成（和服）とは何かを理解することができたか。 ③和服の機能や形態を理解して制作し、その技術を修得することができたか。</p>			
受講資格	教職（家庭科）履修学生及び上記対象学生。	成績評価方法	①平常点（授業に取り組む姿勢）20点 ②途中課題（基礎縫い、袖）20点 ③完成作品（基礎縫い、浴衣）30点 ④課題（レポート、テスト）30点 ①から④の総合評価60点以上で合格となる。	
教科書	被服構成実習（平面構成）担当者作成資料の配布。			
参考書	授業内で随時紹介。			
学生への要望	1. 遅刻・欠席をせずに主体的に熱心に取り組むこと。2. 実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3. 製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進度を揃え完成できるように心掛けること。			
オフィスタイム	火（Ⅰ、Ⅱコマ）、水（Ⅳコマ）家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認して下さい。			
自学自習	<p>予習：次回の実習内容を予習（シラバスの確認）し、専門用語の意味を理解しておくこと（1時間） 復習：新たに習得した技法がどこで使用されているのか調査し、ノートにまとめておくこと（1時間） ※授業終了時に、次週までの予習、復習について随時提示する。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	演習内容と留意事項(4/6)	1) 生活の中の衣生活について基本的理念を学ぶ。 2) 本時、平面構成（和服）について 3) 実習計画の提示 4) 必要材料・用具について説明 5) 平面構成とは何かを理解させ、和服の変遷を学ぶ
2	演習内容と留意事項(4/6)	1) 生活の中の衣生活について基本的理念を学ぶ。 2) 本時、平面構成（和服）について 3) 実習計画の提示 4) 必要材料・用具について説明 5) 平面構成とは何かを理解させ、和服の変遷を学ぶ
3	見本帳製作（技法を学ぶ）(4/13)	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、運針の仕方及び縫い方の実習。 b、くけ方。 ※針のもち方、縫い方の基本を修得する。
4	見本帳製作（技法を学ぶ）(4/13)	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、運針の仕方及び縫い方の実習。 b、くけ方。 ※針のもち方、縫い方の基本を修得する。
5	見本帳製作（技法を学ぶ）(4/20)	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、しつけのかけ方。 b、糸のとめ方、つぎ方など基本的な技法を学ぶ。
6	見本帳製作（技法を学ぶ）(4/20)	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、しつけのかけ方。 b、糸のとめ方、つぎ方など基本的な技法を学ぶ。
7	大裁物単衣長着製作(4/27)	1) 沿革 2) 各部名称及び寸法について 3) 仕立て上がり寸法の決め方 4) 材料・用尺について 5) 裁つ前の準備 ※日本の民族衣装である着物について、理解を深め伝えていける人材の育成を目指す。
8	大裁物単衣長着製作(4/27)	1) 沿革 2) 各部名称及び寸法について 3) 仕立て上がり寸法の決め方 4) 材料・用尺について 5) 裁つ前の準備 ※日本の民族衣装である着物について、理解を深め伝えていける人材の育成を目指す。
9	大裁物単衣長着裁断(5/11)	1) 裁ち方（柄合わせを説明し、縦・横模様、柄物などの裁ち方練習を行い、裁ち方、柄合わせ方法を学ぶ。） a、糸じるし、キズや染むらの確認。 b、裁ち切り寸法の確認をし積もる。袖4枚、身頃4枚、裁ち切り衿2枚、残り布の確認。寸法、枚数確認後、必ず担当教員の指示を受け裁断。※一反から着物ができる日本人の知恵を知り、裁断方法を修得する。
10	大裁物単衣長着裁断(5/11)	1) 裁ち方（柄合わせを説明し、縦・横模様、柄物などの裁ち方練習を行い、裁ち方、柄合わせ方法を学ぶ。） a、糸じるし、キズや染むらの確認。 b、裁ち切り寸法の確認をし積もる。袖4枚、身頃4枚、裁ち切り衿2枚、残り布の確認。寸法、枚数確認後、必ず担当教員の指示を受け裁断。※一反から着物ができる日本人の知恵を知り、裁断方法を修得する。
11	製作（背縫い、袖）(5/18)	1) 身頃背縫い 柄合わせを確認し、衿肩明きを確認後各自の寸法に合わせて切る。後ろ身頃の背を二度縫いする。 2) 袖の柄合わせ 背縫いの衿肩明きを右手に持ち手前にきせをかけてコテ（アイロン）を掛け、表にして

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	製作（背縫い、袖）(5/18)	1) 身頃背縫い 柄合わせを確認し、衿肩明きを確認後各自の寸法に合わせて切る。後ろ身頃の背を二度縫いする。 2) 袖の柄合わせ 背縫いの衿肩明きを右手に持ち手前にきせをかけてコテ（アイロン）を掛け、表にして身頃と袖の柄合わせをし、袖の身頃側に糸印をする。着物の柄合わせ方法を学ぶ。 ※着物の柄合わせ方法を学び、美しい着物の制作を目指す。
13	製作（袖完成及び提出）(5/25)	1) 袖の印つけ a、袖下袋縫いの中縫い。 b、本縫い。 c、丸みの整え方。 d、形の整え方。 e、袖口の三つ折りぐけ。 f、袖幅の決め方（同じ袖を作らないよう注意）。袖の形態を学ぶ。
14	製作（袖完成及び提出）(5/25)	1) 袖の印つけ a、袖下袋縫いの中縫い。 b、本縫い。 c、丸みの整え方。 d、形の整え方。 e、袖口の三つ折りぐけ。 f、袖幅の決め方（同じ袖を作らないよう注意）。袖の形態を学ぶ。
15	製作（身頃印付け、肩当て、居敷当て）(6/1)	1) 身頃の内揚げ 和服独自の仕立て方法を学ぶ。（内揚げとくりこしとは。） 身丈、肩幅、袖付け、身八ツ、後ろ幅の印をつけ、揚げ、襟肩明きの構成を学ぶ。 2) 身頃の印つけ 3) 肩当て、居敷当て 折り伏せ縫い方法を学ぶ。
16	製作（身頃印付け、肩当て、居敷当て）(6/1)	1) 身頃の内揚げ 和服独自の仕立て方法を学ぶ。（内揚げとくりこしとは。） 身丈、肩幅、袖付け、身八ツ、後ろ幅の印をつけ、揚げ、襟肩明きの構成を学ぶ。 2) 身頃の印つけ 3) 肩当て、居敷当て 折り伏せ縫い方法を学ぶ。
17	製作（衿印つけ及びつけ）(6/8)	1) 肩当て、居敷当て付け 肩当て、居敷当てを付ける意味を学ぶ。 2) 衿作り 衿の柄合わせをし、上前、下前を決め袷けをかけ、襟下を三つ折りぐけする。 ※前身頃と衿の柄合わせ方法をしっかりと身につける。
18	製作（衿印つけ及びつけ）(6/8)	1) 肩当て、居敷当て付け 肩当て、居敷当てを付ける意味を学ぶ。 2) 衿作り 衿の柄合わせをし、上前、下前を決め袷けをかけ、襟下を三つ折りぐけする。 ※前身頃と衿の柄合わせ方法をしっかりと身につける。
19	製作（衿始末・襟付け準備）(6/15)	1) 衿つけ、衿の始末をし、衿製作を学ぶ。 2) 衿つけの準備 a、上前の柄合わせをして、共衿と衿のしるしをつける。
20	製作（衿始末・襟付け準備）(6/15)	1) 衿つけ、衿の始末をし、衿製作を学ぶ。 2) 衿つけの準備 a、上前の柄合わせをして、共衿と衿のしるしをつける。
21	製作（襟の印付け及びつけ）(6/22)	1) 襟つけ a、襟つけのつけ方を理解し、まち針の打ち方を学ぶ。まち針の打ち方、つり合いを教員に確認後製作。 2) 襟の整え a、三つ襟芯を入れる（三つ襟芯を入れる意味を知る）
22	製作（襟の印付け及びつけ）(6/22)	1) 襟つけ a、襟つけのつけ方を理解し、まち針の打ち方を学ぶ。まち針の打ち方、つり合いを教員に確認後製作。 2) 襟の整え a、三つ襟芯を入れる（三つ襟芯を入れる意味を知る）
23	製作（襟の整え、脇縫い）(6/29)	1) 襟先整え（襟先留めを学ぶ） a、左右襟先の整え b、襟寸法を整え本ぐけ技法を用いて襟を留める。 2) 脇縫い a、脇縫いの後、脇の始末をする。
24	製作（襟の整え、脇縫い）(6/29)	1) 襟先整え（襟先留めを学ぶ） a、左右襟先の整え b、襟寸法を整え本ぐけ技法を用いて襟を留める。 2) 脇縫い a、脇縫いの後、脇の始末をする。
25	製作（脇始末）(7/6)	1) 脇始末。脇の縫い代に基礎縫い通りに耳ぐけし、脇の始末を学ぶ。
26	製作（脇始末）(7/6)	1) 脇始末。脇の縫い代に基礎縫い通りに耳ぐけし、脇の始末を学ぶ。
27	製作（裾作り、袖付け）(7/13)	1) 裾の始末 a、裾を整え三つ折りぐけ。 b、裾のつま先角の作り方。 2) 袖つけ a、左右の袖確認後つける。 b、袖の縫い代と肩当ての始末。
28	製作（裾作り、袖付け）(7/13)	1) 裾の始末 a、裾を整え三つ折りぐけ。 b、裾のつま先角の作り方。 2) 袖つけ a、左右の袖確認後つける。 b、袖の縫い代と肩当ての始末。
29	着装実習及び評価(7/20)	1) 着装実習 着装方法を学び、美しい装いとは何かを学ぶ。 2) 評価 a、仕上げ。 b、畳み方を学ぶ。 c、寸法確認後レポートを作成する。 ※評価方法を学び、教育者として指導していけるように学修する。
30	着装実習及び評価(7/20)	1) 着装実習 着装方法を学び、美しい装いとは何かを学ぶ。 2) 評価 a、仕上げ。 b、畳み方を学ぶ。 c、寸法確認後レポートを作成する。 ※評価方法を学び、教育者として指導していけるように学修する。

科目名	衣造形学演習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	難波 めぐみ		
開講期	前期		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 立体構成（洋裁）学を基に、平面裁断と立体裁断における裁断方法の違いを学び、作品完成の違いについての理解を深める。また、文化式原型、新文化式原型の製図方法を習得することにより、体型変化を理解し、機能にあった快適な着心地の良い作品作り、及び生活空間における衣の重要性を学ぶ。介護福祉士として快適な衣生活の提案ができるように知識と技術の修得を目指す。更に、教員養成対策として、立体構成の基本知識を深め、応用能力、多くの技術修得を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 立体構成と平面構成の違いを理解する。人体の理解を深め、製図方法を学ぶ。ブラウス・女兒服の製作を通し技術の修得及び、快適な衣生活を創造提案できるようにする。</p>		
達成目標	<p>①立体構成（洋裁）とは何かを理解できたか。 ②体の機能や形態を理解できたか。 ③立体構成（洋裁）技術の修得から、衣生活の新たな提案が可能となったか。</p>		
受講資格	上記対象学生及び教職履修、介護福祉士履修学生は必修	成績評価方法	①平常点（授業への取り組みなど）20点 ②途中課題（袖、衿）20点 ③完成作品（ブラウス、女兒服、刺繍）30点 ④課題（レポートやまめテストなど）30点 ①～④の総合評価60点以上で合格となる。
教科書	『立体構成（洋裁）』など随時プリント配布。		
参考書	『文化ファッション大系2』文化服装学院、他授業内で随時提示。		
学生への要望	1. 遅刻・欠席をせずに主体的に熱心に取り組むこと。2. 実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3. 製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進捗を揃え、完了できるように心掛けること。		
オフィスタイム	月（Ⅲコマ）、木（Ⅱ、Ⅲコマ）家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認して下さい。		
自学自習	<p>予習：次回の実習内容を予習（シラバスの確認）し、専門用語の意味を理解しておくこと（1時間） 復習：新たに習得した技法がどこで使用されているのか調査し、ノートにまとめること（1時間） ※授業終了時に、次週までの予習、復習について随時提示する。</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	実習内容と留意事項について(4/6)	1) 実習計画の提示 2) 立体構成について 3) 立体裁断の方法を学び、平面裁断と立体裁断について考える。
2	実習内容と留意事項について(4/6)	1) 実習計画の提示 2) 立体構成について 3) 立体裁断の方法を学び、平面裁断と立体裁断について考える。
3	原型製図—文化式、新文化式—(4/13)	1) 採寸方法を学ぶ（正しい原型作りを行うために、正確な採寸方法を学ぶ） 2) 縮尺で製図方法を学ぶ（文化式、新文化式1/4の縮尺製図を行い、原型を変えた意味を知る）
4	原型製図—文化式、新文化式—(4/13)	1) 採寸方法を学ぶ（正しい原型作りを行うために、正確な採寸方法を学ぶ） 2) 縮尺で製図方法を学ぶ（文化式、新文化式1/4の縮尺製図を行い、原型を変えた意味を知る）
5	新文化式原型(4/20)	1) 新文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ
6	新文化式原型(4/20)	1) 新文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ
7	ブラウスパターン作図(4/27)	1) ブラウスのパターンを選定 2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出 3) 次回使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ
8	ブラウスパターン作図(4/27)	1) ブラウスのパターンを選定 2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出 3) 次回使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ
9	ブラウス製作①—基本を学ぶ—(5/11)	1) パターン修正 2) 裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ 3) 接着芯の取り扱いを学ぶ
10	ブラウス製作①—基本を学ぶ—(5/11)	1) パターン修正 2) 裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ 3) 接着芯の取り扱いを学ぶ
11	ブラウス製作②—仮縫い—(5/18)	1) 仮縫いの方法を学ぶ a. 襟糸について b. ぐし縫いについて ※仮縫いが出来上がりを左右することを実習を通して学ぶ。
12	ブラウス製作②—仮縫い—(5/18)	1) 仮縫いの方法を学ぶ a. 襟糸について b. ぐし縫いについて ※仮縫いが出来上がりを左右することを実習を通して学ぶ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	ブラウス製作③一本縫いー(5/25)	1) 仮縫い後試着しペアーになり、お互いに補正をし型紙修正をおこなう 2) 本縫い準備。a、仮縫いした糸を解き、綺麗にアイロンをかける 3) 縫い代始末方法を学ぶ。a、ジグザグミシンの方法。b、ロックミシン c、端ミシン 4) 袖作り 5) 衿作り (袖、衿に名札を付けて提出)
14	ブラウス製作③一本縫いー(5/25)	1) 仮縫い後試着しペアーになり、お互いに補正をし型紙修正をおこなう 2) 本縫い準備。a、仮縫いした糸を解き、綺麗にアイロンをかける 3) 縫い代始末方法を学ぶ。a、ジグザグミシンの方法。b、ロックミシン c、端ミシン 4) 袖作り 5) 衿作り (袖、衿に名札を付けて提出)
15	ブラウス製作④一身頃縫い・ダーツの縫製方法を学ぶー(6/1)	1) 身頃本縫い まち針の打ち方、躰のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。 a、前身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ b、脇縫い c、肩縫い d、見返しの扱い方を学ぶ e、衿付け 衿付け始末の方法を学ぶ f、裾上げ
16	ブラウス製作④一身頃縫い・ダーツの縫製方法を学ぶー(6/1)	1) 身頃本縫い まち針の打ち方、躰のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。 a、身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ b、脇縫い c、肩縫い d、見返しの扱い方を学ぶ e、衿付け 衿付け始末の方法を学ぶ f、裾上げ
17	ブラウス製作⑤一袖付け・ボタンー(6/8)	1) 袖付け 袖付けの方法を学ぶことにより、ブラウスの成り立ちを学び、更に始末の方法も修得する。 2) ボタン a、手縫いによるボタンホールの手法を学ぶ。本授業ではミシンによるボタン穴の制作をし、ボタン穴の開け方を学ぶ。b、ボタンのつけ方を学ぶ。
18	ブラウス製作⑤一袖付け・ボタンー(6/8)	1) 袖付け 袖付けの方法を学ぶことにより、ブラウスの成り立ちを学び、更に始末の方法も修得する。 2) ボタン a、手縫いによるボタンホールの手法を学ぶ。本授業ではミシンによるボタン穴の制作をし、ボタン穴の開け方を学ぶ。b、ボタンのつけ方を学ぶ。
19	ブラウス製作⑥一相互評価ー(6/15)	1) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 2) 評価。レポートと共に名札を付け提出
20	ブラウス製作⑥一相互評価ー(6/15)	1) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 2) 評価。レポートと共に名札を付け提出
21	子供服ー子どもの体型を考えるー(6/22)	1) 子ども服について学ぶ 2) 子どもの体型、採寸方法を学ぶ (子どもの体型を理解する) 3) 製図。パターンを決め製図 4) 裁断。縫い代などに注意しながら裁断する 5) 縫製
22	子供服ー子どもの体型を考えるー(6/22)	1) 子ども服について学ぶ 2) 子どもの体型、採寸方法を学ぶ (子どもの体型を理解する) 3) 製図。パターンを決め製図 4) 裁断。縫い代などに注意しながら裁断する 5) 縫製
23	子供服製作①ーファスナー付けを学ぶー(6/29)	1) 様々なタイプのファスナーの付け方を学び、応用出来るようにする
24	子供服製作①ーファスナー付けを学ぶー(6/29)	1) 様々なタイプのファスナーの付け方を学び、応用出来るようにする
25	子供服製作②ーポケット付けを学ぶー(7/6)	1) ポケット製作方法を学ぶ。パッチポケット、脇ポケット方法等、数種類の製作方法を修得する。
26	子供服製作②ーポケット付けを学ぶー(7/6)	1) ポケット製作方法を学ぶ。パッチポケット、脇ポケット方法等、数種類の製作方法を修得する。
27	子供服製作③ー刺繍を学ぶー(7/13)	1) 子供服に刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、刺繍糸の取り扱い方法について b、技法について ※装飾方法や装飾場所により出来上がりイメージが変化することを学ぶ。
28	子供服製作③ー刺繍を学ぶー(7/13)	1) 子供服に刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、刺繍糸の取り扱い方法について b、技法について ※装飾方法や装飾場所により出来上がりイメージが変化することを学ぶ。
29	総合評価(7/20)	1) 作品鑑賞会 作品提出と共に、レポート課題の提出 ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。
30	総合評価(7/20)	1) 作品鑑賞会 作品提出と共に、レポート課題の提出 ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
---	----	------

科目名	食生活概論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	鍛野 信子		
開講期	前期		
授業概要	望ましい食生活とは、食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などの複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って、「健康」かつ「安全」で「満足」できるような食生活の質の向上を構築することが重要である。本授業では「食」に関わる周辺を包括して学ぶ。		
達成目標	<p>「食生活」の重要性を認識するとともに、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことで、実生活で役立つ理論と実践の素養を身につけること、および、【履修カルテの評価項目】を達成することを目標とする。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①「食生活」が、さまざまな物と人との相互作用によって構築されていることを、どの程度理解できたか。</p> <p>②食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を、どの程度養うことができたか。</p> <p>③国が定めた「健康」や「表示」に関する制度を、どの程度理解できたか。</p>		
受講資格	家政学部 人間生活学科 1年	成績評価 方法	①ノートまとめ20% ②課題30% ③期末試験50%
教科書	①指定の資料を各自コピーして持参する。 ②指示したホームページをダウンロードして、各自印刷して持参する。 ③「はじめてのカラーハンドブック カラー&ライフ」財団法人日本色彩研究所監修 日本色研事業株式会社		
参考書	①授業内で案内する		
学生への要望	1. 私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。 2. 各省庁のホームページを検索する場合があります。パソコンを持参してください。 3. ノートをしっかりとって下さい。 4. 体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。 5. 食生活を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示してください。		
オフィスタイム	木曜日3時限および金曜日3時限目のNo.1食品学研究室		
自学自習	予習：毎回、次週に向けた予習内容を指示しますので、そのことについて事前学習をして下さい（1時間）。 復習：その日の授業内容についてノート整理をしてください（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の目的	「食生活概論」は、「食」に関わる周辺や、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことが目的であることを理解する。併せて、授業の導入として、食品の定義について説明し、「食品」とは何かを理解する。
2	消費者庁と食品表示の目的	食品表示は、食品の履歴書・保証書であることから、「食品表示」の情報を正確に読み取ることが安心・安全な食品を選択するために重要である。ここでは食品表示は消費者庁が一元化して掌握していることを理解する。
3	JAS法に基づく食品表示関係の制度	JAS法に基づく食品表示は品質の表示基準であるとともに、遺伝子組み換え食品の表示、加工食品の原料原産地表示、期限表示などがあり、その表示法について理解する。
4	食品衛生法による食品表示	食品衛生法による食品表示の法体系と表示内容、および食物アレルギーの表示制度について理解する。
5	健康増進法による食品表示	特定保健用食品制度の概要および許可の条件、特別用途食品制度の概要および新設の総合栄養食品、栄養表示基準制度の概要および表示の種類について理解する。
6	食の安全について	食の安全性の考え方について説明し、食品の安全確保には、食品の加工および保存技術の発展が重要であること、および、食の安全については客観的な判断が必要であることを理解する。
7	おいしさの基本理念	「食べ物のおいしさ」には、外観、香り、味、テクスチャー、音などの五感によってとらえられる生理的なおいしさがある。また、価格や商品名などの情報は、心理的においしさに影響を及ぼすことについて学習し、理解する。
8	食嗜好の形成	食物の認知や好き嫌いは、脳の第2次味覚野で統合されて判断される。おいしい、まずいは慣れへの依存であり、幼児期に刷り込まれた味が強固となって食嗜好が形成されることを理解する。
9	食生活と健康	我が国において、食生活と健康維持・管理に係る取り組みとして2013年度から開始している「第4次国民健康づくり対策：健康日本21（第2次）」について解説し、生活の質の向上と社会環境の質の向上について理解する。
10	日本人の食事摂取基準（2015）	日本人の食事摂取基準は、健康な個人並びに集団を対象として、国民の健康の保持・増進、生活習慣病の予防のために2015年4月より実施する「日本人の食事摂取基準（2015）」について、その概要と改正のポイントについて理解する。
11	食料と環境問題	「快適な環境」、「魅力ある環境」を目指すために、フード・マイレージの低減、食料自給率、地産地消、食べ残しや食品廃棄の低減への取り組み方について理解する。
12	照射食品の安全性とその利用	我が国では、ジャガイモの芽止めのみ、放射線照射が許可されている。放射線照射食品との関連から、放射性物質による食品への移行と健康への影響について考え方を理解する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	食空間の基礎	食空間は、人間・時間・空間の3要素を相互作用させて創造しなければならない。色は食空間のイメージを決定づけたり、色の持つ力を意識的に使って料理をおいしく見せたり、食卓を楽しく演出することが出来る。ここでは、色の基本、色と料理のおいしさの関係、色とテーブル・コーディネートについて、理解する。
14	店舗、飲食店、キッチンの食空間	食空間は、食物を売るデパート・スーパーマーケット・街の洋菓子店など小売店の売場と、食物を食べる家庭の食卓や飲食店の客席などの食事空間と、調理するキッチンに区別できる。ここでは、いかに分かりやすく楽しく買物できるか、いかに満足し心地よく食事できるか、いかに効率よく環境衛生に即して調理できるかを念頭においた食空間について理解する。
15	授業の総括：確認と授業評価	本授業のまとめとして、ここでは、授業内容に関わる身近な話題を取り上げて解説する。さらに、「アメニティ」と「ホスピタリティ」の精神が、「安全」かつ「健康」で「満足」できるような食生活の質の向上の構築につながることを再確認し、理解する。あわせて、本授業に対し、学生より評価を得る。

平成30年度

科目名	食品栄養学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択	
担当教員	高橋 徹			
開講期	前期			
授業概要	この講義では、健康な生活を送るために重要な栄養学の基礎を学ぶ。ヒトが身体を維持して生命活動を営んでいくために必要とする栄養素（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）が、どのような役割を果たしているかを理解するため、各栄養素の消化・吸収、代謝（体内での分解や合成）とその調節機構について学ぶ。			
達成目標	各栄養素（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）の消化・吸収とその調節機構を理解する。各栄養素や水分、電解質の代謝を理解し、それぞれどのような役割を担っているかを理解する。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 選択	成績評価 方法	テスト（60%）、出席および授業態度（40%）の総合評価	
教科書	栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学（田地陽一 編、羊土社）			
参考書	特になし			
学生への要望	食品や栄養に関する書籍や記事にも興味を持って目を通すようにしてください。			
オフィスタイム	火曜日のIII限および月曜IV限、その他適宜対応します。 No.1栄養学研究室			
自学自習	事前学習：当日の内容を参考書等で確認しておくこと（1時間） 事後学習：ノートのまとめと復習（1時間）			

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	栄養の概念	栄養の定義、栄養素の種類と働き、栄養学の歴史
2	食物の摂取	空腹感・満腹感、食欲、摂食量の調節、概日リズムと食事のタイミング
3	消化・吸収と栄養素の体内動態（1）	消化と吸収、管腔内消化、管腔内消化の調節
4	消化・吸収と栄養素の体内動態（2）	膜消化、吸収、栄養素別の消化・吸収
5	消化・吸収と栄養素の体内動態（3）	栄養素の吸収経路、食物繊維・難消化性糖質の作用、消化吸収率
6	たんぱく質の栄養（1）	たんぱく質とアミノ酸、食後・食間のたんぱく質・アミノ酸の代謝、アミノ酸の代謝
7	たんぱく質の栄養（2）	体たんぱく質の代謝、たんぱく質・アミノ酸代謝の臓器差、たんぱく質栄養状態の評価指標、たんぱく質の栄養価
8	糖質の栄養	糖質の代謝経路、エネルギー源としての役割、糖質の体内代謝、他の栄養素との関係
9	脂質の栄養（1）	脂質の種類、脂肪酸の種類、脂肪酸の代謝経路
10	脂質の栄養（2）	エネルギー源としての役割、多価不飽和脂肪酸の代謝、脂質の体内輸送、脂肪細胞の役割
11	ビタミンの栄養（1）	ビタミンの種類、脂溶性ビタミン
12	ビタミンの栄養（2）	水溶性ビタミン
13	ミネラルの栄養	ミネラルの種類、骨・歯とミネラル、鉄の機能と貯蔵、酵素とミネラル、生体機能調節とミネラル
14	水・電解質の栄養的意義	生体内の水、水の出納、水分量の調節、脱水と浮腫、電解質と酸塩基平衡
15	エネルギー代謝	食物のエネルギー、エネルギー消費量、臓器別エネルギー消費量、エネルギー代謝の測定法

科目名	調理学演習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子, 大泉 由美		
開講期	前期		
授業概要	様々な健康状態の高齢者がおいしく楽しめる介護食をつくるための基礎的な調理知識と技術を学修する。そのために、まずは一般的なスローフードに配慮したレシピでの調理を経験し、基礎を修得する。さらに、自宅での実践で応用力を身につける。演習する調理内容は、高校家庭科教科書に採用されている料理レシピやスローフード視点から選択した世界各国の代表的な料理をグループワークで学ぶ。15回の演習を通じて、調理学の基本的な知識や技術修得とともに食材の栄養価や色・形・味・香などの調理による変化とその理由を五感で理解する。また、レポートを作成することにより、観察力とレポートの書き方を学ぶ。		
達成目標	①野菜や魚の様々な切り方を習得し、実践できる。 ②ダシ（和食）の取りかた、煮物、和え物、など料理の基本を理解し実践できる。 ③加熱の仕方、洗い方など基本を理解し実践できる。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①授業態度：30点 ②実技：30点 ③レポート：40点
教科書	プリント配布		
参考書	No2被服学研究室所蔵図書		
学生への要望	準備から後片付けまでが調理学実習の一環と考え、積極的に取り組むこと。 また、豊かな食生活は家族団欒を営む基礎となることを理解し、実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し、家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する。		
オフィスタイム	火曜日（Ⅱ時限）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室		
自学自習	事前学習：予定のレシピに使用されている食材や調理内容について市場調査や文献調査をすること（1時間）。 事後学習：レポートを作成することと、実習内容は自宅で実践してみること（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／ 食材の下ごしらえ・切り方 など（ビデオ学習）	①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受ける心構えとして、レポート作成と自宅での復習が重要であることを理解する。 授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。 ②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）をビデオにて学ぶ。
2	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／ 食材の下ごしらえ・切り方 など（ビデオ学習）	①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受ける心構えとして、レポート作成と自宅での復習が重要であることを理解する。 授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。 ②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）をビデオにて学ぶ。
3	ガイダンス（2） 実習室・調理器具・文化鍋 の使い方／春野菜を使った メニュー	①調理実習室の使い方、調理器具の使い方洗い方の基本を理解する。 ②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。
4	ガイダンス（2） 実習室・調理器具・文化鍋 の使い方／春野菜を使った メニュー	①調理実習室の使い方、調理器具の使い方洗い方の基本を理解する。 ②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。
5	日本料理 丼物と澄まし汁、和え物	三色丼、菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁、青菜のゴマ和え、ブラマンジェの和食料理を学ぶ。 ①丼ものの種類とつくり方。米の種類と調理上の性質、無洗米 ②和風煮出し汁の種類と取りかた、汁の分類 ③野菜の色の発色方法とゆで方 ④和え物料理の種類と特徴
6	日本料理 丼物と澄まし汁、和え物	三色丼、菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁、青菜のゴマ和え、ブラマンジェの和食料理を学ぶ。 ①丼ものの種類とつくり方。米の種類と調理上の性質、無洗米 ②和風煮出し汁の種類と取りかた、汁の分類 ③野菜の色の発色方法とゆで方 ④和え物料理の種類と特徴

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	西洋料理 西洋料理の基本	コンソメジュリアン、ブレンオムレツ、グリーンサラダ、カップケーキ、レモンティーの代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①フイヨンの取り方 ②オムレツの作り方 ③紅茶の入れ方とサーブ方法 ④西洋料理のテーブルセッティング
8	西洋料理 西洋料理の基本	コンソメジュリアン、ブレンオムレツ、グリーンサラダ、カップケーキ、レモンティーの代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①フイヨンの取り方 ②オムレツの作り方 ③紅茶の入れ方とサーブ方法 ④西洋料理のテーブルセッティング
9	日本料理 旬の素材であるたけのこ料理	たけのこ飯、たけのことわかめのみそ汁、たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理とカステラの作り方を学ぶ。 ①たけのこの下ごしらえと部位別料理用 ②味付け飯の種類と作り方 ③煮干し出しのとり方、みその種類とみそ汁の具の取り合わせ ④天ぷらの材料と下ごしらえ、衣の作り方と揚げ方 ⑤カステラの作り方
10	日本料理 旬の素材であるたけのこ料理	たけのこ飯、たけのことわかめのみそ汁、たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理とカステラの作り方を学ぶ。 ①たけのこの下ごしらえと部位別料理用 ②味付け飯の種類と作り方 ③煮干し出しのとり方、みその種類とみそ汁の具の取り合わせ ④天ぷらの材料と下ごしらえ、衣の作り方と揚げ方 ⑤カステラの作り方
11	中国料理 代表的な中国料理	ピーマンと牛肉の炒め物、わんたんスープ、ナイ豆、ジャスミン茶の代表的な中国料理の作り方を学ぶ。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方
12	中国料理 代表的な中国料理	ピーマンと牛肉の炒め物、わんたんスープ、ナイ豆、ジャスミン茶の代表的な中国料理の作り方を学ぶ。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③中国茶の種類と入れ方 ④中国料理の配膳のしかた
13	イタリア料理 代表的なイタリア料理	ペンネアマトリチャーナ、ブロッコリーのにんにくソテー、キャベツのスープ、ピザ、パンナコッタという代表的なイタリア料理の作り方を学ぶ。 ①パスタの種類と調理方法 ②ピザの作り方 ③デザート（パンナコッタ）の作り方
14	イタリア料理 代表的なイタリア料理	ペンネアマトリチャーナ、ブロッコリーのにんにくソテー、キャベツのスープ、ピザ、パンナコッタという代表的なイタリア料理の作り方を学ぶ。 ①パスタの種類と調理方法 ②ピザの作り方 ③デザート（パンナコッタ）の作り方
15	調理理論 卵の調理上の性質／野菜の切り方／食中毒の種類と予防	卵の性質と調理、野菜の切り方 ①卵の形状と鮮度判定法／卵の調理上の性質 ②各種卵料理（金糸卵、ゆで卵、カスタードプリン）の作り方 ③マヨネーズの作り方 ④野菜の切り方 ⑤食中毒の種類と予防
16	調理理論 卵の調理上の性質／野菜の切り方／食中毒の種類と予防	卵の性質と調理、野菜の切り方 ①卵の形状と鮮度判定法／卵の調理上の性質 ②各種卵料理（金糸卵、ゆで卵、カスタードプリン）の作り方 ③マヨネーズの作り方 ④野菜の切り方 ⑤食中毒の種類と予防

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
17	韓国料理 代表的な韓国料理	プルコギ, チャブチェ, キムチチゲ, チャブサルパブ, 韓国風サラダ, ホットクという代表的な韓国料理の つくり方を学ぶ. ①韓国料理の特色, ヤンニョムの特徴と使い方 ②韓国の食習慣
18	韓国料理 代表的な韓国料理	プルコギ, チャブチェ, キムチチゲ, チャブサルパブ, 韓国風サラダ, ホットクという代表的な韓国料理の つくり方を学ぶ. ①韓国料理の特色, ヤンニョムの特徴と使い方 ②韓国の食習慣
19	日本料理 代表的な家庭料理	五目飯, 海老しんじょ汁, 蕪のそぼろあんかけ, 蕪の即席漬け, チーズケーキのつくり方を学ぶ. ①味付け飯(五目飯)のつくり方 ②しんじょのつくり方 ③そぼろあんのつくり方 ④ベイクドチーズケーキのつくり方
20	日本料理 代表的な家庭料理	五目飯, 海老しんじょ汁, 蕪のそぼろあんかけ, 蕪の即席漬け, チーズケーキのつくり方を学ぶ. ①味付け飯(五目飯)のつくり方 ②しんじょのつくり方 ③そぼろあんのつくり方 ④ベイクドチーズケーキのつくり方
21	中国料理 日本で好まれる中国料理	八宝菜, 春巻, 粟米湯, 杏仁餅という日本で親しまれている代表的な中国料理のつくり方を学ぶ. ①八宝菜を例として, 中国料理の炒め煮の基本 ②イカの下ごしらえ ③とろみのあるスープのつくり方 ④中国の代表的な菓子のつくり方
22	中国料理 日本で好まれる中国料理	八宝菜, 春巻, 粟米湯, 杏仁餅という日本で親しまれている代表的な中国料理のつくり方を学ぶ. ①八宝菜を例として, 中国料理の炒め煮の基本 ②イカの下ごしらえ ③とろみのあるスープのつくり方 ④中国の代表的な菓子のつくり方
23	日本食 旬のいわしの手開き, 同じ 素材でおかずとお澄しつ くり	いわしの大葉巻き唐揚げ, 卵の花, 沢煮椀, ご飯, キュウイ寒のつくり方を学ぶ. ①いわしの手開き方法と料理方法 ②卵の花の炒り煮のつくり方 ③寒天の使い方
24	日本食 旬のいわしの手開き, 同じ 素材でおかずとお澄しつ くり	いわしの大葉巻き唐揚げ, 卵の花, 沢煮椀, ご飯, キュウイ寒のつくり方を学ぶ. ①いわしの手開き方法と料理方法 ②卵の花の炒り煮のつくり方 ③寒天の使い方
25	夏のおもてなし料理	夏野菜の炒め煮(ラタトウユ), 手羽中の香り揚げ, フランスパンのサンドイッチ, パンナコッタのレシピ で夏のおもてなし料理を演出する. ①夏野菜の使い方 ②鶏肉の部位別調理方法 ③簡単サンドイッチのつくり方
26	夏のおもてなし料理	夏野菜の炒め煮(ラタトウユ), 手羽中の香り揚げ, フランスパンのサンドイッチ, パンナコッタのレシピ で夏のおもてなし料理を演出する. ①夏野菜の使い方 ②鶏肉の部位別調理方法 ③簡単サンドイッチのつくり方
27	自由課題(米料理)	米料理をテーマとした夕食献立を実践する. 予算(350円/人)内で献立を作成から材料の購入, 調理までをグループで実施, 実践力を身につける.
28	自由課題(米料理)	米料理をテーマとした夕食献立を実践する. 予算(350円/人)内で献立を作成から材料の購入, 調理までをグループで実施, 実践力を身につける.
29	日本料理 夏の代表的な日本料理	冷やしそうめん(付け合せ: 野菜かき揚げ, 酒蒸し鶏, 薬味)のつくり方を経験する. ①うどん, そうめん類の種類と基本調理 ②野菜の天ぷら(かきあげ)のつくり方 ③和菓子(ずんだ)のつくり方

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
30	日本料理 夏の代表的な日本料理	冷やしそうめん（付け合せ：野菜かき揚げ、酒蒸し鶏、薬味）のつくり方を経験する。 ①うどん、そうめん類の種類と基本調理 ②野菜の天ぷら（かきあげ）のつくり方 ③和菓子（ずんだ）のつくり方

科目名	住生活概論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	阿部 恵利子		
開講期	前期		
授業概要	住まいに求められる機能は、多様化する現代社会においてきわめて複雑である。しかし、住まいにおける「社会の原点」「安らぎの場」という役割は普遍的でなければならない。本授業では、これからの住まいがどうあるべきかの答えを導き出すために、住まいに関する成り立ちや住まい方計画、構造、環境問題、福祉住宅にまで視野を広げて講義する。また、後半にはこれらの理論を応用して設計製図の基礎を学ぶ。		
達成目標	①わが国の住宅におけるMD及び気候風土との関連について理解する。 ②家族と間取りとの関連について考察する。 ③UD住宅の在り方について理解する。 ④簡単な住宅設計製図の内容を読み取る。		
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	①定期試験 70% ②提出図面 30%
教科書	豊かな住生活を考える一住居学（彰国社） 小澤紀美子編 小澤紀美子・荒川千恵子・川島平七郎・渡辺彩子著		
参考書	「住宅の計画学入門」鹿島出版会 「ダイニングキッチンはどうして誕生した」技報堂出版		
学生への要望	現代における住まいの問題点を把握するために、新聞等に目を通す習慣を身に付けること。		
オフィスタイム	住居学研究室 月曜IV時限（14：30～16：00） 水曜IV時限（14：30～16：00）		
自学自習	予習：住まいにおける問題について常に興味関心を持ち、問題点を把握する（1時間）。 復習：問題解決に向けての方策を考える（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス	これからの授業内容や進め方、目的を説明する。また、私たちの住生活を取りまく問題について考える。
2	住生活と諸問題	多様化する住生活について理解し、様々な住生活の諸問題について考える。
3	住生活と住まいの変遷	日本の風土的特徴を踏まえながら、気候風土と住まいの形態及び地域性と住まいについて確認する。
4	家族と住まいの変遷	現在の住まいの構造や形式は非常に多様であるが、住まいの変遷を辿ると各時代の家族観がその平面構成に反映されていることを確認する。
5	高齢者と住環境	住生活の諸問題を踏まえながら、高齢者の住宅事情と住要求について考察する。
6	間取りの重要性 1	本来最も安心して過ごすべき住まいが子供の犯罪行為の場となった事例から、住まいにおける子供空間の位置付けについて考察する。
7	間取りの重要性 2	間取り（空間構成）と家族問題とを関連付けながら、心（ソフト）と住まい（ハード）との関係が皆無ではないこと、さらには両面から人間を守護しなければならないことを確認する。
8	住宅と衛生	換気と結露（表面結露・内部結露）との関連について理解し、結露を発生させない住まい方を考える。
9	住宅設計製図の基礎	模範住宅の図面から、設計に用いる開口部などの記号について説明します。次に、設計製図における線の引き方の基礎を学びます。
10	線の引き方、製図文字の練習	前授業に引き続き、線の引き方と、製図文字を練習する。次にダイヤモンドリング作成について説明する。
11	ダイヤモンドリングの作成	線の練習を目的に、ダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成する。
12	ダイヤモンドリングの作成	線の練習を目的に、引き続きダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成した後、住宅図面トレースについて説明する。
13	住宅図面のトレース1	模範住宅の図面をトレースすることにより、設計図の描き方の基礎を学ぶ。本授業では、平面・配置図を完成させることを目的とする。
14	住宅図面のトレース2	前授業に引き続き、2階平面図、立面図を完成させる。
15	住宅図面のトレース3	前授業に引き続き、トレースを完成させることにより、図面を読む基礎的知識を習得する。

平成30年度

科目名	建築計画Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修
担当教員	阿部 恵利子		
開講期	後期		
授業概要	設計は空間の捉え方、人間行動、法的数値、心理、構造等さまざまな知的要素を有機的に連携させて創造するものである。本科目では住宅や各種建築における基礎的知識を得るとともに、建築設計に応用する力を養うことを目的としている。		
達成目標	①細部計画・各部計画の要点を把握する。 ②独立住宅における諸室の機能的つながりと計画上の要点について理解する。 ③集合住宅の様々なタイプの特徴およびその長所・短所を理解する。 ④各種建築物の計画上の留意点を把握する。		
受講資格	建築デザインコース1年生	成績評価 方法	①期末試験50% ②確認テスト30% ③レポート提出20%
教科書	『やさしい建築計画』 深水浩著, 学芸出版社		
参考書	『設計に活かす建築計画』 内藤和彦他著, 学芸出版社 『第3版コンパクト建築設計資料集成』 日本建築学会編, 丸善株式会社		
学生への要望	建築物に興味関心を持ち、実際に足を運んで観察するよう心掛けること。		
オフィスタイム	住居学研究室 月曜Ⅳ時限 (14:30~16:00) 水曜Ⅳ時限 (14:30~16:00)		
自学自習	予習: 授業内容について予習しておくこと (1時間)。 復習: 各種建築物を積極的に見学すること (2時間)。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス、住宅の分類	これからの授業のすすめ方について説明する。 住宅の分類及びそれぞれの長所短所について説明し、住宅の建築設計における位置づけ (重要性) について、家族問題や社会問題、歴史的背景と関連させて講義する。
2	住宅のゾーニングについて	住宅におけるゾーニング及び動線の意味とテクニック、事例を説明する。また、収納の面積や最小限住宅の事例を話し、空間利用の魅力や手法について講義する。
3	住宅における各室の設計ポイント	寝室や老人室、居間、台所等の各室における基礎的面積、家具配置、出入りの注意点について説明する。
4	住宅の事例研究Ⅰ	住宅展示場を見学し、各諸室のつながりや構造、材料、収納、インテリア等について近年の動向を把握する。
5	住宅の設計手法、プランニング演習	食寝分離、公私室型、ダイニングキッチン、続き間等の設計の手法、その理論を解説する。これらの知識から、小住宅のプランニングをし、エスキスのテクニックを学ぶ。
6	集合住宅の歴史、分類	わが国とヨーロッパの集合住宅を比較し、わが国の特質を明らかにする。また、近年の動向を郡山市を例として解説し、集合住宅の分類を高さ及びアクセス方法の両面から講義する。
7	集合住宅の住戸計画	鉄筋コンクリートや鉄骨造における経済的スパン及びスパンに住戸を収めるという考え方について説明する。さらに一住戸をプランニング演習する。
8	集合住宅の事例	わが国における戦前からの集合住宅の事例、海外の事例を説明する。このことにより、多彩な計画法を学ぶ。
9	学校建築の計画	小学校の運営方式や所要諸室について、配置計画上の要点をふまえながら、近年の多様な教育プログラムに対応できる空間構成について考える。
10	幼稚園・保育所の計画	幼稚園・保育所における所要諸室とその機能的つながりをふまえながら、幼児や乳児の人体スケールに配慮した各部の計画について学ぶ。
11	図書館の計画	一般的な地域図書館における必要諸室とそのゾーニング及び機能的つながりについて考える。 また、図書館に関する基本用語を理解し、閲覧室の座席レイアウトおよび書架の配置と収納能力について学ぶ。
12	美術館の計画	一般的な美術館における、必要諸室とそのゾーニング及び機能的つながりについて考える。 また、美術館に関する基本用語や来館者の巡回形式、展示室の採光・照明計画について学ぶ。
13	建築物の事例研究Ⅰ (プレゼンテーション)	建築学生として必ず把握しておかなければならない、建築物の代表的な事例を提示する。提示した事例を学生が研究し、設計者、設計趣旨、時代背景、感想等について発表することでプレゼンテーション能力を培う。また、終了後討議し、建築を見る力を養う。
14	建築物の事例研究Ⅱ (プレゼンテーション)	建築学生として必ず把握しておかなければならない、建築物の代表的な事例を提示する。提示した事例を学生が研究し、設計者、設計趣旨、時代背景、感想等について発表することでプレゼンテーション能力を培う。また、終了後討議し、建築を見る力を養う。
15	建築物の事例研究Ⅲ (プレゼンテーション)	建築学生として必ず把握しておかなければならない、建築物の代表的な事例を提示する。提示した事例を学生が研究し、設計者、設計趣旨、時代背景、感想等について発表することでプレゼンテーション能力を培う。また、終了後討議し、建築を見る力を養う。

平成30年度

科目名	建築計画Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修	
担当教員	長田 城治			
開講期	前期			
授業概要	建築計画Ⅰの授業で習得した建築計画の基本手法に基づき、大規模建築物における建築計画の特徴、最低限知っておかなければならない計画方法を理解することを目的とする。ここでは、建築計画Ⅰに引き続き、美術館・劇場・事務所・病院・商業施設等について学ぶ。			
達成目標	①各種施設に必要な設計画面上の重要な要素を理解できたか。 ②スケール感を身につけ、各種施設に必要な大きさや長さなどを理解することができたか。 ③計画上のポイントを大学校舎や商業施設などの実際の建物で確認し、問題点を抽出することができたか。			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験80%、提出課題20%	
教科書	図説やさしい建築計画 学芸出版社			
参考書	コンパクト建築設計資料集成 日本建築学会			
学生への要望	本授業は、建築設計製図Ⅱの課題で取りあげる建物について学修するため、両者を関連づけて受講すること。また、空き時間や休日を利用して授業内で取り上げた各種施設に実際に訪れることを強く勧める。講義で得た知識と建物の実際の状況（計画）を照らし合わせてみることで、問題点や改善点を把握すること。			
オフィスタイム	月曜日8:50~10:20 水曜日14:30~16:00 本館1F No.2 住居学研究室			
自学自習	予習：教科書を読み、授業で取り上げる建物種別について概要を把握すること。（1時間） 復習：章末問題を解くこと、あるいは授業で取り上げた種別の建物に行き、実際の建築計画を確認すること。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス	建築計画を学ぶ重要性と住まいには精神面と物理面それぞれの役割があることを理解します。
2	日本の住まいの特徴 1	わが国の住まい方の変遷と特徴について学びます。すなわち起居様式（座式・椅子式）とプライベート空間の捉え方について外国との比較を通して考えます。
3	日本の住まいの特徴 2	日本人が自然や気候と共存しながら培ってきた住まいについて、構造・材料面から考察します。また、現在のさまざまな工法について学びます。
4	図書館の計画	図書館の構成やゾーニング、分類を学習し、具体的な実例を基に図書館設計の基本を学びます。
5	美術館の計画	美術館の種類や構成を学習し、具体的な実例を基に美術館設計の基本を学びます。
6	劇場の計画	劇場の構成やゾーニング、分類を学習し、具体的な実例を基に劇場設計の基本を学びます。
7	事務所の計画	事務所を計画する際の基本的な事項について学習し、人体モジュールにそった配置計画ができるよう学習します。
8	計ってみよう1	大学内の講堂・図書館などを用いて、これまで学習した建築計画に沿った設計が行われているのか、実際に見て、計測することで判断し、改善点についてまとめます。
9	ホテルの計画	ホテルの構成やゾーニング、種類を学習し、具体的な実例を基にホテル設計の基本を学びます。
10	病院・診療所の計画	病院や診療料所の構成や配置計画を学習し、使用者動線を加味した平面計画を行い病院ならではの計画上の留意事項を学びます。
11	商業建築の計画	商業建築を計画する際の基本的な事項について学習し、人体モジュールにそった配置計画ができるよう学習します。
12	高齢者福祉施設の計画	高齢者福祉施設に関連する施設の種類や形態を学習し、高齢者に配慮した設計計画を行えるよう、バリアフリーやユニバーサルデザインについて学習する。
13	駐車場や各種施設	駐車場・駐輪場の計画を概要とスポーツ施設やコミュニティ施設、庁舎や空港など、特別な形態・機能を持つ建物について学習する。
14	計ってみよう2	大学内の教室・駐車場・駐輪場などを用いて、これまで学習した建築計画に沿った設計が行われているのか、実際に見て、計測することで判断し、改善点についてまとめます。
15	まとめと建築士試験対策	計画Ⅱで学んだ内容について復習し、建築を設計する上で基本となるプランニングの重要性を再確認します。 また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築計画Ⅱの試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習します。

科目名	建築史	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
担当教員	長田 城治		
開講期	前期		
授業概要	本授業は、日本ならびに世界の建築の歴史を原始から近代まで概観するものです。過去の名建築を様式や歴史から学ぶのではなく、名建築を正しく評価する力を身につけることを目的とします。そのためには、単に意匠や平面の遷り変わりという歴史的な変遷だけでなく、その建築が、誰が、どのように、何のために造りだされたのか、なぜその形や意匠が選ばれ、何を表現しようとしたのかなど、建築の背景にある事実を考えることが大切です。本授業は、建築の歴史を学ぶことで建築に対する視野を広げると共に、建築を考える上での基礎的なスキルを身につけることを目標とします。		
達成目標	①日本建築と西洋建築の時代ごとの特徴的な建物について年代順に時系列で捉えることが出来たか。 ②建物の変化の要因を当時の時代背景や社会構造などと共に理解することができたか。 ③建築の見方を学修し、自身の基準で建物进行评估することが出来るようになったか。		
受講資格	家政学部人間生活学科建築デザインコース2年	成績評価 方法	①授業中に出席する小課題 (20%) ②見学会レポート (30%) ③プレゼン (50%) を総合して評価する。レポートおよびプレゼン発表の条件・評価基準を出題時に説明するので、十分理解の上で提出すること。
教科書	特になし。 必要に応じてプリントを配布		
参考書	『カラー版図説建築の歴史』西田雅嗣他著、学芸出版社		
学生への要望	授業で紹介した建築を現地に赴いて見学し、その空間を体験することをすすめると共に、足を運ぶ積極性を求める。現地で感じた自身の感性に基づき、建物の評価を行う習慣を身につけること。 また、授業後は授業内で取り上げた時代を代表する建物について自身で調べ、日本および西洋の建築物を時系列に沿ってノートなどにまとめておくこと。		
オフィスタイム	月曜日12:50~14:20 木曜日8:50~10:20 本館1F No.2 住居学研究室		
自学自習	予習：授業で取り扱う建物の時代背景を整理し、当時の社会情勢を把握すること。(1時間) 復習：国家試験対策として授業で取り扱った時代の建物を調べて、建築年代を時系列にノートにまとめること。(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	建築史を学ぶ意義について述べます。
2	原始住居と環濠集落	原始時代の住居についてユカとドマに注目して住生活の特徴を学びます。
3	古代住居とその変容	貴族の住宅である寝殿造と平安京から当時の住宅様式を学び、公私の空間の捉え方や住まい方における現代との相違を考えます。
4	中世住居のオモテとオク	中世に初めて導入されたオモテとオクの考え方について、座敷飾りや書院造の定型化と考え合わせて学習します。
5	近世住居と地域色	書院造と相反する数寄屋造の建物について、当時の「数寄」にという感性と共に理解します。また、庶民住宅である民家や町家の特徴とその地域色について、気候・風土だけでなく、当時の社会背景を踏まえて学びます。
6	社寺建築のウチとソト	神社建築と寺院建築の違いを理解し、内部空間と外部空間に分けて、様式の特徴と様式が導入された背景を学習します。
7	政務の空間、遊びの空間	日本独自の建築である城郭と茶室について、形成された理由や進化の過程を利用者の使い方の視点から学びます。
8	近代建築の発展にみる和風と洋風	日本建築の概要を解説します。仏教伝来以前の神社建築の成り立ち、様式別の神社形式を理解することにより、日本人の建築に対する考え方、勝れた点を学びます。 仏教伝来以前と以降の建築を比較し、奈良時代の建築の特徴を把握します。
9	歴史的建造物見学	歴史的建造物を実際に見学して建物の特徴を把握し、地域や年代・設計者などの背景を考察してレポートを提出します。
10	古代(エジプト・ギリシャ)建築の普遍性	エジプト建築の特徴と後世への影響について解説します。 ギリシャ建築のオーダーやパルテノンの黄金比・曲線の多用・バランス等の普遍的な美について学びます。 また、アゴラの計画から西洋人の都市における公空間の考え方について学びます。
11	古代(ローマ)建築、中世(ビザンチン)建築とキリスト教	ローマ建築の規模・構造について学びます。また、ギリシャ建築との比較やキリスト教建築との関連も同時に学習します。ビザンチン建築の特徴を、東西ローマ帝国の成り立ちやカトリック、ギリシャ正教と関連付けて解説します。
12	中世(ロマネスク・ゴシック)建築の構造美	ロマネスク建築とゴシック建築の特徴を、両者を比較しながら解説します。また、この頃から国の特徴、国民性が建築形態に影響してきたことを学習します。
13	近世(ルネサンス・バロック・ロココ)建築と絶対王政	近代建築の特徴といえる機能主義の考え方、ワグナーの建築哲学等を理解します。さらに、機能主義に反発して起こった建築運動、いわゆる反機能主義の建築について学びます。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	稀代の建築家とポストモダニズム	<p>コルビジェ・ミース・ライトなど近代建築の巨匠と称された建築家の作品を解説します。その時代背景や構造、材料等の特徴を学びます。また、ポストモダニズムの時代に至った背景や特徴等を学び、現在の建築の位置づけについて考えます。</p>
15	プレゼン発表と建築士試験対策	<p>広く建築に関心を持つことを目的に、課題の趣旨を理解して、学生それぞれが興味のある建築についてスライドを用いて解説・発表します。 また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築史の試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習します。</p>

平成30年度

科目名	インテリアデザイン	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1 年 2単位 選択
担当教員	阿部 恵利子		
開講期	後期		
授業概要	インテリアデザインに必要な専門知識及びその関連知識として、「インテリアデザイン史・論」「インテリア計画・インテリアデザイン基礎」「インテリア材料・構造生産」「インテリア装備・装飾」の4領域について学び、インテリアに関わる専門知識と技術を養うことを目標とする。		
達成目標	①日本及び西洋のデザイン史について理解し、主要な家具・調度品、様式の特徴を把握する。 ②インテリアエレメントの種類や特徴を理解する。 ③インテリアの材料及び構造について理解し、それらの特徴を把握する。 ④人体の寸法、物の大きさ等、スケール感を身に付ける。 ⑤インテリアの表現技法を習得する。		
受講資格	人間生活学科 生活総合コース 建築デザインコース	成績評価 方法	①提出作品30% ②レポート・小テスト20% ③期末試験50%
教科書	日本インテリア設計士協会テキスト インテリア産業協会テキスト		
参考書	インテリア関連書籍をその都度提示する。		
学生への要望	授業目標を理解し、授業に臨むこと。		
オフィスタイム	住居学研究室 月曜IV時限 (14:30~16:00) 水曜IV時限 (14:30~16:00)		
自学自習	予習：授業目標や内容について把握しておくこと（1時間）。 復習：各章毎の確認テストにしっかり復習をして臨むこと（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	これからの授業の進め方やインテリアデザインに必要な専門知識や技術について説明する。
2	インテリアデザイン史Ⅰ	西洋のインテリアと家具の歴史を学ぶ。
3	インテリアデザイン史Ⅱ	日本の住宅とインテリア、家具の歴史を学ぶ。
4	インテリアデザイン基礎	形と空間構成・色彩・インテリアの表現技法を学ぶ。
5	インテリア計画	人間の生理や心理をふまえた視点から計画するための知識を養う。
6	インテリア材料	材料の持つ特質を知り、快適で安らぎのある空間について考察する。
7	インテリア構造・生産	インテリアの構法、室内構造と各部の名称等について学ぶ。
8	室内装備・装飾Ⅰ	カーペット・壁と天井の仕上げ・ウインドウトリートメントについて学ぶ。
9	室内装備・装飾Ⅱ	台所・洗面・浴室等の設備機器等について学ぶ。
10	室内パースⅠ	インテリア関連の各資格に対応したパースの書き方を理解する。与条件を十分に理解し、課題の主旨に応じた室内パースを描く。
11	室内パースⅡ	前授業に引き続き、室内パースを制作する。描き方のプロセス・テクニックを十分に理解し、室内パースを制作する。
12	室内パースⅢ	前授業に引き続き、室内パースを制作する。描き方のプロセス・テクニックを十分理解し、室内パースを完成させる。
13	インテリアデザイン	室内空間をCADを使用して3Dで表現する。イメージスケールをもとに、理想の空間を3Dで表現する技術を習得する。
14	インテリアデザイン	前授業に引き続き、室内空間をCADを使用して3Dで表現する。イメージスケールをもとに、理想の空間を3Dで表現する技術を習得する。
15	プレゼンテーション	制作した作品のプレゼンテーションを行う。 学生間でそれぞれ評価し合い、ディスカッションを行う。

平成30年度

科目名	地域防災計画	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	後期			
授業概要	地域特性を考慮した地域防災計画の策定は、防災計画上重要な位置づけにある。建築物の構造体としての安全性とともに、災害時の安全かつ速やかな避難計画は、地域防災計画との関係が大きい。福島県においても過去の大規模災害の経験を基に、地震、風水害、雪害等自然災害に対処する地域防災計画が策定されている。授業では建築防災計画および地域防災計画について解説し、地域特性を考慮した総合的な防災計画の必要性を理解することを目的とする。			
達成目標	①自然災害の種類と特性を理解できたか。 ②地域防災計画策定に必要な項目を明確にすることができるか。 ③福島県の防災計画に留意する項目を明確にすることができたか。			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験80%、レポート提出20%	
教科書	雪と建築（技報堂出版）			
参考書	防災基本計画（中央防災会議）			
学生への要望	建築物単体での防災対策とともに、地域や都市という広域的な防災対策についても身近に感ずるように心がけて欲しい。また、地震、風水害、雪害等、福島県の地域特性を理解し、これらの対策の現状を認識して欲しい。			
オフィスタイム	月曜日12:50~14:20、14:30~14:00 住居学研究室			
自学自習	事前学習：当日の内容を教科書で確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、参考図書などを用いて復習すること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス、防災計画の概要	防災計画の概念について説明し、科目の導入とする。
2	防災基本計画の構成	防災基本計画の構成を解説し、災害の種類を把握するとともに、その特徴について理解を深めさせる。
3	自然災害の対策1	自然災害の種別毎の対策について解説する。当回では震災対策、火山災害対策における災害発生概要・災害対策の現状について理解させる。
4	自然災害の対策2	当回では、風水害対策、雪害対策における災害発生概要・災害対策の現状について理解させる。
5	日本の気候	日本の気候からくる気象災害について解説する。ここでは、日本の気候の特徴と自然災害の関係について理解させる。
6	地域防災計画の特徴	防災基本計画と地域防災計画の特徴について解説する。特に地域防災計画の基本的な考え方、防災理念が理解できるように解説する。
7	防災上の地域特性1	防災上の福島県の地域特性について解説する。特に福島県の災害履歴を把握する。
8	防災上の地域特性2	当回では福島県の地域特性について理解させる。
9	地域防災計画	福島県地域防災計画の特徴を解説し、今後考慮すべき課題について考察する。
10	雪害	福島県の雪害に関する状況を解説し、雪害という現象を理解させる。
11	雪氷防災計画	地域防災計画上の雪氷防災計画について解説し、雪氷防災計画策定の重要性を理解させる。
12	避難計画1	災害時における避難計画の概要を解説し、建築物での避難計画を理解させる。
13	避難計画2	災害時における避難計画を住区、地区、地域の観点から解説し、さらに複合災害時の避難行動について理解させる。
14	都市計画・地域計画上の防災対策	都市・地域の防災システムならびに都市構造の防災ポテンシャルについて解説し、中領域での防災対策について理解させる。
15	総まとめ	地域防災計画上の理念を総括する。

平成30年度

科目名	家族建築学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	前期			
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、人間にとって家族とは何か、家族の機能、家族の変化等を中心に考える。特に、家族内における高齢者、子ども、人権尊重を主題とし、福祉社会における家族のあり方を様々な視点から学ぶことを目的とする。なお、教職(家庭・栄養)を目指す人にとっては必修科目であるため、家庭科の「家族関係学」の学習領域を意識し、家族と福祉に重点を置いた内容とする。			
達成目標	①家族の機能について様々な視点から考察したか。 ②家族の時代的変遷について考察したか。 ③高齢者や子どもと家族全体との関わり方の変化について考察したか。			
受講資格	人間生活学科4年生、食物栄養学科4年生 文化学専攻科1年生	成績評価 方法	授業内容の理解度8割以上を合格。レポート80%、授業中の提出物20%	
教科書	適宜プリント及び資料配付			
参考書	その都度紹介します			
学生への要望	授業中に各自の意見を書いて提出することを数回求めます。その日のテーマをよく考え、私語を控えましょう。			
オフィスタイム	月曜日12:50~14:20、14:30~16:00 住居学研究室			
自学自習	予習 当日の授業範囲について調べる(1時間) 復習 授業内容、ノート整理(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス	これからの授業の進め方について説明する。これまで学んだ建築学の専門科目からの視点とは異なり、生活者としての視点から建築を捉える。その上で、建築家としての使命や自分自身の方向性について考える。
2	家族の意味	家族の意味について、これまで学んだ家政学を基盤とした上で「家族と法」の視点から考察する。
3	現代の家族生活	今日、われわれが経験している現代の家族生活を旧来の家族生活と比較し、特質づけている点について考察することから、現代の家族生活の意義について理解を深める。
4	夫婦と親子	夫婦について婚姻の成立と効果、親子関係の発生とその効果について「家族と法」の視点から考察し、住生活における位置づけについて理解する。
5	親族扶養について	親族関係の意義と扶養の意味について理解する。それに基づき社会福祉的観点から、建築に求められている空間の創造または空間構成について考察し、これまで学んだ住宅の設計概念と結びつけて理解する。
6	家族と住空間	家族関係からの視点で住空間を創造する手法について学ぶ。まずは立体創造の手法の一つとして、大小のボックスを組み合わせることによる、コアシステムやスケルトンインフィルの概念を理解する。
7	立体続き間の創造	日本古来の続き間を、「サヴォワ邸」や「塔の家」を事例として立体的に捉え、空間構成を考える。
8	円形プラン(円柱の立体)・六角形プラン(六角柱)の試作	ガウディの「カサ・ミラ」の室を事例に、木造建築での円形や六角形の室の可能性について、機能面と心理面から迫る。また、デッドスペースの利用について検討する。
9	球型・半球型住宅の可能性	手塚治虫が描いた未来都市の建築物は、矩形はほとんど見られず、極めて変化に富んだ形態が多い。21世紀の今日、彼が描いたものが現実化している事例が少なくない。そこで、球や半球の住まいや街並みデザインの可能性について考え、その是非について討論する。
10	屋根型の理解	建築物の外観は屋根によって決まる、と言っても過言ではない。その屋根型の基本を復讐し、球や半球等にかける屋根について検討し屋根方の違いによる空間について理解する。
11	段差の敷地に建つ住宅	「積み木の家」の概念を応用して、段差のある敷地に建つ住宅を設計する。
12	ふくしまの家	福島らしい家とは何か。気候風土や嗜好性をどう捉えるかを学ぶ。流行と風土性、建築家のエゴについて考える。
13	都市・街並みの創造 1	これまで学んだ形態の住宅のプランと模型を複数完成させ、住宅街を創造する。
14	都市・街並みの創造 2	前授業に引き続き、模型を複数完成させ、住宅街を創造する。
15	自分自身の建築の方向性と卒業設計	建築とは人間のための空間創造である。住宅は建築並びに生活者の原点である。戦後、わが国の建築家たちは快適性ばかりを追求してきたが、東日本大震災を契機に、この姿勢に疑問符が投げかけられている。本授業では、形態を主に住宅を捉えてきたが、自分自身の建築の方向性を建築家としてのポリシーと形態(デザイン)との両面模索することを最終の授業の目的とする。さらに、自分の方向性と卒業設計とを関連付けて卒業設計のテーマを発表する。

平成30年度

科目名	建築環境工学 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 必修
担当教員	阿部 恵利子		
開講期	前期		
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、工学的視点から自然現象を捉える。さらに健康で快適な住居について、空気・湿気・温熱環境などの側面から考える力を養う。		
達成目標	①空気環境について、通風と換気と換気システムについて理解する。 ②湿気環境について、結露発生メカニズムとその防止法を理解し、湿り空気線図を読み取る。 ③居住者の温かさ、寒さを表す温熱環境について考察し、快適な温熱環境について理解する。		
受講資格	人間生活学科 建築デザインコース	成績評価 方法	①期末試験70% ②確認テスト30%
教科書	建築環境工学（第三版）：市ヶ谷出版社		
参考書	その都度提示する。		
学生への要望	快適な室内環境を形成するために、授業で学んだことを建築計画に活かすこと。		
オフィスタイム	住居学研究室 月曜IV時限（14：30～16：00） 水曜IV時限（14：30～16：00）		
自学自習	各単元毎に確認テストを実施する。 予習：教科書に目をとおり、おおまかな内容を把握する（1時間）。 復習：各単元毎に要点をまとめ理解する（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス	これからの授業についての説明及び室内環境の概略を説明する。
2	住まいと気候	わが国の気候（日本の風、気温、湿度等）と建築との関連について学ぶ。
3	空気環境と空気汚染 1	換気と通風の目的とその重要性について理解します。また、換気量・換気回数・必要換気量の求め方を学ぶ。
4	空気環境と空気汚染 2	室内から発生する空気汚染物質とその許容量について学ぶ。
5	換気計画	換気方式による特徴と用途について学ぶ。
6	温熱要素について	気温・湿度・風速・放射熱など、体感に影響を与える要因について学ぶ。
7	温熱感覚の指標	有効温度・修正有効温度・不快指数等を計算し、室内の快適性を評価する。
8	伝熱理論 1	壁体の熱の伝わり方と主要建築材料の熱伝導率について理解する。
9	伝熱理論 2	熱伝導抵抗・熱貫流率・熱貫流抵抗・熱貫流量の求め方を理解する。
10	住宅と結露	結露現象について理解し、空気線図の読み取り方を学ぶ。 また、表面結露と内部結露の防止対策について理解する。
11	断熱について	中空層の断熱効果について理解し、断熱工法とその違いについて学ぶ。 また、断熱性能と省エネルギーについて考察する。
12	外界気象について	気温や相対湿度の変動をクリモグラフとデグリーデーから読み取る。
13	都市環境と地球環境 1	ヒートアイランド現象、ビル風、その他の都市環境問題について考察する。 また、地球温暖化原因や地球温暖化防止のための建築的取り組みについて学ぶ。
14	都市環境と地球環境 2	環境問題と建築の取り組みについてディスカッションを行なう。
15	まとめ	これまで学んだ視点から、健康で快適な住環境について考察する。

平成30年度

科目名	建築環境工学Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 必修
担当教員	長田 城治		
開講期	後期		
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、工学的視点から自然現象を捉えます。前期に学習した内容を基に、健康で快適な住居について、日射、光、色彩、音などの環境と建築の関係について学習し、考える力を養います。		
達成目標	①建築と環境の関係について理解することができたか。 ②日射、光、色彩、音などの特性が理解できたか。 ③建築環境工学の基本的な事項を学習し、設計製図などの課題において自身の設計に役立てることができたか。		
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	期末試験80%・平常点20%
教科書	『建築環境工学』市ヶ谷出版社		
参考書	その都度提示します		
学生への要望	授業で学んだことを建築計画に生かし、快適な室内環境形成に役立ててください。		
オフィスタイム	月曜日8:50~10:20 木曜日8:50~10:20 本館1F No.2 住居学研究室		
自学自習	予習：授業の内容をテキスト等で確認して、疑問点をまとめておくこと（1時間） 復習：授業内容をノート等で復習し、教科書の章末問題を取り組むこと。また、二級建築士試験の過去問題を適宜取り組むこと（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス	これからの授業についての説明及び室内環境の概略を説明します。
2	太陽の位置	日本における太陽の動きを理解し、日照と建築との関連を確認します。
3	日照と日影	日影図の描き方を学びます。
4	日射について	日射の有効性と害及び日照計算、日照調節の方法について学びます。
5	光環境について	測光量について学び、基礎的な照明計算の方法を習得します。
6	明視環境について	明視条件やグレア、照度の基準を学びます。
7	採光について	採光、天空率、昼光率等の意味を理解します。
8	採光について	採光、天空率、昼光率等の求め方を学びます。
9	照明について	人工照明の種類と建築における今後の照明の在り方を考えます。
10	色彩環境について	色彩の表し方について色の属性や表色系の種類を学びます。
11	色彩計画について	色彩の人への効果を学習し、それを活かした建築計画を学びます。
12	音環境について	音の性質やその単位について学びます。
13	騒音と遮音について	騒音レベルや遮音の仕組みを学び、騒音を防止する設計方法を習得する。
14	音響について	吸音や残響について学びます。
15	まとめと建築士試験対策	これまで学んだ視点から、健康で快適な住環境を考察します。 また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築環境工学Ⅱの試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習します。

科目名	建築設備	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 必修
担当教員	藤田 延幸		
開講期	前期		
授業概要	<p>授業の到達目標及びテーマ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。 [履修カルテの評価項目] ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。 ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について</p> <p>授業の概要 快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。</p>		
達成目標	<p>授業の到達目標及びテーマ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。 [履修カルテの評価項目] ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。 ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について</p> <p>授業の概要 快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。</p>		
受講資格	人間生活学科建築デザインコース4年生	成績評価 方法	定期試験により評価します。
教科書	「初学者の建築講座 建築設備（第二版）」著：大塚雅之 市ヶ谷出版社		
参考書	配付資料を使用します。		
学生への要望	積極的に授業に参加すること。		
オフィスタイム	月曜日、授業終了後		
自学自習			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の概要説明	授業の概要説明
2	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。
3	給排水設備について	給排水設備について
4	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について
5	事務所ビルの給排水設備の計画について	事務所ビルの給排水設備の計画について
6	事務所ビルの空調システムについて	事務所ビルの空調システムについて
7	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて
8	住宅の電気設備計画について	住宅の電気設備計画について
9	事務所ビルの電気設備計画について	事務所ビルの電気設備計画について
10	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について
11	防災設備について	防災設備について
12	建築物のライフサイクルからLCEやLCCO2について	建築物のライフサイクルからLCEやLCCO2について
13	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について
14	太陽エネルギー利用について	太陽エネルギー利用について

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について

平成30年度

科目名	建築法規 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修	
担当教員	佐久間 保一			
開講期	後期			
授業概要	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。			
達成目標	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験	
教科書	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院			
参考書				
学生への要望	建築士試験問題を解くこと。実生活の中で法律を意識すること。			
オフィスタイム	水曜日授業開始前（創学館2階教務部内非常勤講師室）、授業終了後			
自学自習	予習：次週のシラバスを確認し、建築士問題を解くこと 復習：その日の授業内容についてノートを整理すること			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス、建築法規の成り立ち	これからの授業の進め方及び、建築法規を学ぶことの意義について、建築に携わる者の倫理面から講義します。次に基準法、政令、条例、告示等の法の成り立ち、及び法規上の接続詞や数量の読み方について解説します。
2	建築法令集の活用法	建築関連法令集に、建築基準法、建築士法、都市計画法、建設業法、等の各法規及び各項目のインデックスを貼ります。このことにより法令集の概要及び成り立ちを理解します。
3	用語の定義1	建築で用いる用語（居室、新築、修繕、軒の高さ等）の定義について学びます。建築法規のみならず、実務においても基礎となる用語であることから、正しい理解が求められます。
4	用語の定義2	延焼の恐れのある部分、建築物の高さの定義、及び算出方法を学びます。このことから人間の生命を守る建築を創造することの責務について考えます。
5	敷地面積、建築面積、延面積の計算	敷地面積について、道路との関連について学びます。地下や軒の出がある場合の建築面積、延べ面積について、定義及び算出方法を学びます。
6	一般構造1	単体規定のあらましについて解説します。次に換気的重要性及び定義について学びます。天井の高さの定義及び算出方法について学習します。
7	一般構造2	居室における採光の重要性について学びます。次に有効採光面積の定義、及び算出方法について居室の定義を復習しながら学習します。
8	一般構造3	防火に関する用語（耐火構造、準耐火構造）の他、防火地域や準防火地域等のついて等について学びます。それぞれの相違をよく理解することが必要です。
9	用途地域1	集団規定のあらましについて解説します。次に都市計画地域、市街化区域、市街化調整区域、用途地域等、さらに用途制限の考え方について説明します。
10	用途地域2	引き続き用途地域による用途制限について学びます。法令集の用途制限に関する別表をよく理解することが求められます。
11	建蔽率の定義及び計算	用途地域、建蔽率の定義、及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。
12	容積率の定義及び計算	容積率の定義及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。
13	高さ制限1	建築物の高さを制限する道路斜線、隣地斜線、北側斜線について説明します。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。
14	高さ制限2	引き続き道路斜線、隣地斜線北側斜線についての定義、及び計算方法について学びます。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。
15	避難経路について	建築物における避難経路の確保のしかた及び二方向非難等の避難経路について解説します。このことから、人間の生命を守る建築物を創造することの責務について考えます。

平成30年度

科目名	建築法規Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 必修	
担当教員	佐久間 保一			
開講期	前期			
授業概要	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限、及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。□			
達成目標	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限、及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。□			
受講資格	建築デザインコース□	成績評価 方法	定期試験□	
教科書	「初めての建築法規」学芸出版社 「建築関係法令集」□			
参考書	「初めての建築法規」学芸出版社 「建築関係法令集」□			
学生への要望	建築士試験問題を解くこと□			
オフィスタイム	授業終了後			
自学自習				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス 建築法規Ⅰの復習	授業の進め方の説明。建築法規Ⅰにおいて、理解が不十分であった項目を重点的に復習する。最近の建築法令の動き。□
2	構造強度（木造）1	木造建築の構造強度に関する基準法、及び同施行令について理解する。□ 柱や梁で構成された木造在来工法についても復習する。□ *建築物の高さについて復習する。□
3	構造強度（木造）2	施行令40～45条の地震や風圧に耐える木造住宅の意味を理解し、軸組み（壁量）計算方法を学ぶ。□
4	構造強度（木造）3	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法を学ぶ。□
5	構造強度（木造）4	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法を学ぶ。□ 学び、告示による建築端部の壁量計算方法を学ぶ。□
6	構造強度（木造）5 組石造	壁量計算の小テストにより、理解したことを確認する。施行令54条の組石造についての関連法規を学ぶ。□ 併せて、組石造について理解する。□
7	構造強度 補強コンクリートブロック造 鉄筋コンクリート造	施行令62条等の補強コンクリートブロック造についての関連法規を学ぶ。併せて、補強コンクリートブロック造について□ 理解する。また、施行令72条等鉄筋コンクリートにおける関連法規を学ぶ。□
8	構造強度 鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造における、かぶり厚さ、柱の径等についてのポイントを学ぶ。併せて、鉄筋コンクリート造の構造について□ て学ぶ。□
9	構造強度 荷重と外力	固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力等の荷重と外力が、法規によってどのように記載されているか、その□ 意味を理解する（（施行令84条～）□
10	防火と内装制限	屋根や外壁、防火壁等の防火に関わる関連法規及び、室内の内装制限を受ける建物について学び、安心安全な建築□ 設計について考える（施行令112条他）□
11	建築士法	建築士でなければ設計できない建築、建築士事務所の仕事について、建築士法に則りながら理解する。□ 建築士の責務の重要性を学ぶ。□
12	都市計画法	都市計画法における、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域、開発行為について学ぶ。また用途地域について□ 復習し、建築基準法との関連を確認する。□
13	建設業法 ハートビル法 消防法、品格法等	建設業法、ハートビル法、消防法、品格法等の関連法規の概要を学び、建築がたくさんの法律によって規制されている□ ことを理解する。福島県条例と地域の景観条例の説明。□
14	復習 1	建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。□
15	復習 2	前授業に引き続き、建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。□

平成30年度

科目名	建築構造 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	山形 敏明		
開講期	後期		
授業概要	構造力学は外力が作用したときの建築構造物の挙動を知るために必要不可欠なものである。建築物に働く力を理解するとともに、静定構造物の部材に生ずる力について基本的知識を身につける。		
達成目標	①力の釣り合いについて十分理解できたか。 ②各モデルの反力を求めることができるか。 ③M図、N図、Q図を正確に求めることができたか。		
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験80%、課題提出20%
教科書	やさしい構造力学 学芸出版社		
参考書	適宜紹介する		
学生への要望	不明な点は放置せず、直ちに質問すること。		
オフィスタイム	月曜日12:50~14:20. 14:30~16:00 住居学研究室		
自学自習	予習 当日の授業範囲の解法について予習する(1時間) 復習 授業内容の定着(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス・力学概論	構造力学の授業計画についての説明。 力とは何か、いろいろな力について考えてみる。
2	力の基礎 1	力の表現、符号、効果、単位について把握する。
3	力の基礎 2・力のモーメント	力のモーメントについて理解する。モーメントとは何か、モーメントの符号と距離の見極め方などいろいろな事例を通して学ぶ。
4	力の基礎 3・力の合成	力の合成の概念について演習する。合力とはいったい何なのか、合力の大きさ、位置について把握する。
5	力の基礎 4・荷重	荷重の概念について実験を通して演習する。ここでは集中荷重と分布荷重について理解し、力の加わり方の違いについて学ぶ。
6	力の釣り合い	力の釣り合いとは何か。力学の重要基本である力の釣り合いという概念を理解する。特に回転をともなう力の釣り合いの問題演習を行う。
7	反力 1・構造物の力学モデル	構造物の力学モデル、構造物の支え方について授業する。反力とは何か、反力数と何かについて問題演習する。
8	反力 2・単純梁の反力	構造物の基本形である単純梁の反力について学ぶ。単純梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方について問題演習する。
9	反力 3・片持ち梁の反力	片持ち梁及び張り出し梁の反力について学ぶ。片持ち梁及び張り出し梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方を問題演習する。
10	反力 4・ラーメンの反力	ラーメンの反力について学ぶ。ラーメンとは何か理解し、ラーメンの反力について問題演習を行う。
11	部材に生じる力	これまで学んだ力の基礎・釣り合い・反力を応用して、部材に生じる力(曲げモーメント、せん断力、軸方向力)について問題演習を行う。
12	単純梁に生じる力 1	単純梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を授業する。
13	単純梁に生じる力 2	単純梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。
14	片持ち梁に生じる力 1	片持ち梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。
15	片持ち梁に生じる力 2	片持ち梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。まとめとして、力学 I の分野における建築士国家試験の対応箇所と要点に関する解説する。

平成30年度

科目名	建築構造Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	前期			
授業概要	構造力学は外力が作用したときの建築構造物の挙動を知るために必要不可欠なものである。建築物に働く力を理解するとともに、静定構造物の部材に生ずる力について基本的知識を身につける。			
達成目標	①力の釣り合いについて十分理解できたか。 ②各モデルの反力を求めることができるか。 ③M図、N図、Q図を正確に求めることができたか。			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験80%、課題提出20%	
教科書	やさしい構造力学 学芸出版社			
参考書	適宜紹介する			
学生への要望	不明な点は放置せず、直ちに質問すること。			
オフィスタイム	月曜日12:50~14:20. 14:30~16:00 住居学研究室			
自学自習	予習 当日の授業範囲の解法について予習する(1時間) 復習 授業内容の定着(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス・力学概論	構造力学の授業計画についての説明。 力とは何か、いろいろな力について考えてみる。
2	力の基礎 1	力の表現、符号、効果、単位について把握する。
3	力の基礎 2・力のモーメント	力のモーメントについて理解する。モーメントとは何か、モーメントの符号と距離の見極め方などいろいろな事例を通して学ぶ。
4	力の基礎 3・力の合成	力の合成の概念について演習する。合力とはいったい何なのか、合力の大きさ、位置について把握する。
5	力の基礎 4・荷重	荷重の概念について実験を通して演習する。ここでは集中荷重と分布荷重について理解し、力の加わり方の違いについて学ぶ。
6	力の釣り合い	力の釣り合いとは何か。力学の重要基本である力の釣り合いという概念を理解する。特に回転をとまなう力の釣り合いの問題演習を行う。
7	反力 1・構造物の力学モデル	構造物の力学モデル、構造物の支え方について授業する。反力とは何か、反力数と何かについて問題演習する。
8	反力 2・単純梁の反力	構造物の基本形である単純梁の反力について学ぶ。単純梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方について問題演習する。
9	反力 3・片持ち梁の反力	片持ち梁及び張り出し梁の反力について学ぶ。片持ち梁及び張り出し梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方を問題演習する。
10	反力 4・ラーメンの反力	ラーメンの反力について学ぶ。ラーメンとは何か理解し、ラーメンの反力について問題演習を行う。
11	部材に生じる力	これまで学んだ力の基礎・釣り合い・反力を応用して、部材に生じる力(曲げモーメント、せん断力、軸方向力)について問題演習を行う。
12	単純梁に生じる力 1	単純梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を授業する。
13	単純梁に生じる力 2	単純梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。
14	片持ち梁に生じる力 1	片持ち梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。
15	片持ち梁に生じる力 2	片持ち梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。まとめとして、力学Ⅰの分野における建築士国家試験の対応箇所と要点に関する解説する。

平成30年度

科目名	構造力学 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	前期			
授業概要	構造力学は外力が作用したときの建築構造物の挙動を知るために必要不可欠なものである。建築物に働く力を理解するとともに、静定構造物の部材に生ずる力について基本的知識を身につける。			
達成目標	①力の釣り合いについて十分理解できたか。 ②各モデルの反力を求めることができるか。 ③M図、N図、Q図を正確に求めることができたか。			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験80%、課題提出20%	
教科書	やさしい構造力学 学芸出版社			
参考書	適宜紹介する			
学生への要望	不明な点は放置せず、直ちに質問すること。			
オフィスタイム	月曜日12:50~14:20. 14:30~16:00 住居学研究室			
自学自習	予習 当日の授業範囲の解法について予習する(1時間) 復習 授業内容の定着(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス・力学概論	構造力学の授業計画についての説明。 力とは何か、いろいろな力について考えてみる。
2	力の基礎 1	力の表現、符号、効果、単位について把握する。
3	力の基礎 2・力のモーメント	力のモーメントについて理解する。モーメントとは何か、モーメントの符号と距離の見極め方などいろいろな事例を通して学ぶ。
4	力の基礎 3・力の合成	力の合成の概念について演習する。合力とはいったい何なのか、合力の大きさ、位置について把握する。
5	力の基礎 4・荷重	荷重の概念について実験を通して演習する。ここでは集中荷重と分布荷重について理解し、力の加わり方の違いについて学ぶ。
6	力の釣り合い	力の釣り合いとは何か。力学の重要基本である力の釣り合いという概念を理解する。特に回転をともなう力の釣り合いの問題演習を行う。
7	反力 1・構造物の力学モデル	構造物の力学モデル、構造物の支え方について授業する。反力とは何か、反力数と何かについて問題演習する。
8	反力 2・単純梁の反力	構造物の基本形である単純梁の反力について学ぶ。単純梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方について問題演習する。
9	反力 3・片持ち梁の反力	片持ち梁及び張り出し梁の反力について学ぶ。片持ち梁及び張り出し梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方を問題演習する。
10	反力 4・ラーメンの反力	ラーメンの反力について学ぶ。ラーメンとは何か理解し、ラーメンの反力について問題演習を行う。
11	部材に生じる力	これまで学んだ力の基礎・釣り合い・反力を応用して、部材に生じる力(曲げモーメント、せん断力、軸方向力)について問題演習を行う。
12	単純梁に生じる力 1	単純梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を授業する。
13	単純梁に生じる力 2	単純梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。
14	片持ち梁に生じる力 1	片持ち梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。
15	片持ち梁に生じる力 2	片持ち梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。まとめとして、力学 I の分野における建築士国家試験の対応箇所と要点に関する解説する。

平成30年度

科目名	構造力学Ⅰ 演習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	前期			
授業概要	構造力学は外力が作用したときの建築構造物の挙動を知るために必要不可欠なものである。建築物に働く力を理解するとともに、静定構造物の部材に生ずる力について基本的知識を身につける。構造力学Ⅰの講義で得た知識を、問題演習及び実験を通して定着させる。			
達成目標	①力の釣り合い式を用いて未知数を求めることができたか。 ②各モデルの反力を求めることができるか。 ③M図、N図、Q図を正確に図示することができたか。			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	課題提出80%、授業姿勢20%	
教科書	やさしい構造力学 学芸出版社			
参考書	適宜紹介する			
学生への要望	予習・復習により、多くの問題を解くこと。			
オフィスタイム	月曜日12:50~14:20、14:30~16:00 住居学研究室			
自学自習	予習 当日の授業範囲の問題演習(1時間) 復習 授業で行った問題を自力で解くこと(2時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス・力学概論	演習についての説明。 力とは何か、いろいろな力について考えてみる。
2	力の基礎 1	力の表現、符号、効果、単位について把握する。
3	力の基礎 2・力のモーメント	力のモーメントについて理解する。モーメントとは何か、モーメントの符号と距離の見極め方などいろいろな事例を通して学ぶ。
4	力の基礎 3・力の合成	力の合成の概念について演習する。合力とはいったい何なのか、合力の大きさ、位置について把握する。
5	力の基礎 4・荷重	荷重の概念について実験を通して演習する。ここでは集中荷重と分布荷重について理解し、力の加わり方の違いについて学ぶ。
6	力の釣り合い	力の釣り合いとは何か。力学の重要基本である力の釣り合いという概念を理解する。特に回転をともなう力の釣り合いの問題演習を行う。
7	反力 1・構造物の力学モデル	構造物の力学モデル、構造物の支え方について授業する。反力とは何か、反力数と何かについて問題演習する。
8	反力 2・単純梁の反力	構造物の基本形である単純梁の反力について学ぶ。単純梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方について問題演習する。
9	反力 3・片持ち梁の反力	片持ち梁及び張り出し梁の反力について学ぶ。片持ち梁及び張り出し梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方を問題演習する。
10	反力 4・ラーメンの反力	ラーメンの反力について学ぶ。ラーメンとは何か理解し、ラーメンの反力について問題演習を行う。
11	部材に生じる力	これまで学んだ力の基礎・釣り合い・反力を応用して、部材に生じる力(曲げモーメント、せん断力、軸方向力)について問題演習を行う。
12	単純梁に生じる力 1	単純梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を授業する。
13	単純梁に生じる力 2	単純梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。
14	片持ち梁に生じる力 1	片持ち梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。
15	片持ち梁に生じる力 2	片持ち梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。

平成30年度

科目名	構造力学Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修	
担当教員	濱尾 博文			
開講期	後期			
授業概要	2年前期で学んだ構造力学Ⅰの基礎知識、または、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用していくのか、どのように応用、展開していくのか、具体的な事案、実際に直面する問題を交えながら学んでいく。			
達成目標	2年前期で学んだ構造力学Ⅰの基礎知識、または、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用していくのか、どのように応用、展開していくのか、具体的な事案、実際に直面する問題を交えながら学んでいく。			
受講資格	人間生活学科2年建築コースの学生	成績評価 方法	試験100%	
教科書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」			
参考書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」			
学生への要望	予習、復習を必ず行うこと			
オフィスタイム	木曜日授業開始前、授業終了後			
自学自習	予習：次週のシラバスを確認し、知識を深めること 復習：その日の授業内容についてノートを整理すること			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	「建築構造設計とは」建築設計との位置づけと社会的役割
2	構造計算モデル1	応用解析に用いる解析用モデルの作り方、基礎的ルール
3	構造計算モデル2	実物から解析可能なまでに単純化されたモデルの作り方
4	荷重と変形1	単純な架構モデルに力が加わった時の変形と曲げのモーメント
5	荷重と変形2	単純な架構モデルの応力図における釣り合いと反力
6	荷重と変形3	やや複雑な架構モデルの応力の求め方
7	荷重の考え方	建築設計で想定される荷重の種類と考え方
8	応用解析1	解析モデルの入力の方法
9	応用解析2	モデルの応力解析と結果の検証
10	応用解析3	実例に近いモデルの応力解析と結果の検証
11	断面算定1	応力度、断面に関する数値（断面2次モーメント）
12	断面算定2	応力度、断面に関する数値（断面係数）
13	座屈	座屈とは、座屈を起こすしくみ
14	たわみ	たわみが起こる仕組み、たわみ量と荷重の関係
15	保有水平耐力	保有水平耐力を求める意味と、必要保有水平耐力の決め方

平成30年度

科目名	構造力学Ⅱ演習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修	
担当教員	濱尾 博文			
開講期	後期			
授業概要	構造力学が実際の建物でどのように利用されているのか、また建築デザインにおいて空間、構成部材の美しさを演出する上で、いかに構造デザインが重要なものか、演習を通して体感しながら学んでいく。			
達成目標	構造力学が実際の建物でどのように利用されているのか、また建築デザインにおいて空間、構成部材の美しさを演出する上で、いかに構造デザインが重要なものか、演習を通して体感しながら学んでいく。			
受講資格	人間生活学科 2年建築コースの学生	成績評価 方法	試験100%	
教科書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」			
参考書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」			
学生への要望	予習、復習を必ず行うこと			
オフィスタイム	木曜日授業開始前、授業終了後			
自学自習	予習：次週のシラバスを確認し、知識を深めること 復習：その日の授業内容についてノートを整理すること			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	世界の名建築家の設計した建物の構造
2	構造計算モデル4	イスの応用解析モデルの作成
3	構造計算モデル5	楽器の応力解析モデルの作成
4	荷重と変形4	建築士過去の問題集の解答と解説
5	荷重と変形5	建築士過去の問題集の解答と解説
6	荷重と変形6	建築士過去の問題集の解答と解説
7	荷重の考え方	構造設計用荷重表の作成
8	応用解析4	解析モデルの入力と実行
9	応用解析5	解析モデルの入力と実行（検証）
10	応用解析6	解析モデルの入力と実行（検証）
11	断面算定3	断面3次モーメントの算定
12	断面算定4	断面係数の算定
13	座屈	座屈長さの算定、座屈を防ぐ方法
14	たわみ	たわみ量の求め方、たわみを小さくする方法
15	保有水平耐力	保有水平耐力を求め方、必要保有水平耐力の求め方

平成30年度

科目名	建築材料学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修	
担当教員	長田 城治			
開講期	後期			
授業概要	建築を理解する上で必要な材料の知識を身につけることを目標とします。建築物に一般的に使用されている材料の性質を分類し、木造、鉄筋コンクリート造、鋼構造等の構造部材の特徴、使用法について理解し、設計する上でどの材料を用いるべきか、従業を通して材料を選択する能力を養うこと目指します。これらの主要構造材に加え、外装材料や内装材料、屋根材料など建物の仕様に關わる材料特性を理解することを目標とします。			
達成目標	①木材やコンクリート、鉄骨などの建築材料について基本的な性能を理解することができたか。 ②材種別に材料特性の長所や短所を把握することができたか。 ③建物の規模や形式、用途によって建築材料の使い分けが出来るようになったか。			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験70%、授業内課題（小テスト、小レポートなど）30%	
教科書	『やさしい建築材料』学芸出版社			
参考書	授業内で適宜紹介する			
学生への要望	定期試験以外に授業内で実施するレポート提出を課すため、欠席がないように注意すること。また、住宅や商業施設などの身の回りの建物で使用する建築材料に注視するように心がけること。			
オフィスタイム	月曜日8:50~10:20 水曜日14:30~16:00 本館1F No.2 住居学研究室			
自学自習	予習：授業の内容をテキスト等で確認して、疑問点をまとめておくこと（1時間） 復習：授業内容をノート等で復習し、授業で出された課題に取り組むこと。また、授業内で取り上げた材料について実物に触れること。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス、建築材料の概要	授業ガイダンス、建築材料学の意味について説明し、科目の導入とします。
2	木材の種類と特徴	日本建築と木材についての関わりを把握し、木材の種類・特徴について理解を深めます。
3	木材の強度と構造	構造部材としての木材について、その強度および構造について理解します。また、木取り・規格・等級について解説します。
4	コンクリートの性質	コンクリートの歴史、用途、特徴について把握し、コンクリートの性質について理解します。
5	コンクリートの種類と調査設計	コンクリートの種類と調査設計について学習します。また、木材とコンクリートに関する小テストを実施し、それぞれの材料が持つ長所や短所を再確認します。
6	鋼材の特徴と製鋼の工程	鋼材の歴史的背景、鉄と鋼の違い、鋼材の特徴と製鋼の工程について整理し、理解を深めます。
7	鋼材の種類、性質と規格	鋼材の種類とその特徴、用途を整理し、建築の構造用に使われる鋼材の性質を明確に理解します。
8	焼成品	タイル・煉瓦の歴史、特徴、種類、形状について学習します。
9	焼成品	瓦・衛生陶器の歴史、特徴、種類、形状について学びます。
10	ガラスの特徴と種類、石材の特徴と分類	ガラス・石材の歴史、特徴、種類を把握し、その用途と施工法を学習します。また、鋼材や修正品、ガラスに関する小テストを実施し、それぞれの材料が持つ長所や短所を再確認します。
11	左官の特徴と種類	左官の起源と定義、特徴と種類を理解します。
12	プラスチック材料、塗料	プラスチック・塗料の特徴と種類を把握し、その用途と施工法を学びます。
13	部位別・性能別材料	床・壁・天井仕上材の要求性能を、使用例を示し、設計する上で材料選択の要因を学びます。
14	部位別・性能別材料	防水・防火・耐火・断熱・防音・吸音材の要求性能を使用例を基に学習します。
15	まとめと建築士試験対策	構造部材、外装材料、内装材料、屋根材料の材料特性を総まとめし、建築における材料学の位置付けの確認をします。また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築材料学の試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習します。

平成30年度

科目名	建築施工	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 必修	
担当教員	堀井 勝典			
開講期	前期			
授業概要	(1) 施工法の基礎的知識の理解 (2) 実際の建物（設計図・OHP・ビデオ）の紹介			
達成目標	(1) 施工法の基礎的知識の理解 (2) 実際の建物（設計図・OHP・ビデオ）の紹介			
受講資格	人間生活学科建築デザインコース3年	成績評価 方法	出席（50%） 試験（50%）	
教科書	建築施工教科書			
参考書	なし			
学生への要望	とにかく授業に出ること			
オフィスタイム	水曜日授業開始前（創学館2階教務部内非常勤講師室）、授業終了後			
自学自習	予習：次週のシラバスを確認し、知識を深めること 復習：その日の授業内容についてノートを整理すること			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	序説	建築施工のあらまし、施工法の変遷について
2	契約と見積	建築の見積・契約等の流れについて
3	工事計画・管理	工事計画・管理等の説明
4	仮設工事	何も作らない工事としての認識
5	基礎工事	土工事、山留工事、基礎工事の概説
6	鉄筋コンクリート工事	鉄筋工事、型枠工事の概説
7	鉄筋コンクリート工事	コンクリートの性質、調合について
8	鉄筋コンクリート工事	コンクリート工事の検査体制
9	鉄筋コンクリート工事	施工、各種コンクリート工事について
10	鉄骨工事	工事作業、現場作業のあらまし
11	木工事	現場施工、各種工法の概説
12	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について（その1）
13	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について（その2）
14	付帯設備工事	生活に必要な設備工事について
15	まとめ	施工法のまとめ。補足説明。

科目名	統計学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	前期		
授業概要	製品は一定の規格を満たすよう生産される。しかし個々の製品は基準値からのずれを有する。これらのずれを管理し一定の品質で供給するには統計学の知識が必要となる。また実社会で生じる様々な問題の原因を探索し解決する際には多変量解析などの手法が有効である。本講義では統計学を理解するための数学に始まり、基本的な統計処理や多変量解析について学ぶ。		
達成目標	本講義では、実際に統計学の手法を適用できるようになることを目的とする。具体的な目標は（1）統計学に必要な数学を理解すること、（2）生産管理で用いられる統計学の考え方を理解すること、（3）統計処理ソフトを用いて基本的な仮説検定や適合度の検定を行うことができること、である。		
受講資格	情報処理科目を履修してあることが望ましい。	成績評価 方法	成績評価はレポートと理解度確認ペーパーにより行う。レポートにより成績の80%を評価し、理解度確認ペーパーの提出により成績の20%を評価する。
教科書	テキストを PDF として Web 上で配信する(同PDFの印刷物を授業時に配布する)。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・村上 征勝, 工業統計学, 朝倉書店 ・前野 昌弘, 三國 彰, 図解でわかる統計解析, 日本実業出版社 ・涌井 良幸, 涌井 貞美, 図解でわかる多変量解析, 日本実業出版社 		
学生への要望	事前に配布資料に目を通しておき、理解できない部分を確認しておくこと。自ら参考書等にあたり、筆算による確認や統計処理を行ってみること。		
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 木曜日 12:50-14:20, 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		
自学自習	事前学習：配布資料を確認し、授業で行う内容を把握しておくこと（45分） 事後学習：授業で行った統計処理を、再度自分で行ってみること（45分）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	本講義で行う目的・内容・単位数・成績評価方法など説明を行う。また次回以降の講義に向けて、単位と次元について学ぶ。
2	統計数学基礎 I (指数関数・数列と極限・和と和の記号)	統計処理を理解するには、基礎的な数学を理解しておく必要がある。正規分布を理解する上で必要な指数関数と指数法則、および多数のデータを扱う上で必要な数列と和について学ぶ。
3	統計数学基礎 II (確率)	統計の基礎には確率概念がある。確率の概念を理解するために、まず場合の数（順列と組合せ）を学ぶ。次に確率変数と確率の考え方を理解する。
4	統計数学基礎 III	基本的な統計量として平均値や標準偏差がある。これまで学んだ確率変数や確率の概念を用い、平均値の計算方法を学ぶ。さらに統計処理で重要な分散と標準偏差を理解し、具体的な計算方法を学ぶ。
5	統計数学基礎 IV (ベクトルと行列)	実際の統計処理ではデータをベクトルや行列により表現することが多い。統計処理を正しく行うためには、ベクトルや行列についての基礎事項を理解しておく必要がある。本時ではベクトルおよび行列の基礎事項について学ぶ。
6	統計数学基礎 V (行列の演算・逆行列・固有ベクトル・固有値)	行列の形式で表現されたデータからの特徴量などを抽出するために、行列の対角化が行われることが多い。対角化を理解するためには固有値や固有ベクトルの理解が欠かせない。そこで本時では、行列の演算に必要な逆行列および固有ベクトルと固有値について、これらの量がどのような意味を有するのか学ぶ。
7	統計処理ソフト	現在の統計処理では大量のデータを扱うため、コンピュータを用いてデータ処理を行う。これらの統計処理を行うソフトウェアは多々あるが、本講義では近年用いられていることの多い統計処理ソフト R を採用し、統計処理ソフトの使い方を学ぶ。ここではデータ処理を行う上で必須である、データの読み込みや特定行の取り出しなどの基礎的な扱いを学ぶ。
8	データの種類と統計量	データには定性的なものや定量的なものがある。これらの区別(尺度水準)について学ぶ。また多くのデータがある場合に、データの特徴を掴む方法として計算によって得られる数値を利用する方法がある。良く用いられる数値に最頻値・中央値・平均値などがあり、これらの量は要約統計量と呼ばれている。ここでは複数の要約統計量の特徴を学び、要約統計量を算出する方法を学ぶ。
9	不偏標準偏差・相関係数	中心極限定理から、統計学において正規分布は特別な意味をもつ。正規分布を特徴付ける平均値と標準偏差は、データからはデータの平均値と不偏標準偏差を計算することによって得られる。ここでは不偏標準偏差の意味とその算出方法を学ぶ。また分散を拡張した共分散を学び、さらに関係性の指標として重要な相関係数を学ぶ。
10	ヒストグラム・散布図	数値データは直感的に分かりにくいことが多いため、グラフを作成することでデータの内容を捉えやすくなる。ここではヒストグラムおよび(対)散布図の作成方法について学ぶ。また作成した図の保存方法なども学ぶ。
11	回帰	二つの変量間において関係があるか否かを知りたいことは多い。この関係を調べる際に用いられる方法が最小二乗法である。ここでは最小二乗法とはどのような考えに基づく方法であるのか、また使用する際の注意点はなにか学ぶ。実際のデータに最小二乗法を適用し、回帰直線を求めることとする。
12	検定	仮説検定は統計学の中でも中心的な位置を占める。ここでは検定の考え方を学び、帰無仮説や有意水準の概念を理解する。仮説検定では正規分布が重要な役割を担うため、正規分布の形状はどのように定まっていたか復習する。また実際のデータで正規分布に基づく仮説検定を行う際に行うべき正規性のチェック方法を学ぶ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	平均値の検定（パラメトリック検定）	データを得た場合に二つの群での平均値が一致しているか否かが問題となることが多い。しかし例え同一の群から得られるデータであっても、データから得られる平均値は一致しない。このため二つの群の平均値が一致しているのか検討する必要がある。ここでは平均値の検定のうちパラメトリックな検定をデータに適用し、平均値の検定の仕方を学ぶ。
14	適合度の検定	理論と実験結果が一致しているか、あるいは二つの変量に相関があるかなどを知りたいことは多い。この際に用いられる方法が適合度の検定および独立性の検定である。ここでは適合度・独立性の検定の基礎的な考え方と、実際のデータへの適用の仕方を学ぶ。
15	統計処理結果の記述方法	統計処理を行った場合、どのような処理を行ったか、その結果どうであったかを適切に記述しなければならない。適切な情報伝達ができるように、統計処理に伴う文章の記述の仕方について学ぶ。また本時においてレポート課題を課す。

科目名	家庭電気・機械	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	後期		
授業概要	日常では様々な機器を利用することで、日々の生活を快適に過ごすことができている。しかし、これらの機器は利便性を与えるだけでなく、時には危険性も与える。そこで機器を有効かつ安全に利用でき、機器の維持管理を行えるよう、日常生活で利用している機器について動作原理および構造を学ぶ。		
達成目標	本講義では機器の原理および構造を理解するために、(1)基本的な物理法則の理解すること、(2) 機械の動作原理の理解すること、(3) 家電製品の動作原理の理解すること、を目標とする。		
受講資格	なし。	成績評価 方法	課題(理解度の確認) 2回・理解度確認ペーパーの提出による。配点割合は課題が各 40%、理解度確認ペーパーの提出を 20% とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。課題実施時の持ち込みは、自筆記入による A4 用紙 1 枚 (表裏記入可) のみに限る。成績評価の観点からは、1) 基本的な物理法則の理解、2) 機械の扱い方や構造や原理の理解、3) 家電製品の動作原理の理解、である。科目の特性から、とくに 2) と 3) に重点を置く。
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 池本 洋一, 吉田 章, 家庭機械・電気・電子, 理工学社 (1996) 小暮 陽三, 物理で読みとく フシギの世界, 日本実業出版社 (2002) 横田 俊昭, ぶつり学, 共立出版 (1993) 		
学生への要望	基本的な物理を理解していることが望ましい (科目「生活物理学」を履修していることが望ましい)。		
オフィスタイト	<p>月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 火曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp</p>		
自学自習	<p>事前学習: 学習する内容に現れる未知の単語等について調べる (20分) 事後学習: 返却された確認ペーパーのコメントを確認すること。また、内容の確認・整理を行うこと (60分)</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	講義の目的と内容・成績評価の方法などの説明を行う。次回以降の準備として、数学の基礎事項(比率・指数・接頭辞・比例と反比例)を復習する。
2	基礎物理	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原則を学ぶ。状態の記述に必要な位置・速度・加速度の概念を復習したのち、運動の記述に必要な力や、保存則と関係する運動量・角運動量の基礎事項を学ぶ。
3	基礎物理および機械の構成要素	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原則を学ぶ。モーメント・仕事・仕事率・エネルギー・エネルギー保存則の基礎事項を学ぶ。これらの基礎事項を学んだのちに、機械の構成要素(道具やリンク機構)を学ぶ。
4	機械の構成要素	機械の構成要素としてベルト・チェーン・歯車・軸などを学ぶ。また回転とモーメントの関係や仕事の原理とシーソーやギアなどの機構の関係を学ぶ。
5	熱力学基礎	人間は有限温度中で生活し、実生活では熱を扱う機会が多い。そのため機器でも熱を扱うものが多い。ここでは熱や温度とは何かを復習し、動作原理を理解するための基礎となる理想気体の状態方程式を理解することとする。また熱に関する基本的な法則である熱力学第一法則・第二法則についても概略を学ぶ。
6	熱を利用した機器	燃焼に関係する器具や機関について学ぶ。バーナーやヒーターといった気体や液体燃料を利用する燃焼器具、内燃機関と外燃機関の違い、内燃機関であるエンジンの基本動作などについて学ぶ。
7	ヒートポンプ	実生活では温度を適切に調整することが必要な場合がある。ここでは熱力学の観点からヒートポンプの原理を理解し、ヒートポンプの特徴を学ぶ。とくに効率の観点からヒートポンプの優位性を理解し、ヒートポンプの利用例を知ることとする。
8	冷蔵庫	現代の家庭では、冷蔵庫は必須の電気機器である。冷蔵庫はヒートポンプを応用した冷蔵庫のほか、様々なタイプの冷蔵庫があることを学ぶ。また、それぞれの冷蔵庫の冷却原理について学び、どのような特徴があり、どのような場所で使用されているのか学ぶ。
9	課題 1	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。
10	電磁気の基礎	日常機器の殆どは電気を利用して動作する。このため日常機器の動作を理解するには電磁気の基本的な性質を理解しておく必要がある。ここでは電気・磁気・電磁波などの電磁気の基礎的な概念や性質を学ぶ。
11	電力生成	電気のエネルギーは便利なエネルギー形態である。しかし現在の技術では、多くの電気によるエネルギーを蓄えておくことは容易でない。このため、必要に応じて他のエネルギーを電気のエネルギー(電力)に変換する必要がある。電力は発電所で作られていると思いがちであるが、家庭でも電力を生成することがある。電
12	電磁気を利用した調理システム	家庭における電磁気を利用した器具に調理器がある。ここでは電気あるいは磁気を利用した調理器である、電磁調理器 (IH)・電気炊飯器・電子レンジの動作原理を学ぶ。動作原理を知ること、これらの機器の危険な面も理解することとする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	電気を利用した発光システム	現代社会において灯りは必須のものである。ここでは光を供給する電球・蛍光灯および近年使用されることの多い、Light Emitting Diode (LED) の仕組みを学ぶ。それぞれの製品の特徴を掴み、適切な使用ができるよう理解をはかる。
14	液晶と情報の記録	液晶が実用化されたことで、ディスプレイなどの厚さは極めて薄くなり取り扱いが簡単になった。ここでは広く用いられている液晶の原理を学び、液晶がどのような機器に用いられているか学ぶ。また、これまで情報を記録するには紙媒体が使用されてきたが、コンピュータの普及に伴い、情報を電子媒体に記録されることが増えてきている。ここでは情報の記録方法について、機械と磁気の観点から学ぶことにする。
15	課題2	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。

科目名	家庭電気・機械	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	後期		
授業概要	日常では様々な機器を利用することで、日々の生活を快適に過ごすことができている。しかし、これらの機器は利便性を与えるだけでなく、時には危険性も与える。そこで機器を有効かつ安全に利用でき、機器の維持管理を行えるよう、日常生活で利用している機器について動作原理および構造を学ぶ。		
達成目標	本講義では機器の原理および構造を理解するために、(1)基本的な物理法則の理解すること、(2) 機械の動作原理の理解すること、(3) 家電製品の動作原理の理解すること、を目標とする。		
受講資格	なし。	成績評価 方法	課題(理解度の確認) 2回・理解度確認ペーパーの提出による。配点割合は課題が各 40%、理解度確認ペーパーの提出を 20% とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。課題実施時の持ち込みは、自筆記入による A4 用紙 1 枚 (表裏記入可) のみに限る。成績評価の観点からは、1) 基本的な物理法則の理解、2) 機械の扱い方や構造や原理の理解、3) 家電製品の動作原理の理解、である。科目の特性から、とくに 2) と 3) に重点を置く。
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・池本 洋一, 吉田 章, 家庭機械・電気・電子, 理工学社 (1996) ・小暮 陽三, 物理で読みとく フシギの世界, 日本実業出版社 (2002) ・横田 俊昭, ぶつり学, 共立出版 (1993) 		
学生への要望	基本的な物理を理解していることが望ましい (科目「生活物理学」を履修していることが望ましい)。		
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 火曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		
自学自習	事前学習: 学習する内容に現れる未知の単語等について調べること (20分) 事後学習: 返却された確認ペーパーのコメントを確認すること。また、内容の確認・整理を行うこと (60分)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	講義の目的と内容・成績評価の方法などの説明を行う。次回以降の準備として、数学の基礎事項(比率・指数・接頭辞・比例と反比例)を復習する。
2	基礎物理	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原則を学ぶ。状態の記述に必要な位置・速度・加速度の概念を復習したのち、運動の記述に必要な力や、保存則と関係する運動量・角運動量の基礎事項を学ぶ。
3	基礎物理および機械の構成要素	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原則を学ぶ。モーメント・仕事・仕事率・エネルギー・エネルギー保存則の基礎事項を学ぶ。これらの基礎事項を学んだのちに、機械の構成要素(道具やリンク機構)を学ぶ。
4	機械の構成要素	機械の構成要素としてベルト・チェーン・歯車・軸などを学ぶ。また回転とモーメントの関係や仕事の原理とシーソーやギアなどの機構の関係を学ぶ。
5	熱力学基礎	人間は有限温度中で生活し、実生活では熱を扱う機会が多い。そのため機器でも熱を扱うものが多い。ここでは熱や温度とは何かを復習し、動作原理を理解するための基礎となる理想気体の状態方程式を理解することとする。また熱に関する基本的な法則である熱力学第一法則・第二法則についても概略を学ぶ。
6	熱を利用した機器	燃焼に関係する器具や機関について学ぶ。バーナーやヒーターといった気体や液体燃料を利用する燃焼器具、内燃機関と外燃機関の違い、内燃機関であるエンジンの基本動作などについて学ぶ。
7	ヒートポンプ	実生活では温度を適切に調整することが必要な場合がある。ここでは熱力学の観点からヒートポンプの原理を理解し、ヒートポンプの特徴を学ぶ。とくに効率の観点からヒートポンプの優位性を理解し、ヒートポンプの利用例を知ることにする。
8	冷蔵庫	現代の家庭では、冷蔵庫は必須の電気機器である。冷蔵庫はヒートポンプを応用した冷蔵庫のほか、様々なタイプの冷蔵庫があることを学ぶ。また、それぞれの冷蔵庫の冷却原理について学び、どのような特徴があり、どのような場所で使用されているのか学ぶ。
9	課題 1	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。
10	電磁気の基礎	日常機器の殆どは電気を利用して動作する。このため日常機器の動作を理解するには電磁気の基本的な性質を理解しておく必要がある。ここでは電気・磁気・電磁波などの電磁気の基礎的な概念や性質を学ぶ。
11	電力生成	電気のエネルギーは便利なエネルギー形態である。しかし現在の技術では、多くの電気によるエネルギーを蓄えておくことは容易でない。このため、必要に応じて他のエネルギーを電気のエネルギー(電力)に変換する必要がある。電力は発電所で作られていると思いがちであるが、家庭でも電力を生成することもある。電
12	電磁気を利用した調理システム	家庭における電磁気を利用した器具に調理器がある。ここでは電気あるいは磁気を利用した調理器である、電磁調理器 (IH)・電気炊飯器・電子レンジの動作原理を学ぶ。動作原理を知ること、これらの機器の危険な面も理解することとする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	電気を利用した発光システム	現代社会において灯りは必須のものである。ここでは光を供給する電球・蛍光灯および近年使用されることの多い、Light Emitting Diode (LED) の仕組みを学ぶ。それぞれの製品の特徴を掴み、適切な使用ができるよう理解をはかる。
14	液晶と情報の記録	液晶が実用化されたことで、ディスプレイなどの厚さは極めて薄くなり取り扱いが簡単になった。ここでは広く用いられている液晶の原理を学び、液晶がどのような機器に用いられているか学ぶ。また、これまで情報を記録するには紙媒体が使用されてきたが、コンピュータの普及に伴い、情報を電子媒体に記録されることが増えてきている。ここでは情報の記録方法について、機械と磁気の観点から学ぶことにする。
15	課題2	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。

科目名	人間環境学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3 年 2単位 選択	
担当教員	影山 志保			
開講期	後期			
授業概要	生命の維持には空気・水・食品の摂取が必須であることから、健康生活のためにはこれらの質が良好であることが重要である。この講義では生活環境である空気・水・土壌に着目し、生活環境を汚染している環境汚染物質が、食品や飲料水を介して、人間の健康にどのような問題を起こすのかについて考えていく。具体的な環境汚染例としては、ダイオキシン等の有機塩素系化合物や、水俣病の原因物質であるメチル水銀、そして発がん性マイコトキシンであるアフラトキシン、催奇形性でよく知られた医薬品のサリドマイドを事例として、毒性物質の作用機序について、栄養素の代謝などと比較して、学んでいく。			
達成目標	この講義では生活環境である空気・水・土壌に着目し、生活環境を汚染している環境汚染物質が、食品や飲料水を介して、人間の健康にどのような問題を起こすのかについて実生活にあてはめ考えていくことを目標としている。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	期末試験100点	
教科書	印刷資料を配布する			
参考書	薬理学関係の書物			
学生への要望	健康生活に必須である生活環境と食品の問題点について学び、実生活中に生かしてもらいたい。			
オフィスタイム	金曜日 I からIVコマ目食品衛生学研究室			
自学自習	授業の前にシラバスに示されている学習内容の予習をしノートを作成すること、授業後は学習内容についてノートまとめを行うことを自学自習とします。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	金属元素	食品汚染が問題となった公害として、水俣病・新潟水俣病（メチル水銀）、イタイイタイ病（カドミウム）、ヒ素ミルク事件（ヒ素）がある。環境問題の原点である水俣病の記録映像をまじえて、公害問題について学ぶ。
2	食品と金属元素	栄養金属元素（K, Na, P, Cl）、毒性金属元素（Hg, As, Cd, pb）、重金属の生体内挙動、食品に含まれる金属とその量、TDI（耐用一日摂取量について学ぶ。
3	有機塩素系芳香族化合物	農薬の人体傷害である殺虫剤（DDT, BHC）、除草剤（PCP, 2, 4, 5-T, CNP）、殺菌剤（クロルフェノール）とPCB、ダイオキシンで知られている有機塩素系芳香族化合物による人体傷害について学び、問題点について考える。
4	食品と有機塩素系芳香族化合物	化学物質の特徴、塩素化による化学変化、有機塩素系芳香族化合物の生体内挙動、多様な毒性、食品中に含有する有機塩素系化学物質とその量について学ぶ。
5	大量使用による化合物汚染	人間生活で大量に使用されている化学物質の環境と人体への影響について、大気・水質・土壌汚染の具体的な事例から問題点を学ぶ。
6	免疫機構と食物アレルギー	免疫機構（免疫組織、T細胞、体液性免疫、細胞性免疫、樹状細胞）と食物アレルギーについて学ぶ。
7	食品への健康影響	食品の空気酸化（果物の褐変、魚肉の黒ずみ、高度不飽和脂肪酸の過酸化、小麦の酸化と食品添加物の酸化防止剤）と野菜と土壌肥料（野菜栽培上の要素欠乏と過剰）について学ぶ。
8	水と調理1	上水道の役割と問題点、原水浄化法、塩素消毒による発ガン性化合物トリハロメタンについて学ぶ。
9	水と調理2	水道水の製造、トリハロメタンの発生機構と除去方法、生活排水と下水処理について学ぶ。
10	サリドマイド1	サリドマイドベビーに関するスウェーデンの記録映像から、催奇形とその発現機構について詳細に学ぶ。
11	サリドマイド2	胎盤血管閉門に関する知識を身につけ、各種化学物質の催奇形性に関する資料を参考に妊娠と医薬品について考える。
12	内分泌攪乱化学物質	ペプチドホルモンと低分子ホルモン（甲状腺ホルモン・ステロイドホルモン）、それらのホルモンの情報伝達方法、低分子ホルモンの類似物質である内分泌攪乱化学物質について学ぶ。
13	遺伝子操作作物と狂牛病	遺伝子操作作物（GMO）の実態と食品表示、GMOが生産したタンパク質が問題となる理由について学ぶ。また、狂牛病の病原物質である病原物質プリオンについて学ぶ。
14	生体と化学物質1（毒素）	毒素の作用機構、受容体での結合、毒素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。
15	生体と化学物質2（栄養素）	栄養素の作用機構、受容体での結合、栄養素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。

科目名	人間環境学実験	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 1単位 選択
担当教員	影山 志保		
開講期	前期		
授業概要	人間の生命の維持には空気・食品・水の摂取が必須であり、健康生活のためにはこれらの質が良好であることが重要である。この実験では生活環境の測定と評価、水の分析、体に付着している微生物、放射線の問題および食品腐敗微生物といった様々なテーマから人間環境を相対的に考えていく。		
達成目標	この実験では私たちが私たちが取り巻く環境を実際に測定し、対象に対する理解を深め、問題点を明らかにし、解決法を考え提案することを目標としている。		
受講資格	なし	成績評価 方法	①レポート20点 ②プレゼンテーション80点
教科書	印刷資料配布		
参考書	①水の分析 日本分析化学会北海道支部編（化学同人） ②環境微生物の測定と評価 山崎省二編（オーム社） ③カラーアトラス環境微生物 山崎省二編（オーム社）		
学生への要望	分析機器類、薬品やガス、環境中の微生物や毒性物質を取り扱うため、白衣を着用し機敏な行動をしてもらいたい。なお、実習にはPCを持参すること。実習室内には実習に使用しない物品などは持ち込まない。実習室での飲食は禁止する。実習終了後は実習室の清掃をお願いしたい。		
オフィスタイム	火曜日 I コマ目から IV コマ目 食品衛生学研究室		
自学自習	授業の前にシラバスに示されている学習内容の予習をしノートを作成すること、授業後は学習内容や実験結果のノートまとめを行うことを自学自習とします。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	人間環境学実験では生活環境である空気・水・土壌、食品と人に注目し、生活環境を汚染している環境汚染物質や食品が人間の健康にどのような問題を起こすのかについて、実際の測定を通して考えていく。ガイダンスでは授業内容の説明、実験方法の説明、機器使用方法の説明、成績評価方法についての説明を行う。
2	生活環境の測定と評価-1 (空中・土中微生物採取と培養、粉塵測定、放射線測定)	環境中には細菌、真菌、ウイルスなどの多種多様の微生物が存在しており、空气中浮遊粉じんの吸入では肺の病気や細菌感染症、ぜんそくや気管支炎、花粉症が生じることがあることから、私たちの生活環境中の粉塵の測定と、どんな微生物が生息しているかについて調べる。併せて放射線量についても測定する。まずこの時間は空中・土中微生物の採取の培養を行う。採取した土壌は風乾し、放射線測定の試料とする。測定項目についてその測定意義と分析値についてはその都度説明する。
3	生活環境の測定と評価-2 (空中・土中微生物採取と培養、粉塵測定、放射線測定)	前回採取した粉塵や土壌の放射線量の測定を行う。まず、風乾土壌を0.5μmの篩でふるい、ゲルマニウム半導体検出器で放射線測定を行う。測定項目についてその測定意義と分析値についてはその都度説明する。
4	生活環境の測定と評価-3 (空中・土中微生物の観察)	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。
5	生活環境の測定と評価-4 (空中・土中微生物の観察)	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。
6	生活環境の測定と評価-5 (空中や土壌中の粉塵・微生物・放射線の評価)	空中や土壌中の粉塵・微生物・放射線の結果を解析し、その関連性について考える。
7	発表会の準備	発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う
8	発表会	空中や土壌中の粉塵・微生物・放射線の結果を中心にプレゼンテーションを行う。
9	水-1（水の分析）	水は我々の生活に欠かせない物質であり、生活用水、工業用水、農業および漁業などの多方面にわたって利用されている。我々が利用する水は循環しており、その中には天然水、排水および下水も含まれることから、私たちは水質について十分に知っておく必要がある。身近な水を採取し、物理的性質（pH、水温、透視度、濁度、電気伝導率、溶存酸素、塩分濃度）、化学的性質（COD、アンモニア窒素、亜硝酸イオン、硝酸イオン、リン酸イオン）、一般細菌および大腸菌数の計測について行う。
10	水-2（水の分析）	引き続き採取した水の物理的性質（pH、水温、透視度、濁度、電気伝導率、溶存酸素、塩分濃度）、化学的性質（COD、アンモニア窒素、亜硝酸イオン、硝酸イオン、リン酸イオン）、一般細菌および大腸菌数の計測について行う。
11	水-3（水中微生物の観察）	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。
12	水-4（水虫微生物の観察）	微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。
13	水-5（水の評価）	水分析の結果と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。
14	発表会の準備	発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う
15	発表会	水と水中微生物の結果を中心にプレゼンテーションを行う。
16	人体付着微生物-1（付着微生物の採取と培養）	人体や衣類に付着している微生物（細菌・かび）を培養するにあたり、トリプチケースソイブロスを作成する。ここでは器具や培地を無菌的に作るために、無菌操作や滅菌の手法について学ぶ。また、人体や衣類に付着している微生物（細菌・かび）をスタンプ法により採取し培養する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
17	人体付着微生物-2 (付着微生物の採取と培養)	人体や衣類に付着している微生物 (細菌・かび) をスタンプ法により採取し培養する。
18	人体付着微生物-3 (付着微生物の観察)	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。
19	人体付着微生物-2 (付着微生物の観察)	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。
20	人体付着微生物-3 (付着微生物の評価)	人体付着微生物数と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。
21	発表会の準備	発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う
22	発表会	人体付着微生物の結果を中心にプレゼンテーションを行う。
23	食品腐敗微生物-1 (食品中の微生物の培養)	食品中の生菌数は食中毒と品質劣化 (腐敗) の重要な指標となる。食中毒は、微生物が食品中で増殖または毒素を生産した食品を人が摂食することで起こるが、汚染され病原微生物の中には、少ない菌数で食中毒を引き起こす食中毒菌もいる。この実験授業では、腐敗した食品を0.9%滅菌生理食塩水中に懸濁したあと、懸濁液1mlをトリプトソーヤ寒天培地中に混釈し、37°C48時間培養後、食品中の生菌数を計測する。
24	食品腐敗微生物-2 (食品中の微生物の培養)	腐敗した食品を0.9%滅菌生理食塩水中に懸濁したあと、懸濁液1mlをトリプトソーヤ寒天培地中に混釈し、37°C48時間培養する。
25	食品腐敗微生物-3 (食品腐敗微生物数の計測と観察)	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。
26	食品腐敗微生物-4 (食品腐敗微生物の観察)	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。
27	食品腐敗微生物-5 (食品腐敗微生物の評価)	食品中の微生物数と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。
28	食品腐敗微生物-6 (食品腐敗微生物の評価)	食品中の微生物数と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。
29	発表会の準備	発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う
30	発表会	食品腐敗微生物の結果を中心にプレゼンテーションを行う。

科目名	色彩学		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	松田 理香			
開講期	前期			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】 色彩の基礎を総合的に学びます。物理的側面と心理的、生理的側面から概観しながら、日常生活における色彩の役割について学びます。</p> <p>【授業の概要】 色が見えるとはどういうことなのか。色の役割、色の分類や名前、心理効果、配色などについて解説します。毎授業の最後に簡単な確認問題に取り組みます。また色相やトーン体系を理解するために、色材の混色や、配色カードを用いた演習課題に取り組みとともに、色覚弱者についても学びます。</p>			
達成目標	色彩に関する検定試験3級程度の知識を身につけることを目標とします。			
受講資格	人間生活学科 1年生	成績評価 方法	確認問題(60点)、演習課題(40点)で総合的に評価しますが、講義内容の7割程度の理解を期待します。	
教科書	各單元ごとに資料を配布します。			
参考書	色彩学概説(千々岩英彰著:東京大学出版)、カラーマスターベーシック(NPO法人アデック出版局) 他			
学生への要望	日常生活の中で色彩が果たす役割について考えてください。			
オフィスタイム	平日8:30~17:00 (No.1生芸研究室)			
自学自習	<p>①事前学習 授業内容をシラバスで確認すること(30分)</p> <p>②事後学習 授業で取り組んだことを踏まえて、配布資料などを参考にノートにまとめること(1時間以上)</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1. 授業の目的と進行について説明する。 2. 色を見るとはということか、色の役割などについて考える。
2	講義: 色のなりたち (1)	1. 色を感じる経路 2. 光 3. 物体の色 4. 色を見るための光源
3	講義: 色のなりたち (2)	5. 色の分類 6. 目の構造と視細胞 ※確認問題
4	講義: 混色	1. 混色と等色 2. 三原色 3. 加法混色 4. 減法混色 5. 色材の混色 ※確認問題
5	講義: 色の表示方法	1. 表示方法の分類 2. 色名による表示 3. PCCS (日本色研配色体系) 4. マンセルシステム
6	演習: 課題1・課題2	【課題1】 新配色カード199aを使ってPCCS色相環の12色相を作成する 【課題2】 色材の混色と着色(1) ※コンパス、直定規、不透明絵の具(アクリル絵の具)を使用 ①正三角形を二つ作図し、頂点箇所はY(イエロー)、M(マゼンタ)、C(シアン)の単色を塗る。
7	演習: 課題2(つづき)	②一つの中心部は白、もう一つの中心部は黒で、その他は混合比の数字により混色して色を作る。 ③混色の技術と、2色による混色、3色による混色、明青色、暗青色を理解する。
8	演習: 課題3	【課題3】 色材の混色と着色(2) ※直定規、不透明絵の具(アクリル絵の具)を使用 正三角形の混色とは別に、黒と白で混色し帯状のグラデーションをつくる。
9	講義: 色の心理効果	1. 色の感情効果 2. 色のイメージ(心象) 3. 色の意味的作用/連想 ※確認問題
10	講義: 色彩調和 (1)	1. 配色と色彩調和 2. 色彩調和の原理 3. 色彩調和の形式 4. 配色の基本的な考え方 5. 色相を基準にした配色
11	講義: 色彩調和 (2)	6. トーンを基準にした配色 7. 基本的な配色技法 8. 慣習的な配色技法
12	演習: 課題4	【課題4】 PCCS色相とトーン 新配色カード199aを切り取ってPCCS色相・トーン一覧表に貼り付け完成させる。
13	講義: 環境と色彩	1. 色彩が及ぼす働き 2. 色彩と生活環境 3. 色彩とファッションコーディネート 4. 色彩とインテリアコーディネート ※確認問題

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	講義：色のユニバーサルデザイン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 色弱者の見え方 2. 高齢者の見え方 3. ユニバーサルデザイン 4. 見えづらい例と改善例
15	まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義のまとめ 2. 演習課題のまとめ 3. その他 色彩に関する検定試験について

平成30年度

科目名	福祉住環境	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
担当教員	阿部 恵利子		
開講期	前期		
授業概要	医療や福祉、建築について体系的で幅広い知識と専門能力を身に付け、高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案する能力を養う。		
達成目標	クライアントに適切な住宅改修プランを提示することができる能力と福祉用具や諸施策情報などについても助言できるような知識身に付ける。		
受講資格	人間生活学科 生活総合コース・建築デザインコース	成績評価 方法	①期末試験80% ②確認テスト20%
教科書	福祉住環境コーディネーター新版公式テキスト		
参考書	その都度、提示する。		
学生への要望	予習・復習をして授業に臨むこと。		
オフィスタイム	住居学研究室 月曜Ⅳ時限（14：30～16：00） 水曜Ⅳ時限（14：30～16：00）		
自学自習	予習：日頃から住環境に目を向け、問題点を把握する（1時間）。 復習：住環境の問題について解決策を導き出し、住みやすい住環境を考える（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業内容の説明。 福祉住環境コーディネーターの役割について。 住環境整備の留意点。
2	高齢者・障害者を取り巻く環境 1	総人口や世帯数、高齢化率の推移等を把握する。また、改正介護保険制度に関する内容を改正点も踏まえつつ具体的なサービスの種類などについて学ぶ。さらに住宅施策の変遷や具体的な住宅施策についても世代別に名称や内容を理解する。
3	高齢者・障害者を取り巻く環境 2	障害別の障害者数や在宅・施設の割合、身体障害者のバリアフリー化の状況について把握する。また、障害者自立支援法にもとづくサービスの概要について理解し、障害者向け住宅施策の変遷の概要と建設行政と福祉行政のおおまかな流れについて学ぶ。
4	障害の定義・捉え方と自立支援 1	障害の捉え方・リハビリテーションと自立支援について学ぶ。特に、リハビリテーションのあり方をはじめ、地域ケア、地域リハビリテーションの必要性について理解する。
5	障害の定義・捉え方と自立支援 2	高齢者や障害者の身体的、精神的特性、心理的特性について理解する。
6	疾患別・障害別にみた不自由と住環境整備 1	運動機能や記憶力、知能などが加齢とともにどのように変化するのかを理解する。
7	疾患別・障害別にみた不自由と住環境整備 2	高齢者の疾患について学ぶ。 また、要介護状態の要因といわれる脳血管障害や廃用症候群、認知症などについて、よく理解する。
8	疾患別・障害別にみた不自由と住環境整備 3	肢体不自由の脊椎損傷、内部障害、視覚障害、聴覚言語障害について学び、各障害別の不便・不自由を理解することで、住環境整備の留意点を理解する。
9	在宅での福祉用具の活用	福祉用具の定義をはじめ、福祉用具の選択や適応における基本姿勢について学ぶ。また、各用具の目的、構造、種類を学び、住宅改修と福祉用具を併用することでより快適な住環境を実現できることを理解する。
10	相談援助と福祉住環境整備	相談援助の基本的な考え方を踏まえ、より実践的な福祉住環境整備相談の進め方について学ぶ。
11	福祉住環境整備の技術と実践 1	福祉用具を活用しながら体験学習を行い、住環境整備を実現するための知識を養う。
12	福祉住環境整備の技術と実践 2	段差解消の手法や建具や把手の種類、スペースの配慮など、住環境整備の基本技術を理解する。
13	福祉住環境整備の技術と実践 3	外出から就寝までに関わる住環境整備について学ぶ。動作別にどのような配慮が必要となるのか、住環境整備の視点から考察する。
14	福祉住環境整備の技術と実践 4	排泄や入浴動作などに関連する水回りの住環境整備について学ぶ。
15	現代社会に望まれる住環境とは	これまでに学んだことを通して、住環境整備とその必要性についてディスカッションを行う。

科目名	建築設計製図 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 4単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	後期			
授業概要	建築の設計には、たくさんの図面が必要です。本授業では図面の重要性を認識し、プランニングや模型制作を通して、建築設計における基礎的な製図の力や空間を考える能力を伸ばします。このことにより、立体感や創造力を身につけることを目的とします。			
達成目標	①製図用具の基本的取り扱いが習得できたか。 ②基礎的な図面表現を理解できたか。 ③住宅の基本モジュールを理解し、応用することができたか。			
受講資格	建築デザインコース 1年生	成績評価 方法	製図及び模型等の課題提出80%、平常点20%	
教科書	『新しい建築の製図』学芸出版社 その他、適宜プリントや参考図面を配布します。			
参考書	住宅雑誌等			
学生への要望	作品の提出期限を厳守してください。自宅や本学製図室で制作することを心がけてください。			
オフィスタイム	月曜日8:50~10:20 木曜日10:30~12:00 山形・阿部：本館3F No.1 住居学研究室 長田：本館1F No.2 住居学研究室			
自学自習	予習：各課題の内容に従って資料を収集し、設計コンセプトや建築プランを検討すること（1時間） 復習：授業内で指導を受けたことを活かしてエスキスを行い、図面・模型・パネル製作に取り組むこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス	ガイダンス（授業目標等） これからの授業のすすめ方、建築設計製図室や製図台の使用法やルール、製図用具の購入方法等について説明する。また、設計図の種類やそれぞれの役割、図面制作にあたって必要な心構えについて述べる。図面には「正確・速さ・綺麗」が要求されることを理解する。 担当：山形・阿部・長田※他の授業との関係から担当教員は最低2名以上で指導する。
2	課題1「線の練習、文字の練習」	課題説明・作図・レタリング 製図における横線、縦線、斜線等の線の書き方の要領を平行定規や三角定規の使い方、シャープペンの持ち方等から理解し把握する。ケント紙とトレーシングペーパーの両方に描いてみることで、それぞれの違いを知る。 担当：山形・阿部・長田
3	課題1「線の練習、文字の練習」	作図・レタリング 製図における横線、縦線、斜線等の線の書き方の要領を平行定規や三角定規の使い方、シャープペンの持ち方等から理解し把握する。ケント紙とトレーシングペーパーの両方に描いてみることで、それぞれの違いを知る。 担当：山形・阿部・長田
4	課題1「線の練習、文字の練習」	作図・レタリング 製図における横線、縦線、斜線等の線の書き方の要領を平行定規や三角定規の使い方、シャープペンの持ち方等から理解し把握する。ケント紙とトレーシングペーパーの両方に描いてみることで、それぞれの違いを知る。 担当：山形・阿部・長田
5	課題1「線の練習、文字の練習」	作図・レタリング 前授業に引き続き、線の練習を行う。さらに、製図文字の基本、テンプレートや字消し板の使い方を学ぶ。また、次回の授業で行うダイヤモンドリングの描きかたについて解説する。 担当：山形・阿部・長田
6	課題1「線の練習、文字の練習」提出	作図・レタリング・提出 前授業に引き続き、線の練習を行う。さらに、製図文字の基本、テンプレートや字消し板の使い方を学ぶ。また、次回の授業で行うダイヤモンドリングの描きかたについて解説する。 担当：山形・阿部・長田
7	課題2「ダイヤモンドリング制作」	課題説明・作図 線の練習のため、ダイヤモンドリングを制作する。コンパスで正確に円を等分することと、均一で強い線でなければ、ダイヤモンドリングが綺麗に完成しないことを把握する。 担当：山形・阿部・長田
8	課題2「ダイヤモンドリング制作」	課題説明・作図 線の練習のため、ダイヤモンドリングを制作する。コンパスで正確に円を等分することと、均一で強い線でなければ、ダイヤモンドリングが綺麗に完成しないことを把握する。 担当：山形・阿部・長田
9	課題2「ダイヤモンドリング制作」	作図・提出 前授業に引き続き、ダイヤモンドリングを制作し提出する。提出期限を厳守する。 担当：山形・阿部・長田

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	課題3 「木造住宅トレース」	課題説明・平面図兼配置図、立面図、断面図作成 木造住宅（S=1/100）の平面図の描き方について説明する。建築基準法等（隣地境界線、建物の高さ、材料等）の関連や耐力壁等の構造面についても理解する。 担当：山形・阿部・長田
11	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修
12	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修
13	課題3 「木造住宅トレース」	平面図兼配置図、立面図、断面図作成 木造住宅（S=1/100）の平面図をトレースする。トレースすることにより、描きかたを理解する。 担当：山形・阿部・長田
14	課題3 「木造住宅トレース」	平面図兼配置図、立面図、断面図作成 担当：山形・阿部・長田
15	課題3 「木造住宅トレース」	平面図兼配置図、立面図、断面図作成 担当：山形・阿部・長田
16	課題3 「木造住宅トレース」	平面図兼配置図、立面図、断面図作成 木造住宅（S=1/100）の平面図をトレースする。トレースすることにより、描きかたを理解する。 担当：山形・阿部・長田
17	課題3 「木造住宅トレース」	平面図兼配置図、立面図、断面図作成 木造住宅（S=1/100）の平面図をトレースする。トレースすることにより、描きかたを理解する。 担当：山形・阿部・長田
18	課題3 「木造住宅トレース」提出	平面図兼配置図、立面図、断面図作成・提出 木造住宅（S=1/100）の平面図をトレースする。トレースすることにより、描きかたを理解する。 担当：山形・阿部・長田
19	課題4 「造形制作演習 平面の組み合わせ」	課題説明・エスキスチェック 平面を組み合わせさせて立体物を創造する。造形的視点を養い、今後の設計課題で模型を製作できるように建築模型材料と道具の使い方を学修する。 担当：山形・阿部・長田
20	課題4 「造形制作演習 平面の組み合わせ」	エスキスチェック・模型製作 担当：山形・阿部・長田
21	課題4 「造形制作演習 平面の組み合わせ」	エスキスチェック・模型製作 担当：山形・阿部・長田
22	課題4 「造形制作演習 平面の組み合わせ」	エスキスチェック・模型製作 担当：山形・阿部・長田
23	課題4 「造形制作演習 平面の組み合わせ」	エスキスチェック・模型製作 担当：山形・阿部・長田
24	課題4 「造形制作演習 平面の組み合わせ」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
25	課題5 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」	課題説明・読書・エスキス 文学作品を読み、文章から住宅に関わるキーワードを抽出して空間を創造する。文字情報から空間を読み解く力を養う。 担当：山形・阿部・長田
26	課題5 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」	読書・エスキス 担当：山形・阿部・長田
27	課題5 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」	読書・エスキス 担当：山形・阿部・長田
28	課題5 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」	読書・エスキス 担当：山形・阿部・長田
29	課題5 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」	読書・エスキス 担当：山形・阿部・長田
30	課題5 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」提出	平面図作成・提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田

平成30年度

科目名	建築設計製図Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 8単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 8単位 必修
担当教員	山形 敏明, 阿部 恵利子, 長田 城治			
開講期	通年			
授業概要	前期では、二級建築士程度の図面を時間内で設計し、完成させる能力を身につけることを目標とします。 後期では、一級建築士製図試験問題を通して、鉄筋コンクリート造の概要を理解することと、オリジナルの一級建築士設計製図 問題程度の図面を作成する力を養います。次にCADの基本操作を学び、オリジナル設計をCADで仕上げることを目標とします。			
達成目標	①二級建築士製図試験内容程度の木構造、鉄筋コンクリート構造の図面を時間内に完成させることができたか。 ②一級建築士製図試験内容程度の鉄筋コンクリート構造の図面を時間内に完成させることができたか。 ③CADで基礎的な図面を仕上げることができたか。			
受講資格	建築デザインコース2年	成績評価 方法	製図及び模型等の課題提出80%、平常点20%	
教科書	『新しい建築の製図』学芸出版社『コンパクト建築設計資料集』日本建築学会、彰国社 その他プリントを配布			
参考書	住宅雑誌等			
学生への要望	空き時間に製図を描く練習をするように心がけて下さい。			
オフィスタイム	前期：月曜日14：30～16：00 水曜日14:30～16:00 後期：月曜日8：50～10：20 木曜日10:30～12:00 山形・阿部：本館3F No.1 住居学研究室 長田：本館1F No.2 住居学研究室			
自学自習	予習：各課題の内容に従って資料を収集し、設計コンセプトや建築プランを検討すること（1時間） 復習：授業内で指導を受けたことを活かしてエスキスを行い、図面・模型・パネル製作に取り組むこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス	ガイダンス（前期授業目標等） これからの授業のすすめ方、課題への取り組み方について説明する。また、設計図の種類やそれぞれの役割、図面制作にあたって必要な心構えについて述べる。図面には「正確・速さ・綺麗」が要求されることを理解する。 担当：山形・阿部・長田※担当教員は最低2名以上で指導する。
2	課題1 「透視図」提出	透視図作成・提出 透視図の作成方法を習得しする。 担当：山形・阿部・長田
3	課題2 「木造住宅トレース」	図面作成 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田
4	課題2 「木造住宅トレース」	図面作成 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田
5	課題2 「木造住宅トレース」	図面作成 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田
6	課題2 「木造住宅トレース」	図面作成 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田
7	課題2 「木造住宅トレース」	図面作成 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田
8	課題2 「木造住宅トレース」提出	図面作成・提出 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田
9	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	課題説明・エスキスチェック 二級建築試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。 担当：山形・阿部・長田
10	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	エスキスチェック 二級建築試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。 担当：山形・阿部・長田
11	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	エスキスチェック 二級建築試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。 担当：山形・阿部・長田

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	エスキスチェック 二級建築試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。 担当：山形・阿部・長田
13	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	平面図、立面図、矩計図の作成 担当：山形・阿部・長田
14	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	平面図、立面図、矩計図の作成 担当：山形・阿部・長田
15	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	平面図、立面図、矩計図の作成 担当：山形・阿部・長田
16	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	平面図、立面図、矩計図の作成 担当：山形・阿部・長田
17	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	平面図、立面図、矩計図の作成 担当：山形・阿部・長田
18	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」提出	平面図、立面図、矩計図の作成・提出 担当：山形・阿部・長田
19	建設現場見学会	基礎工事や躯体工事、設備工事などを見学
20	建設現場見学会	基礎工事や躯体工事、設備工事などを見学
21	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」	課題説明・平面図、立面図、矩計図の作成 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。 担当：山形・阿部・長田
22	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」	平面図、立面図、矩計図の作成・提出 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。 担当：山形・阿部・長田
23	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」	平面図、立面図、矩計図の作成・提出 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。 担当：山形・阿部・長田
24	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」提出	平面図、立面図、矩計図の作成・提出 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。 担当：山形・阿部・長田
25	課題5 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」	課題説明・平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。 担当：山形・阿部・長田
26	課題5 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」	平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。 担当：山形・阿部・長田
27	課題5 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」	平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。 担当：山形・阿部・長田
28	課題5 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」	平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。 担当：山形・阿部・長田
29	課題5 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」	平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。 担当：山形・阿部・長田
30	課題5 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」提出	平面図、立面図、矩計図の作成・提出 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。 担当：山形・阿部・長田
31	授業ガイダンス・課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	ガイダンス（後期授業目標等）・課題説明 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修。 担当：山形・阿部・長田
32	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修。 担当：山形・阿部・長田
33	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	図面作成 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修。 担当：山形・阿部・長田
34	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	図面作成 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修。 担当：山形・阿部・長田

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
35	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	図面作成 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修。 担当：山形・阿部・長田
36	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	図面作成 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修。 担当：山形・阿部・長田
37	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	図面作成 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修。 担当：山形・阿部・長田
38	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」提出	図面作成・提出 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修。 担当：山形・阿部・長田
39	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修
40	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修
41	課題7 「造形創造演習」	課題説明・エスキス 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。 担当：山形・阿部・長田
42	課題7 「造形創造演習」	エスキスチェック 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。 担当：山形・阿部・長田
43	課題7 「造形創造演習」	エスキスチェック 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。 担当：山形・阿部・長田
44	課題7 「造形創造演習」提出	提出・プレゼンテーション 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。 担当：山形・阿部・長田
45	課題8 「複合施設トレース」	課題説明・図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記方法を習得する。 担当：山形・阿部・長田
46	課題8 「複合施設トレース」	図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記方法を習得する。 担当：山形・阿部・長田
47	課題8 「複合施設トレース」	図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記方法を習得する。 担当：山形・阿部・長田
48	課題8 「複合施設トレース」提出	図面作成・提出 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記方法を習得する。 担当：山形・阿部・長田
49	課題9 「複合施設オリジナル設計」	課題説明・資料収集 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計し、各種図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田
50	課題9 「複合施設オリジナル設計」	資料収集・エスキスチェック 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計し、各種図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田
51	課題9 「複合施設オリジナル設計」	資料収集・エスキスチェック 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計し、各種図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田
52	課題9 「複合施設オリジナル設計」	エスキス・図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計し、各種図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田
53	課題9 「複合施設オリジナル設計」	図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計し、各種図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田
54	課題9 「複合施設オリジナル設計」提出	図面作成・提出 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計し、各種図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田
55	課題10 「デジタルデザイン演習」	課題説明・CADの操作方法 Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
56	課題10 「デジタルデザイン演習」	CADの操作方法 Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田
57	課題10 「デジタルデザイン演習」	CADの操作方法 Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田
58	課題10 「デジタルデザイン演習」	図面作成 (CAD) Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田
59	課題10 「デジタルデザイン演習」	図面作成 (CAD) Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田
60	課題10 「デジタルデザイン演習」 提出	図面作成 (CAD) ・提出 Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田

平成30年度

科目名	建築設計製図Ⅲ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 10単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 10単位 必修
担当教員	山形 敏明, 阿部 恵利子, 長田 城治			
開講期	通年			
授業概要	建築設計製図Ⅲでは、建築設計製図Ⅱで修得した時間内で設計をまとめる力を伸ばします。さらに、オリジナル設計を通して、手書きやCADでのプレゼンテーション（表現力）テクニックを身につけることを主目的とします。			
達成目標	①建築構造、計画、法規上の制限を満たしたオリジナル設計ができているか。 ②設計課題に基づいたオリジナル設計を期限内に完成することができたか。 ③プレゼンテーション用の図面を完成させることができたか。			
受講資格	建築デザインコース 3年	成績評価 方法	製図及び模型等の課題提出80%、平常点20%（二級建築士試験対策問題含む）。	
教科書	『新しい建築の製図』学芸出版社			
参考書	住宅雑誌、新建築など			
学生への要望	各種建築の見学や、雑誌等で近年の建築を研究することを習慣づけてください。			
オフィスタイム	前期：月曜日14：30～16：00 水曜日14:30～16:00 後期：月曜日8：50～10：20 木曜日10:30～12:00 山形・阿部：本館3F No.1 住居学研究室 長田：本館1F No.2 住居学研究室			
自学自習	予習：各課題の内容に従って資料を収集し、設計コンセプトや建築プランを検討すること（1時間） 復習：授業内で指導を受けたことを活かしてエスキスを行い、図面・模型・パネル製作に取り組むこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス・課題1 「女性が考える理想住宅」	ガイダンス（前期授業目標等）・課題説明・資料収集 担当：山形・阿部・長田※担当教員は最低2名以上で指導する。
2	課題1 「女性が考える理想住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
3	課題1 「女性が考える理想住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
4	課題1 「女性が考える理想住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-1】
5	課題1 「女性が考える理想住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
6	課題1 「女性が考える理想住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
7	課題1 「女性が考える理想住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-2】
8	課題1 「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田
9	課題1 「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田
10	課題1 「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-3】
11	課題1 「女性が考える理想住宅」	エスキス・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田
12	課題1 「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田
13	課題1 「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-4】
14	課題1 「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田
15	課題1 「女性が考える理想住宅」	エスキス・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田
16	課題1 「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田
17	課題1 「女性が考える理想住宅」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
18	課題1 「女性が考える理想住宅」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
19	課題2 「事務所」	課題説明・資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
20	課題2 「事務所」	資料収集・エスキスチェック・図面作成 担当：山形・阿部・長田
21	課題2 「事務所」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
22	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	課題説明・資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-5】
23	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
24	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
25	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-6】
26	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキスチェック・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
27	建設現場見学会	基礎工事や躯体工事、設備工事などを見学
28	建設現場見学会	基礎工事や躯体工事、設備工事などを見学
29	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキスチェック・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
30	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキスチェック・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
31	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-8】
32	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキスチェック・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
33	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキスチェック・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
34	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
35	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
36	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
37	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
38	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
39	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
40	商業施設士2次試験対策講座	平面図、パース図面作成 担当：山形・阿部・長田
41	商業施設士2次試験対策講座	平面図、パース図面作成 担当：山形・阿部・長田
42	商業施設士2次試験対策講座	平面図、パース図面作成 担当：山形・阿部・長田
43	商業施設士2次試験対策講座	平面図、パース図面作成 担当：山形・阿部・長田
44	商業施設士2次試験対策講座	平面図、パース図面作成 担当：山形・阿部・長田
45	商業施設士2次試験対策講座	平面図、パース図面作成 担当：山形・阿部・長田

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
46	授業ガイダンス・課題4「美術館」	ガイダンス（後期授業目標等）・課題説明・資料収集 担当：山形・阿部・長田
47	授業ガイダンス・課題4「美術館」	資料収集 担当：山形・阿部・長田
48	課題4「美術館」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-1】
49	課題4「美術館」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
50	課題4「美術館」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-2】
51	課題4「美術館」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
52	課題4「美術館」	エスキス・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-3】
53	課題4「美術館」	エスキス・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田
54	課題4「美術館」	エスキス・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-4】
55	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修
56	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修
57	課題4「美術館」	エスキス・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田
58	課題4「美術館」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
59	課題4「美術館」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
60	課題5「RC造（ラーメン）住宅」	課題説明・資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-5】
61	課題5「RC造（ラーメン）住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
62	課題5「RC造（ラーメン）住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-6】
63	課題5「RC造（ラーメン）住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
64	課題5「RC造（ラーメン）住宅」	エスキスチェック・図面作成 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-7】
65	課題5「RC造（ラーメン）住宅」	エスキスチェック・図面作成 担当：山形・阿部・長田
66	課題5「RC造（ラーメン）住宅」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
67	課題5「RC造（ラーメン）住宅」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
68	課題6「建築再生__リノベーション」	課題説明・資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-8】
69	課題6「建築再生__リノベーション」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
70	課題6「建築再生__リノベーション」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
71	課題6「建築再生__リノベーション」	製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
72	課題6 「建築再生_リノベーション」	製図 (CAD) ・ 模型制作 担当：山形・阿部・長田
73	課題6 「建築再生_リノベーション」	製図 (CAD) ・ 模型制作 担当：山形・阿部・長田
74	課題6 「建築再生_リノベーション」 提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
75	課題6 「建築再生_リノベーション」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田

平成30年度

科目名	建築設計製図Ⅳ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 10単位 必修
担当教員	山形 敏明, 阿部 恵利子, 長田 城治			
開講期	通年			
授業概要	建築設計製図Ⅳ前期では、これまでに修得した構造、法規、計画等を踏まえた綿密な各種計画を基に、各自のオリジナリティを表現することを目的とします。後期では4年間の集大成として、卒業設計制作に取り組みます。			
達成目標	①実施設計に結びつく程度の完成度でオリジナル設計ができたか。 ②適切なテーマ設定、計画で卒業設計に取り組むことができたか。 ③計画したスケジュールに沿って卒業設計を完成できたか。			
受講資格	建築デザインコース4年	成績評価 方法	製図及び模型等の課題提出80%、平常点20%（二級建築士試験対策問題含む）	
教科書	『新しい建築製図』学芸出版社			
参考書	課題に対応した参考書を随時紹介します。			
学生への要望	プレゼンテーション能力を高めるよう心掛けてください。			
オフィスタイム	前期：月曜日14：30～16：00 水曜日14:30～16:00 後期：月曜日8：50～10：20 木曜日10:30～12:00 山形・阿部：本館3F No.1 住居学研究室 長田：本館1F No.2 住居学研究室			
自学自習	予習：各課題の内容に従って資料を収集し、設計コンセプトや建築プランを検討すること（1時間） 復習：授業内で指導を受けたことを活かしてエスキスを行い、図面・模型・パネル製作に取り組むこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス、課題1「病院」	ガイダンス（前期授業目標等）・課題説明・資料収集 課題1「病院」についてコンセプトの重要性和設計上の注意点などについて説明する。 担当：山形・阿部・長田※担当教員は最低2名以上で指導する。
2	課題1「病院」	資料収集・エスキスチェック 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田
3	課題1「病院」	資料収集・エスキスチェック 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田
4	課題1「病院」	資料収集・エスキスチェック 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田
5	課題1「病院」	資料収集・エスキスチェック 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田
6	課題1「病院」	資料収集・エスキスチェック 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田
7	課題1「病院」	資料収集・エスキスチェック 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-1】
8	課題1「病院」	資料収集・エスキスチェック 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田
9	課題1「病院」	資料収集・エスキスチェック 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	課題1「病院」	エスキスチェック・製図 (CAD) ・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-2】
11	課題1「病院」	エスキスチェック・製図 (CAD) ・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田
12	課題1「病院」	エスキスチェック・製図 (CAD) ・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田
13	課題1「病院」	エスキス・製図 (CAD) ・模型制作 担当：山形・阿部・長田 要求図面をCADにて作成する。 【二級建築士試験対策1-3】
14	課題1「病院」	エスキスチェック・製図 (CAD) ・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田
15	課題1「病院」	エスキスチェック・製図 (CAD) ・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田
16	課題1「病院」	エスキス・製図 (CAD) ・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-4】
17	課題1「病院」	製図 (CAD) ・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田
18	課題1「病院」	製図 (CAD) ・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田
19	課題1「病院」	製図 (CAD) ・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田
20	課題1「病院」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
21	課題1「病院」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
22	課題2「狭小住宅」	課題説明・資料収集 担当：山形・阿部・長田
23	課題2「狭小住宅」	資料収集 担当：山形・阿部・長田
24	課題2「狭小住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
25	課題2「狭小住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-5】
26	課題2「狭小住宅」	エスキス・製図 (CAD) ・模型制作 担当：山形・阿部・長田
27	建設現場見学会	基礎工事や躯体工事、設備工事などを見学
28	建設現場見学会	基礎工事や躯体工事、設備工事などを見学
29	課題2「狭小住宅」	製図 (CAD) ・模型制作 担当：山形・阿部・長田
30	課題2「狭小住宅」	製図 (CAD) ・模型制作 担当：山形・阿部・長田
31	課題2「狭小住宅」	エスキス・製図 (CAD) ・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-7】
32	課題2「狭小住宅」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
33	課題2「狭小住宅」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
34	課題3「建築で地域活性化」	課題説明・資料収集 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-8】
35	課題3「建築で地域活性化」	資料収集 担当：山形・阿部・長田
36	課題3「建築で地域活性化」	資料収集 担当：山形・阿部・長田
37	課題3「建築で地域活性化」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
38	課題3「建築で地域活性化」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
39	課題3「建築で地域活性化」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
40	課題3「建築で地域活性化」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
41	課題3「建築で地域活性化」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
42	課題3「建築で地域活性化」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
43	課題3「建築で地域活性化」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
44	課題3「建築で地域活性化」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
45	課題3「建築で地域活性化」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
46	授業ガイダンス・課題4「卒業設計」	ガイダンス(後期授業目標等)・課題説明・資料収集 担当：山形・阿部・長田
47	課題4「卒業設計」	資料収集 担当：山形・阿部・長田
48	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
49	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
50	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
51	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
52	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-1】
53	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田
54	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキスチェック・敷地決定 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-2】
55	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修
56	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修
57	課題4「卒業設計」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
58	課題4「卒業設計」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-4】
59	課題4「卒業設計」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
60	課題4「卒業設計」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
61	課題4「卒業設計」中間提出	中間提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
62	課題4「卒業設計」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
63	課題4「卒業設計」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田
64	課題4「卒業設計」	製図(CAD)・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-5】
65	課題4「卒業設計」	製図(CAD)・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田
66	課題4「卒業設計」	製図(CAD)・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-6】
67	課題4「卒業設計」	製図(CAD)・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田
68	課題4「卒業設計」	製図(CAD)・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-7】
69	課題4「卒業設計」	製図(CAD)・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田
70	課題4「卒業設計」	製図(CAD)・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-8】
71	課題4「卒業設計」	製図(CAD)・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田
72	課題4「卒業設計」	製図(CAD)・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田
73	課題4「卒業設計」	製図(CAD)・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田
74	課題4「卒業設計」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田
75	課題4「卒業設計」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田

科目名	職業指導	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択
担当教員	長田 城治		
開講期	後期		
授業概要	職業指導とは、高校生が自己の将来の「進路・職業」を選択できるように援助する教育活動のことである。高等学校において職業指導は、進路指導という名の基に実践され、生徒の進学や就職に関わる事項だけでなく、個々の人生設計や自己の在り方生き方を主体的に創造するための教育活動として重要な役割を担っている。そのためこの科目では、自分自身と職業への理解を促すキャリア教育を実践し、それらの指導力を身につけていくことを目標とする。		
達成目標	①高等学校の進路指導について、地域の事例を把握することができたか。 ②生徒のキャリア発達を促す方策について具体的な例を挙げることができるか。 ③学生自身の人生設計を具体的にプランニングできたか。		
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	①報告書（学外見学報告書など）40% ②課題（模擬面談など）50% ③レポート10%
教科書	特になし 必要に応じてプリントを配布します。		
参考書	特になし		
学生への要望	本授業は、アクティブラーニングの手法を用いて、学生の主体的な活動や意見交換をしながら行うため、遅刻・欠席がないよう注意すること。 事前学修：新聞やニュースなどで取り上げられた建設業界に関する記事を読み、最新の動向についても把握するように努めること。（1時間） 事後学修：授業内の課題やレポートにしっかりと取り組むこと。（1時間）		
オフィスタイム	月曜日8:50～10:20 水曜日14:30～16:00 本館1F No.2 住居学研究室		
自学自習	予習：授業の内容をテキスト等で確認して、疑問点をまとめておくこと（1時間） 復習：授業内容をノート等で復習し、授業で出された課題に取り組むこと。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	「職業指導」15回の授業の概要について講義し、本授業で何を学ぶかを理解する。
2	教職員として基本的な資質	高等学校の教職員として必要な基本的な資質・能力を学ぶ。
3	職業指導から進路指導への転換とその背景	高等学校で実施された職業指導の実践内容を学習し、現在実施される進路指導に転換した歴史的背景を学ぶ。
4	大学入試の現状と問題点	現在の大学入試の方法を学習し、これから変更となる入試制度の概略を理解する。
5	職業観をめぐる諸問題	職業の概念について理解する。
6	家庭や地域と連携・協力した職業指導の実践	開かれた学校づくりを目指して、地域や保護者との連携を図った職業指導の実践方法について学習する。
7	自己理解	自身を理解し、自己PRやES（エントリーシート）を作成する。
8	就職指導慣行と新しい選考方法	従来の就職活動で実施された選考の方法を学習する。
9	工業系高校の進路傾向とその業界研究1	高等学校における進路の傾向を学び、どのような職種を選択し、その業界がどのような特徴を持つのかについて、特徴的な企業を例に出しながら講義を行う。
10	工業系高校の進路傾向とその業界研究2	高等学校における進路の傾向を学び、どのような職種を選択し、その業界がどのような特徴を持つのかについて、特徴的な企業を例に出しながら講義を行う。
11	工業系高校の進路傾向とその業界研究3	高等学校における進路の傾向を学び、どのような職種を選択し、その業界がどのような特徴を持つのかについて、特徴的な企業を例に出しながら講義を行う。
12	職業指導の実践1	授業内で出される課題に取り組み、これまでの授業で得た知識を活かして職業・進路指導の実践を行う。授業内課題に取り組み、まとめた内容について発表を行う。
13	職業指導の実践2	授業内で出される課題に取り組み、これまでの授業で得た知識を活かして職業・進路指導の実践を行う。授業内課題に取り組み、まとめた内容について発表を行う。
14	職業指導の実践3	授業内で出される課題に取り組み、これまでの授業で得た知識を活かして職業・進路指導の実践を行う。授業内課題に取り組み、まとめた内容について発表を行う。
15	職業指導の問題と今後の在り方	少子化による生徒数の減少と情報化社会における職業の多様化に伴い、今後の職業指導に対するスキルは、多くの知識や経験が必要になるであろう。本講義では、これまでの授業内で得た知識を振り返り、今後どのようにして生徒指導、進路指導すべきか課題をまとめ、今後の方策を考える講義を行う。

平成30年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	山形 敏明		
開講期	通年		
授業概要	これまでに学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、研究テーマを指導教員と相談の上決定し、自主的に実験・調査を行い、論文としてまとめる基礎力を修得する。		
達成目標	卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了している。		
受講資格	建築デザインコース3学年	成績評価 方法	毎週のレポート提出並びにプレゼンテーションに対し、評価する。
教科書	適宜、資料配付		
参考書	適宜、紹介する。		
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。		
オフィスタイム	月曜日12:50~14:20、14:30~16:00 住居学研究室		
自学自習	予習 研究指導に基づき、ゼミ発表準備(1時間) 復習 指導に基づく研究、調査(2時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究に関する概論。 研究テーマの設定についての方向性を明確にする。
2	テーマ設定に向けて(1)	研究テーマについての相談。
3	テーマ設定に向けて(2)	研究テーマについての相談。
4	研究テーマ決定	卒研究テーマ(仮)を決定する。
5	論文の書き方について	卒業論文の書き方について解説する。
6	論文の書き方について	卒業論文の書き方について解説する。
7	論文の書き方について	梗概集等の論文の書き方について解説する。
8	既往論文の研究(1)	研究テーマにおける既往論文、先行研究について研究する。
9	既往論文の研究(2)	継続して、既往論文、先行研究について研究する。
10	既往論文の研究(3)	継続して、既往論文、先行研究について研究する。
11	既往論文の研究(4)	継続して、既往論文、先行研究について研究する。
12	研究方法について(1)	研究テーマに沿って、既往研究の研究方法について研究する。
13	研究方法について(2)	継続して、研究テーマに沿った既往研究の研究方法について研究する。
14	研究方法について(3)	研究テーマにおける、研究方法を決定する。
15	研究計画(1)	研究テーマに沿った、研究計画を策定する。
16	研究計画(2)	継続して、研究テーマに沿った研究計画を策定する。
17	研究計画(3)	策定した研究計画の妥当性を検討する。
18	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を開始する。
19	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
20	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
21	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
22	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
23	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
24	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
25	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
26	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
27	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
28	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	プレゼンテーション	これまでの、実験及び調査研究結果について、プレゼンテーションを行い、討論する。
30	実験及び調査研究の評価	卒業研究 I 全般の、研究結果を評価し、改善等を加える。

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	武井 玲子		
開講期	通年		
授業概要	卒業研究は、大学での学修成果を総合化することが目的である。1年目は、卒業研究テーマの絞り込みのために関連論文の収集と読みこみと共に、調査研究の手法（市場調査、インターネット調査、統計解析手法など）や研究論文の書き方（シナリオ、著作権、パソコンの使い方、など）を学ぶ。		
達成目標	①調査研究のシナリオ作成や研究の進め方を学ぶために、先輩の卒業論文、関連の学会誌（日本家政学会誌、など）を多数読みこむ。②自分の卒業論文テーマを多数ピックアップし、オリジナリティー性や社会貢献度、興味・関心など様々な視点から絞り込みを行う。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	研究態度 : 60点 学術的レベル: 40点
教科書	特になし		
参考書	N02被服学研究室所蔵図書		
学生への要望	自分自身の大学での学修の総まとめであることを意識し、自主的に積極的に進めることを期待する。		
オフィスタイム	火曜日（Ⅱ時限）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室		
自学自習	講義以外の時間は、卒業研究の時間と考え、自主的に研究を推進すること。卒研ゼミの時間には、進捗状況の報告を実施できるように心がける。卒研ゼミ時間以外でも指導が必要な時は、相談に応じることができる。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	2年間にわたる卒業研究を実施するための心構え、研究室の使用方法、卒業研究のスケジュール管理について、シラバスや先輩の卒業研究を参考としながら説明する。
2	卒業研究の進め方、卒業論文作成の基本について（1）	卒業研究の進め方と卒業論文作成の基本について学ぶ。 先輩の卒業論文を参考としながら、概要を説明する。 ①研究の基本（論文のオリジナリティー・独創的な研究とコピー） ②テーマの選択と決定
3	卒業研究の進め方、卒業論文作成の基本について（2）	卒業研究の進め方と卒業論文作成の基本について学ぶ。 先輩の卒業論文を参考としながら、概要を説明する。 ①調査方法について 情報源（単行本、文献、インターネット、など）と調査方法 ②引用方法と著作権の問題
4	卒業論文の書き方	卒業論文の書き方の基本を学び、卒業研究を進める方向づけをする。 先輩の卒業論文を参考としながら、概要を説明する。 ①論文構成とそれぞれの書き方 ②引用文献の書き方
5	研究テーマの設定とワードの使い方	研究テーマの設定を模索しながら、論文作成と発表のための技術（ワード）を修得する。
6	研究テーマの設定とエクセルの使い方（1）	研究テーマの設定を模索しながら、論文作成と発表のための技術（エクセル）を習得する。
7	研究テーマの設定とエクセルの使い方（2）	研究テーマの設定を模索しながら、論文作成と発表のための技術（エクセル）を習得する。
8	研究テーマ(案)をパワーポイントで説明	設定した研究テーマについてパワーポイントを用い、テーマ設定の理由、目的について発表する。
9	関連論文の調査の推進	テーマに関連する周辺状況調査（例えば、テーマが「生活者の節水の課題」であれば、地球上の水資源、世界の水事情、生活と水、など）を調査する。その際、自分の設定したテーマで進めることが可能かどうか、視点の変更の可能性、などを考えながら調査を推進する。
10	関連論文の調査の推進	テーマに関連する周辺状況調査を実施する。その際、自分の設定したテーマで進めることが可能かどうか、視点の変更の可能性、などを考えながら調査を推進する。
11	関連論文の調査の推進	テーマに関連する周辺状況調査を実施する。その際、自分の設定したテーマで進めることが可能かどうか、視点の変更の可能性、などを考えながら調査を推進する。
12	関連論文の調査の推進	テーマに関連する周辺状況調査を実施する。その際、自分の設定したテーマで進めることが可能かどうか、視点の変更の可能性、などを考えながら、調査を推進する。
13	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
14	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
15	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
16	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
17	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
18	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
19	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
20	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
21	論文のシナリオの評価・検証	研究室のゼミ生と共に、自分の論文のシナリオについて発表し、お互いに意見交換を実施する。
22	論文のシナリオの評価・検証	研究室のゼミ生と共に、自分の論文のシナリオについて発表し、お互いに意見交換を実施する。
23	論文のシナリオの評価・検証	研究室のゼミ生と共に、自分の論文のシナリオについて発表し、お互いに意見交換を実施する。
24	論文のシナリオの評価・検証	研究室のゼミ生と共に、自分の論文のシナリオについて発表し、お互いに意見交換を実施する。
25	論文シナリオの再構築	次年度に向けて、現時点のシナリオで研究を進められるかどうか検証し、変更あるいは再構築を試みる。
26	論文シナリオの再構築	次年度に向けて、現時点のシナリオで研究を進められるかどうか検証し、変更あるいは再構築を試みる。
27	論文シナリオの再構築	次年度に向けて、現時点のシナリオで研究を進められるかどうか検証し、変更あるいは再構築を試みる。
28	論文シナリオの再構築	次年度に向けて、現時点のシナリオで研究を進められるかどうか検証し、変更あるいは再構築を試みる。その結果を、発表する。
29	研究調査の推進	研究方法に従って、調査研究を推進する。
30	研究調査の推進	研究方法に従って、調査研究を推進する。

平成30年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	安田 純子		
開講期	通年		
授業概要	各自が生活に関して関心を持っていることについて、詳しく調べ、考察していく。探究することのおもしろさを知って研究を進める。		
達成目標	各自が生活に関して関心を持っていることについて、研究を進め、まとめの仕方を学び、発表できるようにし、また、文章で表現できるように仕上げしていく。		
受講資格	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位	成績評価 方法	研究過程（態度・発表準備等）（60%）、発表（10%）、研究論文等まとめ（30%）
教科書	特になし（必要に応じて指示する。）		
参考書	各自その都度必要な文献		
学生への要望	積極的に課題を見つけ、真摯に取り組んでほしい。		
オフィスタイム	前期：月曜日と木曜日の午後 後期：水曜日と金曜日の午後 創学館N o. 1 研究室		
自学自習	課題を見つけ、調べながら次のステップに進む。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	テーマを見つける	興味のあるテーマを探す
2	図書館の使い方	図書館の使い方、資料の探し方
3	テーマを見つける	調べてみたいテーマ探し
4	資料集め	必要な資料の探し方・集め方
5	資料集め	資料を集める
6	資料を読み取る	論文に向けて参考となる資料の読み取り
7	必要資料集め	再び不足資料を探す
8	資料を読み取る	資料中の表やグラフを読み取る
9	論文構想①	論文構想の大枠を考える。
10	論文構想②	論文構想を模索
11	論文構想③	書ける論文のための骨組みの決定
12	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成①
13	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成②
14	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成③
15	プレゼンテーションのため	プレゼンの練習
16	プレゼンテーションのため	プレゼンの練習
17	論文要旨集	論文要旨集作成
18	論文執筆①	論文の書き方
19	論文執筆②	論文執筆
20	論文執筆③	論文執筆
21	添削	論文添削指導
22	添削	論文添削指導
23	追加資料集め	足りない資料など
24	追加資料集め	足りない資料など
25	論文執筆④	論文執筆・添削指導
26	論文執筆⑤	論文執筆・添削指導
27	論文執筆⑥	論文執筆・添削指導
28	論文のまとめ	まとめと確認
29	論文提出用作成	提出原稿と体裁
30	卒研全体のまとめ	全体のまとめ

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	難波 めぐみ		
開講期	通年		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 卒業研究は、大学の学修の集大成として、総合的に学問を捉え、主体的に新たな発想力をもって物事の本質を見極め、学問への探求を忘れず、専門分野での新たな知見を得られるような人材の育成を目指すことを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 Ⅰ. 研究テーマの設定 1、先行研究論文の収集。2、先行調査の分析。3、テーマの設定。Ⅱ. 設定テーマを基に、関連書籍、論文などのデータ収集、解析、分析、経過発表、学生間の討論を行う。</p>		
達成目標	<p>〔到達目標〕 ①論文調査方法を学び、自分にあった方法を理解する。 ②論文の構成を理解する。</p>		
受講資格	特になし。	成績評価 方法	①平常点30%（卒研に取り組む姿勢）、②報告会及び課題提出状況30%、③途中経過状況40%、①～③の総合評価60点以上で単位認定する。
教科書	論文課題に対応し提示。		
参考書	随時案内する。		
学生への要望	<p>1. 指定日に必ず出席すること。 課題を次週までに終わらせる（場合により、話し合いで変更する）。 テーマの選定に努力を惜しまず積極的に望む。</p> <p style="text-align: right;">2. 3.</p>		
オフィスタイム	（前期）木曜日Ⅰ、Ⅱ（9:30～11:30）（後期）金曜日Ⅲ、Ⅳ（12:50～16:00）家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、ゼミ終了後確認して下さい。		
自学自習	<p>予習：関連する分野の新聞記事などをノートにまとめる。また、指定した資料を事前に読みまとめておくこと（1時間） 復習：受講内容や学修した内容などをノートにまとめ論文制作をすすめること（1時間）</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1年間の内容と留意事項
2	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査
3	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査
4	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査
5	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ
6	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ
7	テーマ設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ
8	テーマ設定	第2回から第7回までに行った、先行研究分析から、最も興味関心を持ったテーマを取り上げ、書籍収集、先行研究収集等をし、第10回の討論会準備を行う。
9	テーマ設定	第8回に引き続き、討論会準備を行う。
10	仮テーマにおける討論会	仮テーマをもとに調査をおこなった内容を発表する。討論会形式とする。
11	仮論文テーマにおける討論会	第10回仮テーマにおける討論会をおこない、論文制作が可能か検討。
12	論文テーマ設定	第11回からテーマ選定。第10回において論文テーマの選定に至らなかった場合は、再度調査発表を行い決定する。
13	論文作成方法を学ぶ	文献調査による調査方法とは。
14	論文作成方法を学ぶ	データ分析による調査方法とは。
15	論文作成方法を学ぶ	調査方法を選定し、進め方を決定する。
16	資料収集	調査方法が決定したのち、論文制作に必要な参考資料等の収集を行う。
17	資料収集	第16回同様に資料等の収集を行う。
18	資料分析調査	第16回から17回までに収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。
19	資料分析調査	第18回同様に、収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。
20	資料分析調査	第19回までに行った調査分析から、論文タイトル（サブの有る場合は、サブタイトルも考える）、論文の章立てを考える。
21	資料分析調査	第20回同様に論文タイトル、章立てを行い指導教員に確認を得る。
22	調査及び資料収集	調査方法として、アンケートを希望（必要）とする場合は、アンケート項目の選定を行う。
23	調査及び資料収集	アンケート内容項目の選定、確認が済み次第、アンケート調査に取り掛かる。
24	調査及び資料収集	文系論文制作者は、研究に必要な資料収集に取り組む。書籍に関しては、論文執筆は最低10冊の関連書式に目を通す。また、論文への引用には、細心注意を払い、先行研究及び書籍から論文へ引用する場合は、必ず記載をすることを徹底する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
25	調査及び資料収集	第24回同様に、調査及び資料収集に努める。
26	論文制作	第25回目までに、必要最低限の調査及び資料の収集を行い、章立て通り分類を行う。
27	論文制作	第26回同様に、章立て通り分類を行う。
28	論文制作	章立て通りに分類が終了後、論文執筆に取り掛かる。まずは、はじめに（序）を記載し、第29回までに1度提出をする。
29	論文制作	第28回において提示した、はじめに（序）の添削をおこなう。指導教員の指示に従いながら書き方を学んでいく。修正後再度提出することを繰り返す。
30	論文制作	第29回において、はじめに（序）の添削をおこなった結果を受けて、再度提出した内容の確認をする。以降、春休みを使って資料収集及び論文の制作に取り組み卒業研究Ⅱに向けて準備を整えていく。

平成30年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	通年			
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究は、大学での学修を総合化することを目的としている ・卒業研究 I では、先行研究を調査、分析することで、自身のテーマ・目的を明確にし、テーマに即した研究手法を習得する 			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関する基礎的な知識が理解できている ・テーマに即した研究手法が習得できている 			
受講資格	人間生活学科学生	成績評価 方法	課題70%、経過報告・演習等の発表30%	
教科書	特になし			
参考書	地域福祉情報、月刊福祉 その他、随時紹介する			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉に関するテーマについて、日常生活においても常に意識を持っていることが大切です。 ・自主的に取り組んでください 			
オフィスタイム	前期：月曜日及び金曜日の3時限、後期：木曜日1・2時限 創学館4階No.6 研究室			
自学自習	予習：テーマに関する情報の収集等（1時間） 復習：指導内容の確認（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の意義 ・卒業研究の進め方 ・研究室のこれまでの論文の紹介
2	卒業研究のテーマについて	・学生が問題意識や関心を持っているテーマについてディスカッションを行う
3	卒業研究のテーマについて	・福祉分野の問題や課題について学ぶ
4	研究手法① 文献研究	<ul style="list-style-type: none"> ・文献などの探し方 ・データの収集場所 ・新聞記事の切り抜きと辞書の活用
5	研究手法② 文献研究	<ul style="list-style-type: none"> ・参考文献の活用法 参考文献の読み方 データのまとめ方
6	研究手法③ 文献研究	・文献検索の方法について学ぶ
7	研究方法Ⅳ④ 量的調査	・アンケート調査に関する基本的知識について
8	研究方法⑤ 量的調査	・アンケート調査の方法について
9	研究方法⑥ 質的調査	・面接調査に関する基本的知識
10	研究方法⑦ 質的調査	・面接調査の方法について
11	テーマの検討	・地域における福祉の問題や課題について学ぶ
12	テーマの検討	・地域における福祉の問題や課題の中から関心のあるテーマや問題意識を持っているテーマについてまとめ、発表する
13	先行研究調査	・研究テーマに関する先行研究について調べる
14	研究計画書の作成	・おおよその研究計画を立てる
15	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> ・卒論執筆のための基礎研究 ・随時、進捗状況を報告する
16	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究
17	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究
18	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究
19	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究
20	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究
21	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究
22	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究
23	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究
24	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究
25	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究
26	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究
27	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究
28	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	基礎研究	・ 卒論執筆のための基礎研究
30	基礎研究	・ 卒論執筆のための基礎研究 ・ 4年次に向け、研究計画を再検討する

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	石原 正道		
開講期	通年		
授業概要	卒業研究の内容は物理・情報に関する研究のみならず、計量文献学・応用統計など非常に多岐に渡ります。卒業研究Iでは主に研究を進めるための基礎的な知識と技術を得ることを目的とします。テーマによって異なりますが、統計処理・数的な処理(数式の演算)・プログラミングなどを学ぶこととなります(建築デザインコース向けの研究では数式は扱うものと考えてください)。		
達成目標	卒業研究では(1)問題を発見する力を養うこと、(2)課題を解決するために、資料を収集し、考察を行い、結論を導く力を得ること、(3)結論を伝達するための、論理的な文章の作成力・発表技術を身につけること、を養成することを目標とします。卒業研究Iでは、これらの目標を達成するための基礎的な知識と技術を得るため、(1)必要な資料の収集と内容の把握ができること、(2)数的な処理および統計処理により適切な推論ができること、(3)大量のデータを処理するために必要なプログラミングができること、を目標とします。		
受講資格	なし	成績評価 方法	研究を進める上で必要となる基礎的な知識と能力の習得状況により判定します。具体的には、(1)必要な資料の収集と内容の把握ができること、(2)数的な処理および統計処理により適切な推論ができること、(3)大量のデータを処理するために必要なプログラミングができること、を均等(1/3)に評価し成績とします。ただし研究テーマによって(1)から(3)で不必要な項目がある場合は、不必要な項目を除いた残りの項目を均等に評価します。
教科書	適宜提示する。		
参考書	適宜提示する。		
学生への要望	卒業研究を完了するには自学自習する必要があります。目標を明確にし自学自習を進めてください。 次のページも研究室選択の材料としてください。 http://home.koriyama-kgc.ac.jp/~m_isihar/sotsuken.html		
オフィスタイト	前期 月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 木曜日 12:50-14:20, 情報処理教育研究室 後期 月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 火曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		
自学自習	事前学習：次回に学修する内容および前回の授業で指摘された点について文献等にあたり、内容を把握しておくこと。(90分) 事後学習：学修した内容の確認・整理を行うこと(60分)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	研究テーマの設定	卒業研究として行う研究テーマとしてどのようなものが可能であるか提示し、卒業研究のテーマについて相談・決定していきます。
2	研究テーマの設定	卒業研究として行う研究テーマとしてどのようなものが可能であるか提示し、卒業研究のテーマについて相談・決定していきます。
3	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
4	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
5	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
6	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
7	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
8	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
9	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
10	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
12	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
13	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
14	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
15	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
16	基礎事項習得状況の確認	卒業研究前半の基礎事項習得状況を確認します。
17	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。
18	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。
19	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。
20	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。
21	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
22	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
23	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
24	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
25	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
26	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
27	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
28	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
29	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
30	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。また必要に応じて、更に文献を収集していきます。

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	堀 琴美			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] このゼミでは、学生にとって身近な問題意識や「知りたい」気持ちを大切にテーマ設定を心がけています。堀の専門は臨床心理学なので、指導可能な内容は、虐待関連問題、施設の相談支援の在り方、女性の生き方や家族の問題、大学生の友人・恋愛・家族関係、電子メディアとメンタルヘルス、各種意識調査など。			
達成目標	[授業修了時の達成課題（到達目標）] 3年次は、周辺の問題を俯瞰しながら、漠然としたテーマをどんどん絞り込んでいき、4年次の少し前にはテーマが設定される（仮タイトルができる）ことが目標です。そのための文献探索、資料あつめ、先行研究の把握がこのゼミの主な柱となります。			
受講資格	なし	成績評価 方法	ゼミにおける調査・発表内容（30%）、3年終了時「研究計画」の具体性・独自性・論理性等（40%）、文献・資料探索調査努力（30%）	
教科書	テーマ別に提示			
参考書	テーマ別に提示			
学生への要望	テーマを絞り込む過程では、迷ったり、壁にぶつかったり、戻ったりしながら、1年をかけて自分の知りたいことをクリアカット（明確化）していきます。3年生の主な学習方法は、文献探索。なるべく多くの資料に触れ、良い文献を見つけ出してください。ゼミは定期的に関講しますので、必ず出席してください。			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、木曜日Ⅰ限、臨床心理学研究室			
自学自習	事前学習：ゼミで発表する前には、重要キーワードや重要な概念をよく調べ、トピックや人物を紹介する再にはその背景や歴史的意味などについて説明ができるようにすること。 事後学習：ゼミの中で補足された事柄や、修正が必要になった事柄、反論や問題点の指摘を受けた点などについて、必ずあとで調査し、ノートあるいはレポートにまとめておくこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究ゼミの進め方、卒業研究の発表時期と方法、テーマ設定のプロセスや、3年次に行うことなどについて。
2	仮テーマ設定（1）	自分にとって興味関心のある分野、知りたいこと、掘り下げたいテーマ等について発表または討論し、文献を探す。
3	仮テーマ設定（2）	文献にあたり、調べてきたことを報告・発表する。
4	仮テーマ設定（3）	文献探索の中で分かったことを整理し、もっと知りたいことを探究する。
5	仮テーマ設定（4）	さらに文献探索を続け、対象分野ろその周辺を俯瞰し、キーワードを整理する。
6	仮テーマ設定（5）	文献探索を重ねながら、研究目的を絞り込んで、焦点化する。
7	論文の書き方（1）	論文とは何か。論文のスタイルについて（文章の書き方、主語述語、言葉の定義、構成、要約、謝辞についてのポリシーなど）。
8	論文の書き方（2）	論文とは何か。論文のルールについて（引用方法と盗用、一次資料二次資料、個人情報保護、守秘義務と開示の了承など）。
9	論文の書き方（3）	論文とは何か。いろいろな分野・スタイル・手法の論文を見て、テーマ設定の方法や研究のプロセスを吟味し、論文のイメージを収集していく。
10	資料の探し方（1）	図書館の使い方（文献複写のルール、資料請求、貸し出しルール、貸し禁の資料など）
11	資料の探し方（2）	資料検索エンジン、政府省庁公開資料、自治体公開資料など
12	研究方法（1）	量的分析について（統計資料、アンケート調査、統計処理、初歩的な統計概念など）
13	研究方法（2）	質的分析について（事例研究、構造化・半構造化面接の方法、記述式データの分類・分析方法など）。
14	研究方法（3）	文献レビュー、メタ分析について
15	進捗報告Ⅰ	ここまで調べてきた内容をレポートにして報告する。
16	文献探索（1）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
17	文献探索（2）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
18	文献探索（3）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
19	文献探索（4）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
20	文献探索（5）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
21	先行研究の調査（1）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
22	先行研究の調査（2）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	先行研究の調査（3）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
24	先行研究の調査（4）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
25	先行研究の調査（5）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
26	研究テーマの決定（1）	研究目的、仮説、研究方法を構成する。
27	研究テーマの決定（2）	データの収集方法（アンケート、インタビュー、新聞記事収集等）、収集内容を決定する。
28	研究テーマの決定（3）	データ収集の具体的準備（施設見学やインタビューの対象選定、調査依頼、質問紙・面接票・分類表などの作成）と作業計画。
29	研究テーマの決定（4）	タイトル（仮）の決定。データ収集の開始。
30	レポート報告	タイトル（テーマ）、目的、仮説、調査方法などのアウトラインと次年度計画の発表または報告する。

平成30年度

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	通年			
授業概要	2年次までに学んだ建築学と個々人の将来を見据えて、興味ある卒業研究テーマを決定する。			
達成目標	研究方法やその進め方、各種分析の方法を把握し、論文構成や文体を学ぶ。			
受講資格	建築デザインコース3年生	成績評価 方法	①自主性・積極性などの取り組む姿勢50% ②研究報告・発表50%	
教科書	資料を配布する。			
参考書	個々に指導・提示する。			
学生への要望	様々な論文を読み、積極的に調査をすすめること。また、建築に関わることに問題意識を持つこと。			
オフィスタイム	住居学研究室 月曜IV時限 (14:30~16:00) 水曜IV時限 (14:30~16:00)			
自学自習	先行研究を読み、調査をすすめる (毎週3時間)。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	今後のゼミの進め方	研究テーマ決定の際に研究の目的や、独自性、研究結果の仮設が重要であることについて解説する。
2	研究方法について	研究の目的によって、研究方法が多数あることを事例を踏まえて述べる。
3	研究の時間配分	限られた時間の中で研究を達成する為に、研究に要する時間の配分について、各々が考えることを促す。また、この作業が社会に出てからの仕事にも重要であること述べる。
4	章立てについて	予め論文の章立てをすることにより、全体を把握することの重要性について述べる。
5	アンケート調査について	アンケート調査の質問方法について、事例を用いて説明する。質問方法によって回答を導くことの弊害等についても述べる。また、SD法の質問による統計処理について説明する。
6	統計処理 1	統計処理の利点と弊害について述べる。続いてアンケート調査に必要な単純集計の手法について述べる。
7	統計処理 2	クロス集計の手法と意義について述べる。
8	統計処理 3	SD法による調査における、相関関係、相関係数について説明する。
9	統計処理 4	エクセルを用いて因子分析の意味と手法を学ぶ。
10	統計処理 5	例題を与えて因子分析の分析結果を読む学習を行う。
11	統計処理 6	エクセルを用いて主成分分析の意味と手法を学ぶ。
12	統計処理 7	例題を与えて主成分分析の分析結果を読む学習を行う。
13	研究テーマの模索 1	興味のある研究テーマについて考える。
14	研究テーマの模索 2	引き続き、興味のある研究テーマについて考える。
15	研究テーマの決定 1	個々に研究テーマを決定する。
16	先行研究の調査 1	研究の独自性が最も重要であることから、先行研究の調査が必要であることを述べ、先行研究に親しむことを促す。
17	先行研究の調査 2	決定した研究テーマに関する先行研究の調査を進める。
18	先行研究の調査 3	引き続き、先行研究の調査を進める。
19	先行研究の調査 4	引き続き、先行研究の調査を進める。
20	研究方法決定	テーマに対する有効性を検討し、研究方法を決定する。
21	論文構成の検討	論文全体の構成を考える。
22	論文の章立て	論文の章立てについて検討する。
23	研究テーマ発表	個々に研究テーマ・研究方法・章立てについて発表し、その有効性について討論する。
24	研究テーマの決定 2	前回のテーマに関して、改善点を検討する。以後、個人指導とする。
25	研究計画と資料収集 1	研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。
26	研究計画と資料収集 2	継続して、研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。
27	調査研究と資料収集 3	研究計画の基づき、調査研究を開始する。また、テーマに沿った資料を収集する。
28	調査研究と資料収集 4	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。
29	調査研究と資料収集 5	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。
30	研究経過報告	これまでの作業を振り返って、来年度の論文完成に向けての予定を立てる。

平成30年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	廣野 正子		
開講期	通年		
授業概要	これまでの学修や体験、また専門的な知識・技術を基に自らの疑問を明らかにして、研究テーマを確定する。		
達成目標	自らのテーマに対して、その答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得することができる。 1. 明確にしたい解決すべき現象・問題などを絞り込み、研究課題を決定する。 2. 研究目的を明らかにする。 3. 研究目的にそって研究計画をたてる。 4. 研究計画にそってデータを収集し、分析を行う。		
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題50%、経過報告・演習等の発表50%
教科書	随時、印刷物の配布		
参考書	授業内で随時紹介		
学生への要望	疑問をどのようにもつのか、そのプロセスを認識して主体的に発表すること。		
オフィスタイム	・水曜日 I 時限 ・木曜日 I 限 創学館 4階 No.1 研究室		
自学自習	予習：テーマに関係した課題について、情報収集からアセスメントおよび考察までを毎回実施して発表の準備を行うこと(2時間) 復讐：発表時の質疑を受けて、さらに調査し理論的に整理しておくこと(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究の意義、進め方について学ぶ。
2	テーマ設定に向けて (1)	研究テーマの設定についての方向性を明確にする。
3	テーマ設定に向けて (2)	学生が関心を持っている研究内容についてディスカッション
4	論文の書き方 (1)	卒業論文の書き方について解説する。 ・論文のきまり ・引用文献 ・専門用語の定義のしかた
5	論文の書き方 (2)	文献の必要性 ・文献などの探し方 ・データの収集方法 ・新聞記事の切り抜きと辞書の活用
6	論文の書き方 (3)	参考文献の活用法 ・参考文献の読み方 ・データのまとめ方
7	研究手法について (1)	量的研究 ・アンケート調査に関する基本的知識について
8	研究手法について (2)	量的研究 ・アンケート調査の方法について
9	研究手法について (3)	質的研究 ・面接調査に関する基本的知識
10	研究手法について (4)	質的研究 ・面接調査の方法について学ぶ
11	テーマ設定に向けて (3)	研究テーマを決定する。
12	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。
13	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。
14	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。
15	研究計画 (1)	研究テーマに沿った、研究計画を策定する。
16	研究計画 (2)	研究テーマにおける、研究方法を決定する。
17	研究計画 (3)	策定した研究計画の妥当性を検討する。
18	調査内容の検討	調査内容の検討及び調査項目の作成
19	調査内容の検討	調査内容の検討及び調査項目の作成
20	研究の実施	研究計画に基づき、調査を実施する。
21	研究の実施	研究計画に基づき、調査を実施する。
22	研究の実施	研究計画に基づき、調査を実施する。
23	研究の実施	研究計画に基づき、調査を実施する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
24	情報処理	データのとりまとめ
25	情報処理	データのとりまとめ
26	情報処理	データのとりまとめ
27	情報処理	データの分析
28	情報処理	データの分析
29	情報処理	データの分析
30	研究計画の確認	4年次にむけ、研究の進捗状況を確認する

平成30年度

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	ダニエル ホーナー			
開講期	通年			
授業概要	A. Express succinctly research themes and personal career information. B. Demonstrate comprehension of terminology for career choice. C. Write terminology and career information in contemporary formats.			
達成目標	1. The main objective is to improve all four skills (reading, writing, listening and speaking) pertaining with a focus on persuasive expression of your skills and abilities. 2. Learn how to self-evaluate all four skills as they relate to careers, and then learn ways to improve your own abilities. 3. Express concise and correct information about prospective companies and employers.			
受講資格	大3年	成績評価 方法	1. Participation and Attitude (10%) 2. Demonstration of Four Skills in Research (40%) 3. Documents and Reports (50%)	
教科書	(none)			
参考書	Documents produced by students and instructor, Daniel O. Horner.			
学生への要望	1. Please keep all appointments and research deadlines. 2. Conduct and continue research on a daily basis. 3. Stay ahead of schedule; avoid procrastinating!			
オフィスタイム	Regular Research Hours, Monday and Wednesday 5th Period (16:10 ~ 17:40), and by Appointment, 創学館 4F No.3 研究室.			
自学自習	Advisable to partake in research and self-study every day. At least 1 hr. of preparation is necessary before each lesson, and at least 1 hr. of review is necessary after each lesson. Each task completed should be thoroughly checked and confirmed by the student and professor.			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Guidance	Preliminary Guidance.
2	Guidance	Second Guidance Session.
3	Preliminary Research	Discussion of preliminary research.
4	Preliminary Research	Continued discussion of preliminary research.
5	Defining Objectives	Define the objectives for the first semester of the year.
6	Defining Objectives	Define the objectives for the second semester of the year.
7	Research Themes	Brainstorm potential research themes to be completed.
8	Additional Research Themes	Brainstorm more potential research themes to be completed.
9	Career Objectives	Correlate research themes to career objectives.
10	Career Objectives	Continue to correlate research themes to career objectives.
11	Career Terminology	Plan the initial research report on career terminology.
12	Additional Career Terminology	Submit the initial research report on career terminology.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	Career Parameters	Define in-depth career parameters and related themes.
15	Career Parameters	Define additional in-depth career parameters and related themes.
16	Report on Parameters	Write and submit the rough draft of report on career parameters.
17	Report on Parameters	Submit the final document of the report on career parameters.
18	Initial Consultation of Four Skills	Have the initial consultation on ways of improving the four main skills needed for career success.
19	Consultation on Listening Skills	Have the initial consultation on ways of improving listening as related to career choice and success.
20	Consultation on Speaking Skills	Have the initial consultation on ways of improving speaking as related to career choice and success.
21	Consultation on Reading Skills	Have the initial consultation on ways of improving reading as related to career choice and success.
22	Consultation on Writing Skills	Have the initial consultation on ways of improving writing as related to career choice and success.
23	Report on Four Skills	Submit the rough draft of research conducted on the four skills needed for success in careers.
24	Report on Four Skills	Submit the report on the four skills needed for success in careers.
25	Current Technologies	Consultation on current technologies and the impact they have on the ever-changing job market.
26	Research Current Technologies	Conduct research on current technologies that pertain to the student's career choice.
27	Report on Current Technologies	Report on current technologies that pertain to the student's career choice.
28	Consultation on Final Research Report	Consult with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the previous year.
29	Consultation on Final Research Report	Continue consultation with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the previous year.
30	Final Research Report	Submit the final, cumulative research report. Report includes a comprehensive summation of research conducted throughout the year and decisive conclusions on the student's career choices.

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修	
担当教員	長田 城治			
開講期	通年			
授業概要	建築に関連する歴史的な建物および都市に関するテーマで卒業研究を行う。 2年次までに学んだ建築に関する知識を活かし、ゼミ内で実施する各種調査活動に参加することで、自身が興味ある卒業研究テーマを決定する。 具体的な課題を通して、研究方法やその進め方、各種分析の方法を習得し、論文の書き方を習得する。			
達成目標	①各種調査活動に参加し、自身が興味を持つテーマを設定する。 ②先行研究を調査し、自身のテーマの新規性を把握する。 研究テーマにおいて、自身の研究が「対象」・「視点」・「方法」のうち、どの部分が新しいのかを把握して、研究目的を執筆すること。 ③論文の書き方を習得すること。			
受講資格	建築デザインコース3年生	成績評価 方法	提出課題80%、作業姿勢や対応20%	
教科書	資料を配布する			
参考書	個々に指導する			
学生への要望	積極的に調査活動をすすめること。関連する様々な論文を読破し、建築に関わることに問題意識を持つこと。			
オフィスタイム	通年：月曜日 8：50～10：20 木曜日 8：50～10：20 本館1F No.2 住居学研究室			
自学自習	予習・復習：自身の課題を整理し、ゼミで指導を受けた内容を基に研究を進めること。（各1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	卒業論文作成のための手引き1	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。 1. 論文とレポート・報告の違いについて 2. 論文に必要な新規性を有すには 対象・視点・方法
2	卒業論文作成のための手引き2	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。 1. 先行研究の探し方と要点の把握について
3	卒業論文作成のための手引き3	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。 1. 文章の書き方について 2. 資料の収集方法について
4	実地課題1	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
5	実地課題2	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
6	実地課題3	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
7	実地課題4	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
8	実地課題5	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
9	実地課題6	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
10	実地課題7	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
11	実地課題発表	機器を用いて実地課題をビジュアルに発表します。
12	文献・史料課題1	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
13	文献・史料課題2	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
14	文献・史料課題3	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	文献・史料課題4	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
16	文献・史料課題5	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
17	文献・史料課題6	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
18	文献・史料課題7	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
19	文献・資料課題発表	機器を用いて文献・資料課題をビジュアルに発表します。
20	テーマ設定のための基礎調査1	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行う。
21	テーマ設定のための基礎調査2	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行う。
22	テーマ設定のための基礎調査3	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行う。
23	テーマ設定のための基礎調査4	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行う。
24	テーマ設定のための基礎調査5	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行う。
25	卒業論文テーマ発表	これまでの調査・検討内容を踏まえ、研究の目的と方法について発表する。 これから行う卒業研究が対象・方法・視点のうち、どの点に新規性を有すのか、他の研究との比較を通して発表する。
26	先行研究の整理と研究計画の決定1	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。
27	先行研究の整理と研究計画の決定2	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。
28	先行研究の整理と研究計画の決定3	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。
29	先行研究の整理と研究計画の決定4	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。
30	先行研究の整理と研究計画の決定5	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。

平成30年度

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	近内 直美			
開講期	通年			
授業概要	・大学での学修の総まとめとして、興味あるテーマをもとに卒論のテーマを決定していく。			
達成目標	・テーマに関する知識を習得する。 ・テーマに即した研究の手法を取得し、自己の研究についてふさわしい手法を習得する。			
受講資格	人間生活学科学生	成績評価 方法	課題70%、経過報告・演習等の発表30%	
教科書	特に無し			
参考書	随時紹介			
学生への要望	・社会福祉に関心を持ち、国施策や地方自治と住民の生活との関連性を意識し、課題に気づいてください。 ・自主的に取り組んでください			
オフィスタイム	前期：月曜日Ⅲ時限・Ⅳ時限、後期：月曜日Ⅰ・Ⅱ時限 創学館4階No.6研究室			
自学自習	予習：テーマに関する情報の収集等（1時間） 復習：指導内容の確認（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・卒業研究を進めるうえで必要な方法を知る。 ・卒業研究の全体像をイメージし、方向性を検討する。
2	卒業研究のテーマ設定について1	・卒業研究に関連した論文を読む。 ・学生が関心を持っているテーマについて関連した情報を得、知識を増やす。
3	卒業研究のテーマ設定について2	・研究テーマに関連した課題や検討事項について考える。
4	論文の書き方について1	・文献などの探し方について学ぶ。 ・データの収集の仕方について学ぶ。
5	論文の書き方について2	・参考文献の活用について学ぶ。 ・データの活用について学ぶ。
6	論文の書き方について1	・参考文献を活用する。
7	論文の書き方について2	・アンケート調査に関する基本的知識について学ぶ。
8	論文の書き方について3	・アンケート調査の方法について学ぶ。
9	論文の書き方について4	・アンケート調査の方法について学ぶ。
10	論文の書き方について5	・その他調査の方法について学ぶ。
11	テーマの検討1	・論文のテーマを検討する。
12	テーマの策定2	・論文のテーマを決定する。
13	研究方法の策定	・研究テーマに沿った研究方法を策定する。
14	研究計画書の作成1	・研究計画を検討する。
15	研究計画書の作成2	・研究計画を策定する。
16	既往論文の研究1	・既往論文、先行研究について研究する。
17	既往論文の研究2	・既往論文、先行研究について研究する。
18	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。
19	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。
20	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。
21	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。
22	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。
23	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。
24	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。
25	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。
26	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。
27	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。
28	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。
29	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。
30	研究の実施	・研究の中間評価を行い、改善点を見直す。

平成30年度

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	大泉 由美			
開講期	通年			
授業概要	これまでの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決めたうえで、先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につける。そして論文執筆方法を習得・体得する。			
達成目標	①明確にしたい、または解決したい問題などをとりあげ、研究テーマを決めたか。 ②先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につけることができたか。			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題50%、経過報告及び発表50%	
教科書	必要に応じて資料を配付			
参考書	授業内で随時紹介			
学生への要望	1. 主体性を持って参加すること 2. 途中経過を報告すること			
オフィスタイム	水曜 I 限 木曜 I 限 場所：創学館 4 階No.2 研究室			
自学自習	事前学習：テーマについて文献や調査を基に検討すること（1時間） 事後学習：授業での内容を踏まえて、テーマについてまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1. 卒業研究の意義、進め方について 2. 今後のスケジュールの検討
2	卒業論文の書き方（1）	・卒業論文の書き方についての解説
3	卒業論文の書き方（2）	・文献の探し方、データの収集について
4	卒業論文の書き方（3）	・参考文献の活用方法（1）
5	卒業論文の書き方（4）	・参考文献の活用方法（2）、データのまとめ方
6	研究テーマ設定（1）	1. 研究テーマの検討 2. 研究テーマへの批判
7	研究テーマ設定（2）	1. 研究テーマの検討 2. 研究テーマへの批判
8	研究テーマ設定（3）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
9	研究テーマ設定（4）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
10	研究テーマ設定（5）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
11	訪問調査（1）□	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
12	訪問調査（2）	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
13	訪問調査（3）	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
14	訪問調査（4）	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
15	中間まとめ	1. 研究テーマの仮報告 2. スケジュール確認
16	研究テーマの決定	1. 研究テーマの決定
17	資料収集・分析（1）	1. 資料収集 2. 資料分析
18	資料収集・分析（2）	1. 資料収集 2. 資料分析
19	資料収集・分析（3）	1. 資料収集 2. 資料分析
20	資料収集・分析（4）	1. 資料収集 2. 資料分析

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
21	資料収集・分析（5）	1. 資料収集 2. 資料分析
22	資料収集・分析（6）	1. 資料収集 2. 資料分析
23	資料収集・分析（7）	1. 資料収集 2. 資料分析
24	資料収集・分析（8）	1. 資料収集 2. 資料分析
25	資料収集・分析（9）	1. 資料収集 2. 資料分析
26	卒業論文執筆の事始め（5）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
27	卒業論文執筆の事始め（6）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
28	卒業論文執筆の事始め（7）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
29	中間報告（1）	1. 論文執筆状況の報告 2. 今後のスケジュール
30	中間報告（2）	1. 中間報告の批判 2. 研究スケジュールの検討

平成30年度

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修
担当教員	山形 敏明		
開講期	通年		
授業概要	卒業研究Ⅰで決定した研究テーマについて、これまで学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、自主的に実験・調査研究を行い、論文としてまとめ、プレゼンテーションを行う。 また、大学で学んだことの集大成であるとともに、実社会での仕事の基礎となる部分も多いので、自主的かつ積極的に取り組むことが必要である。		
達成目標	卒業研究Ⅰで決定した研究テーマについて、これまで学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、自主的に実験・調査研究を行い、論文としてまとめ、プレゼンテーションを行う。 また、大学で学んだことの集大成であるとともに、実社会での仕事の基礎となる部分も多いので、自主的かつ積極的に取り組むことが必要である。		
受講資格	建築デザインコース4年	成績評価 方法	研究への取り組み姿勢、レポート提出期限の厳守、卒業研究中間発表及び卒業研究発表会での発表を総合的に評価する。
教科書	特に指定しない。		
参考書	適宜、紹介する。		
学生への要望	自ら問題意識をもち、計画的に実験や調査を行いデータをまとめる能力やまとめた成果を発表する能力を身につけるよう努力す		
オフィスタイム	月曜日12:50~14:20、14:30~16:00 住居学研究室		
自学自習	事前学習：実験・調査内容の整理、データの入力、解析等(2時間) 事後学習：指導を受けた後のデータ解析、論文作成など(2時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	最終学年に向けて、卒業研究の意義を再確認し、卒業研究Ⅰでの進捗状況の発表を行う。
2	研究計画の妥当性	卒業研究Ⅰでの研究計画について、その妥当性を再検討する。
3	論文構成(1)	論文作成に向けて、論文構成を行う。
4	論文構成(2)	論文構成の妥当性を確認する。
5	実験・調査の継続(1)	実験・調査を継続する。
6	実験・調査の継続(2)	実験・調査を継続する。
7	実験・調査の継続(3)	実験・調査を継続する。
8	実験・調査の継続(4)	実験・調査を継続する。
9	実験・調査の継続(5)	実験・調査を継続する。
10	実験・調査の継続(6)	実験・調査を継続する。
11	実験・調査の継続(7)	実験・調査を継続する。
12	実験・調査の継続(8)	実験・調査を継続する。
13	実験・調査の継続(9)	実験・調査を継続する。
14	中間発表の準備(1)	中間発表に向けて、研究成果の確認と発表準備。
15	中間発表の準備(2)	プレゼンテーション用の構成を行う。
16	中間発表の準備(3)	プレゼンテーション内容の確認を行う。
17	中間発表の準備(4)	中間発表の練習。
18	実験・調査内容の再確認	中間発表での指摘及び指導に対して、今後の研究内容の追加等について確認する。
19	実験・調査の継続(10)	追加実験及び調査研究の確認を踏まえて、実験・調査を継続する。
20	実験・調査の継続(11)	実験・調査を継続する。
21	実験・調査の継続(12)	実験・調査を継続する。
22	実験・調査の継続(13)	実験・調査を継続する。
23	実験・調査の継続(14)	実験・調査を継続する。
24	実験・調査の継続(15)	実験・調査を継続する。
25	実験・調査の継続(16)	実験・調査を継続する。
26	プレゼンテーション	実験・調査結果のプレゼンテーションを行う。
27	論文の仮提出	卒業研究論文の仮提出。
28	本発表の準備	卒業研究本発表に向けた、発表内容の確認を行う。
29	本発表	本発表と論文の仮提出を行う。
30	論文提出	卒業研究論文の提出。

平成30年度

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修
担当教員	武井 玲子			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究は、大学での学修成果を総合化することを目的としている。 1年目（3年生）は、卒業研究テーマの絞り込みを目標としつつ、卒業研究の基本的な進め方や研究方法（文献調査、インターネット調査、市場調査、統計解析手法など）や研究論文の書き方（シナリオ、著作権、パソコンの使い方、など）を修得してきた。 2年目（4年生）は、絞り込んだテーマのシナリオに沿って研究を推進し、10月の中間報告会、1月の最終報告会での発表、仮論文提出、最終的な卒業論文を完成させ冊子として提出するスケジュールで進める。			
達成目標	1年目に修得した研究の基本的な進め方により研究を推進し、10月開催の中間報告会、1月開催の最終報告会での発表と仮論文提出に続き、最終的な卒業論文を完成させ冊子として提出する。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	研究態度 : 30点 学術的レベル : 70点	
教科書	特になし			
参考書	N02被服学研究室所蔵図書			
学生への要望	自分自身の大学での学修の総まとめであることを意識し、自主的に積極的に進めることを期待する。			
オフィスタイム	火曜日（Ⅱ時限）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室			
自学自習	講義以外の時間は、卒業研究を推進すること。卒研ゼミ学生同士あるいは同級生との卒研テーマに関する議論を深めることは有用であり、積極的に実施すること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究Ⅱの1年間のスケジュールの確認と研究を進めるにあたっての心構え、などの説明を行う。
2	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
3	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
4	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
5	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
6	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
7	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
8	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
9	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
10	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
11	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
12	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
13	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
14	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
15	研究調査の継続と論文作成・中間報告会の準備	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。 中間報告会の準備も合わせて実施する。
16	研究調査の継続と論文作成・中間報告会の準備	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。 中間報告会の準備も合わせて実施する。
17	研究調査の継続と論文作成・中間報告会の準備	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。 中間報告会の準備も合わせて実施する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
18	研究調査の継続と論文作成・中間報告会の準備	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。 中間報告会の準備も合わせて実施する。
19	中間報告会の予行と発表	パワーポイントを用いて、持ち時間内で発表できるように繰り返し練習をし本番に臨む。 質疑応答対策も合わせて実施する。
20	研究調査の継続と論文作成	中間報告会でいただいた質疑応答やご意見内容は論文に反映させ、論文の完成をめざす。
21	論文作成・最終報告会の準備	論文作成と最終報告会のパワーポイント原稿を作成する。
22	論文作成・最終報告会の準備	論文作成と最終報告会のパワーポイント原稿を作成する。
23	論文作成・最終報告会の準備	論文作成と最終報告会のパワーポイント原稿を作成する。
24	卒業論文発表会の予行と発表、卒業論文仮提出	パワーポイントにて時間内で卒業論文発表を行えるように練習し、本番に臨む。 発表でいただいた質疑応答、ご指導点はメモをしておき、必要に応じて調査研究を実施して最終論文に反映させる。また、この時点までに作成した論文を指定時間・指定場所に仮提出する。
25	卒業論文仮提出後チェック	仮提出論文の最終チェックを行い、追加修正する。
26	卒業論文仮提出後チェック	仮提出論文の最終チェックを行い、追加修正する。
27	卒業論文製本印刷	製本化に向けて印刷作業を実施する。
28	卒業論文製本印刷	製本化に向けて印刷作業を実施する。
29	卒業論文製本発注納品受理	製本された論文の最終チェックを行う。
30	製本化した卒業論文を提出	指定時間までに論文を提出し、最終審査を受ける。

平成30年度

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修
担当教員	難波 めぐみ			
開講期	通年			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 卒業研究は、大学での学修の集大成として総合的に学問をみつめ、そこから、新たに創意工夫しようとする自主的な取り組みが出来るようにすることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 3年次の進捗状況から、更に調査分析を進め、中間発表の手法を学ぶ。また、1月の本発表に向けての発表手法や論文の完成を目指す。</p>			
達成目標	<p>[到達目標] ①論文構成を理解し、論文を完成させる。 ②PCを活用しての発表方法を学ぶ。 ③発表原稿の作成を通して、表現する力を身につける。</p>			
受講資格	特になし。	成績評価 方法	<p>①平常点（主体的な取り組み状況）30点 ②中間・本発表状況 30点 ③論文の完成度 40点 ①～③の総合評価60点以上で合格とする。</p>	
教科書	特になし。論文課題に対応し資料配布。			
参考書	随時紹介。			
学生への要望	論文制作は、主体的な取り組みが重要となる。決められた日程問わず、常に前向きに取り組み、理解が困難な場合などは、次週にまわさず進んで質問できるように努力する。			
オフィスタイム	（前期）火曜日Ⅱ、水曜日Ⅳ、（後期）水曜日Ⅳ、金曜日Ⅲ、Ⅳ 家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、ゼミ終了後確認して下さい。			
自学自習	<p>予習：関連記事を新聞などで探し、疑問点や課題を抽出する。（1時間） 復習：事前学修や授業で調べた内容を、ノートにまとめ論文作成をすすめること。（1時間）</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	論文制作	3年次の資料収集及び分析調査結果を踏まえ、論文の作成方法を学ぶ。
2	論文制作	論文の章立てを行い、執筆をスタートさせる。
3	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ
4	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ
5	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ
6	論文制作	執筆した内容を提出し添削。執筆指導後、執筆を進める。
7	論文制作	執筆を進める。随時添削。
8	論文制作	途中経過報告会及び討論会
9	論文制作	執筆を進める
10	中間報告の内容を決める	中間報告会での報告内容を決める
11	中間報告の準備	目的、方法、結果（途中経過）の記入方法を学ぶ
12	中間報告の準備	第11回で学んだことを活かして、目的、方法、結果（途中経過）を記入提出
13	中間報告の準備	第12回に提出した発表原稿の指導内容をもとに、修正後提出
14	中間報告の準備	発表ppの制作方法を学ぶ
15	中間報告の準備	中間報告要旨集の制作方法の提示。発表PPの制作に取り掛かる。
16	中間報告の準備	中間報告要旨集の制作。生活総合コースは、中間発表までにタイトル及びサブタイトルの提出となるので、最終タイトル及びサブタイトルを決定する。
17	中間発表の準備	タイトル及びサブタイトルの決定。中間報告の原稿及びPP準備。
18	中間発表の準備	中間報告の原稿及びPP準備。原稿の提出及び添削、修正。来週完成を目指す。
19	中間発表の準備	中間報告の原稿及びPP準備。ゼミ生同士で発表の練習を行い、より良い発表方法を学んでいく。
20	発表終了後の反省報告会	中間発表会を終えて、今後の進め方や反省などを学生及び教員間で確認をする。
21	論文制作	中間発表会での指摘や指導やアドバイスを受けて、論文修正などを行っていく。
22	論文制作	12月上旬をめどに、論文の完成を目指す。
23	論文制作	各章ごとに、論文執筆状況を提出し確認を受ける。
24	論文制作	論文執筆状況を提出確認完了後、修正に入る。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
25	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨原稿の制作方法を学び、目的・方法・結果に分けて記入する（提出添削）
26	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨原稿の修正。来週完成を目指す。
27	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨集原稿の完成を目指す。
28	論文制作及び本発表準備	最終論文の制作に取り組みながら、本発表の原稿及びPPの制作を行う。
29	論文制作及び本発表準備	最終論文の制作に取り組みながら、本発表の原稿及びPPの制作を行う。
30	論文制作	論文提出方法を学ぶ。

平成30年度

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活 学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総 合コース 4年 4単位 必修
担当教員	熊田 伸子			
開講期	通年			
授業概要	・卒業研究は、大学での学修を総合化することを目的としている			
達成目標	・卒業研究Ⅱでは、10月末の発表会で報告し、2年間の成果として論文をまとめる			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	報告・発表30%、論文70%	
教科書	特になし			
参考書	随時プリントを配布する 適切な論文を適宜紹介する 地域福祉情報、月刊福祉等を参考とする			
学生への要望	・研究計画に沿って、主体性を持って進めてください			
オフィスタイム	前期：月曜日及び金曜日の3時限、後期：木曜日の1～3時限 創学館4階 No.6 研究室			
自学自習	予習：テーマに関する文献を読む。調査を行った場合、分析を行う。(2時間) 復習：指導に沿って、まとめる。(1時間～2時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	演習	・テーマに即した内容を調べ、発表し、ディスカッションを行う
2	研究計画書の作成	・研究計画書を作成する ・論文の構成を考える
3	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う
4	論文の作成	・テーマに関連する研究会等に参加する
5	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う
6	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う
7	論文の作成	・テーマに関連する社会資源について調べる
8	論文の作成	・テーマに関連する社会資源について調べる
9	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
10	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
11	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
12	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
13	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
14	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
15	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
16	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
17	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
18	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
19	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
20	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
21	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
22	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成
23	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成
24	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成
25	発表	・卒業研究発表会で発表する
26	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる
27	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる
28	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる
29	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる
30	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修
担当教員	堀 琴美			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 卒業研究Ⅰ（3年次）で作成した研究計画に沿って、調査を行い、データを処理し、論文を書いています。このゼミでは、心理学的手法（アンケート調査、統計処理、個人インタビュー、集団討論等）を使って研究する方法も必要に応じて指導します。			
達成目標	[授業修了時の達成課題（到達目標）] ①論理的で分かりやすい文章を丁寧に書き上げること。 ②研究のために必要な良質な文献を見つけ出し、十分に読み込んでいること。 ③調査やデータ処理を適切に行い、誠実な態度で結果の考察を行っていること。 ③引用の約束事を理解し、引用・参考文献の書き方を習得していること。 なお、福祉コースの学生は、他のコース学生よりも3か月早い10月末に本発表が行われますので、この時期までに論文の完成を目指します。			
受講資格	なし	成績評価 方法	論文の完成度（テーマ、構成、調査力、文章力、独自性、発想力、論理性、データ処理、文献資料の質と量など）（80%）、発表会への参加態度（10%）、ゼミの参加態度（10%）	
教科書	テーマ別に提示			
参考書	テーマ別に提示			
学生への要望	4年生は、定期的にゼミに出席して、研究の進捗を報告してください。そして、毎回のゼミで次の目標を設定し、コツコツと作業を積み上げていきましょう。進め方（計画作成）は、国家試験対策や就活とも合わせて、ひとりひとり自分で作ってもらいます。なるべくはやい時期から書き始めるようにしてください。			
オフィスタイム	火曜Ⅰ限、水曜Ⅳ限 臨床心理学研究室			
自学自習	事前学習：ゼミで発表する前には、重要キーワードや重要な概念をよく調べ、トピックや人物を紹介する際にはその背景や歴史的意味などについて説明ができるようにすること。 事後学習：ゼミの中で補足された事柄や、修正が必要になった事柄、反論や問題点の指摘を受けた点などについて、必ずあとで調査し、ノートあるいはレポートにまとめておくこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	論文作成タイムスケジュールを作成する。
2	テーマやアウトラインの確認	仮タイトル、研究目的、仮説、研究方法、データ収集の進捗などを確認する。
3	データ処理（1）	アンケートデータの回収・集計・分類、あるいはインタビューデータの文字起こしなど
4	データ処理（2）	アンケートデータの回収・集計・分類、あるいはインタビューデータの文字起こしなど
5	データ処理（3）	アンケートデータの回収・集計、あるいはインタビューデータの文字起こしなど
6	データ処理（4）	アンケートデータの分類、統計処理、あるいはインタビューデータの再構成・記述など
7	データ処理（5）	アンケートデータの分類、統計処理、あるいはインタビューデータの再構成・記述など
8	データ処理（6）	アンケートデータの分類、統計処理、あるいはインタビューデータの再構成・記述など
9	データ処理（7）	集計結果の表し方、グラフの作成、あるいは事例の表記法、年表、ジェノグラムの書き方など
10	データ処理（8）	集計結果の表し方、グラフの作成、あるいは事例の表記法、年表、ジェノグラムの書き方など
11	考察（1）論文の執筆（1）	データの分析結果から考察を行う。
12	考察（2）	データの分析結果から考察を行う。
13	考察（3）	データの分析結果から考察を行う。
14	考察（4）	データの分析結果から考察を行う。
15	考察（5）	データの分析結果から考察を行う。
16	論文の執筆（1）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
17	論文の執筆（2）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
18	論文の執筆（3）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
19	論文の執筆（4）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
20	論文の執筆（5）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
21	論文の執筆（6）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	中間発表（または本発表）	発表用データ作り（要旨作成、プレゼンテーション用資料作成）
23	論文の執筆（7）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす。
24	論文の執筆（8）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす
25	論文の執筆（9）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす
26	論文の執筆（10）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす
27	論文の仕上げ（1）	引用文献の記載方法を確定し、そのルールに従って丁寧に文献表記を行う。
28	論文の仕上げ（2）	用語や訳語の統一、表・グラフ等の表記ルールに従った記載、引用文献の表記法、内容のチェックなど。
29	論文の仕上げ（3）	発表用データ作り（要旨作成、プレゼンテーション用資料作成）
30	本提出	完成した論文を最終チェック。特に27回、28回めの時に学んだチェックポイントを再点検し、誤字脱字、全体の統一性、さらに落丁のないことを確認して提出する。

平成30年度

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修
担当教員	廣野 正子		
開講期	通年		
授業概要	研究テーマに関しての疑問に対して、調査を実施し考察することで自らの答えを導き出す。		
達成目標	研究テーマに対する答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得すること。 1. 研究計画にそってデータを収集し調査、分析を行う。 2. 研究によって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成し、口頭発表を行う。		
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題70%、発表30%
教科書	随時、印刷物の配布		
参考書	授業内で適宜紹介する		
学生への要望	諦めないで、研究をやり遂げること。		
オフィスタイム	・水曜日 I時限 ・木曜日 I時限 創学館4階 No.1研究室		
自学自習	予習：テーマに関係した課題について、情報収集からアセスメントまでを毎回実施して発表の準備を行うこと（2時間） 復讐：発表時の質疑を受けて、さらに調査し理論的に整理しておくこと（1時間） □		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	調査内容の検討及び作成	調査内容の検討及び調査項目の作成
2	調査内容の検討及び作成	調査内容の検討及び調査項目の作成
3	調査依頼及び集計	調査依頼
4	調査依頼及び集計	調査結果の集計
5	調査依頼及び集計	調査結果の集計
6	調査内容のまとめ及び考察	調査結果の集計及び考察
7	調査内容のまとめ及び考察	調査結果の集計及び考察
8	調査内容のまとめ及び考察	調査結果の集計及び考察
9	調査内容のまとめ及び考察	調査結果の集計及び考察
10	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成
11	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成
12	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成
13	卒業論文の作成	卒業論文の作成
14	卒業論文の作成	卒業論文の作成
15	卒業論文の作成	卒業論文の作成

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修
担当教員	長田 城治		
開講期	通年		
授業概要	建築に関連する歴史的な建物および都市に関するテーマで卒業研究を行う。研究の意義や目的意識をしっかりと持ち、4年間の集大成としての論文をまとめることにより文章力や分析力を養う。		
達成目標	①客観性のある分析と論理的な文章構成を習得し、卒業論文を製作する。 ②地域に貢献に寄与する研究を実施し、研究成果を地域に公表および還元すること。		
受講資格	建築デザインコース 4年生	成績評価 方法	論文完成度80% 研究への取り組み20%
教科書	適宜、資料を配布する		
参考書	特になし		
学生への要望	研究に対する目的意識や問題意識をもつこと。 論理的に考察する能力や順序立てて説明するプレゼンテーション能力を身につけるよう努力すること。		
オフィスタイム	通年：月曜日8：50～10：20 木曜日8：50～10：20 本館1F No.2 住居学研究室		
自学自習	予習・復習：自身の課題を整理し、ゼミで指導を受けた内容を基に研究を進めること。（各1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	テーマ決定	卒業論文のテーマを明確にし、研究活動をはじめると共に、10月の中間発表、1月の本発表にむけた研究計画を策定する。
2	先行研究の整理1	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
3	先行研究の整理2	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
4	先行研究の整理3	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
5	先行研究の整理4	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
6	先行研究の整理5	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
7	進捗状況発表1	研究目的を明確にすることを目的に、口頭発表を行う。自身の研究の新規性のある部分について、先行研究と比較しながらまとめ、何をどんな方法で明らかにするのか、研究の骨子となる部分を明瞭にする。また、これまでの進捗状況を整理し、今後の研究計画について発表する。
8	調査活動1	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
9	調査活動2	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
10	調査活動3	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
11	調査活動4	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
12	調査活動5	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
13	調査活動6	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
14	調査活動7	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
15	進捗状況発表2	調査などで得られた情報を整理し、今後の研究計画について発表する。
16	進捗状況発表3	夏季休暇中に行った内容について発表する。
17	プレゼンテーション作成	中間発表会に向けたプレゼンテーションを作成する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
18	中間発表練習	中間発表に向けた練習を行う。
19	研究計画の整理1	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。
20	研究計画の整理2	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。
21	論文の執筆1	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
22	論文の執筆2	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
23	論文の執筆3	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
24	論文の執筆4	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
25	進捗状況発表4	これまでの進捗状況について発表する。
26	論文の執筆5	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
27	論文の執筆6	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
28	論文の執筆7	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
29	発表練習	本発表に向けた発表練習を行う。
30	本発表と論文投稿	本発表に向けて、発表データを作成し、投稿にむけて論文を完成させる。

平成30年度

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修
担当教員	近内 直美		
開講期	通年		
授業概要	・大学での学修の総まとめとして知識の統合化を図り、卒論のテーマを決定し研究を進める。		
達成目標	・テーマに沿って研究方法を学び、研究を進め論文にまとめる。		
受講資格	人間生活学科学生	成績評価 方法	、経過報告・演習等の発表30%、論文70%
教科書	特に無し		
参考書	随時紹介		
学生への要望	・研究テーマを明らかにし自主的に、計画的に論文の作成に取り組んでください。		
オフィスタイム	前期：月曜日Ⅲ時限・Ⅳ時限、後期：月曜日Ⅰ・Ⅱ時限 創学館4階No.6 研究室		
自学自習	予習：テーマに関する情報の収集等（1時間） 復習：指導内容の確認（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	研究計画書の見直しを行い、発表に向けた研究計画を策定する。
2	先行研究の資料の収集 1	テーマに即した先行研究を整理する。
3	先行研究の資料の収集 2	テーマに即した先行研究を整理する。
4	資料を理解する	テーマに即した先行研究を理解し、卒業研究のテーマに基づきディスカッションを行う。
5	資料の収集	論文作成に向けた資料を集める。
6	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。
7	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。
8	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。
9	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。
10	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。
11	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。
12	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。
13	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。
14	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。
15	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。
16	論文の作成	社会資源の収集・調査資料の分析を行う。
17	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。
18	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。
19	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。
20	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。
21	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。
22	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。
23	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。
24	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。
25	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。
26	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。
27	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。
28	論文の作成	発表の準備を行う。
29	論文の作成	論文の追加・加筆・修正を行う。
30	論文の提出	論文の追加・加筆・修正を行い最終提出をする。